

「群馬県における介護予防サポーター育成による  
介護予防意識の普及とその効果の研究」

群 馬 県  
介護予防サポーター育成調査  
報 告 書

平成20年3月

群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会

協力

群馬リハビリテーションネットワーク

## はじめに

平成 19 年度老人保健健康増進等事業に「群馬県における介護予防サポーター育成による介護予防意識の普及とその効果の研究」が採択された。これを受け、群馬県では、介護予防サポーター育成調査検討委員会を設置し、介護予防サポーターや育成・活用に関わる関係者を対象に調査を行い、その結果を本報告書にまとめた。なお、調査は群馬リハネットが群馬県からの委託を受けて実施した。

調査は、県内全 38 市町村、全 12 地域リハ広域支援センター、18 年度中級研修を修了した介護予防サポーター1,150 名にアンケート用紙を郵送して実施した。そして、36 市町村、12 の広域支援センター、696 名の中級サポーターより返信を頂き、現状を分析した。

育成事業は、初・中級研修については順調で、余り大きな問題点は指摘されなかった。市町村が独自に行う上級サポーター研修は、18 年度中級研修修了者に対して実施出来たところは9市町村のみで、2市町村が今年度に予定している。

育ったサポーターの活用については、約半数の市町村が活用していて、全サポーターの約4割は実際に活動していた。一方、約4割のサポーターは市町村で活動する場がなく、市町村に活動の場を作ることが今後の課題である。のこり約2割はボランティア活動を行う気がなかった。

中級サポーター研修修了者は 50～70 歳代が9割を占めた。中・上級サポーターの多くは、報酬を抜きにして地域に役立ちたいと考えていた。一方、交通費やボランティア保険は市町村に負担してもらいたいという意見が多かった。

本報告書には、群馬県の介護予防サポーター制度の概要を示すと共に、介護予防サポーターをうまく活用している代表的な5市町の活用例を盛り込んだので、参考にして頂きたい。また、アンケート調査で得た個別の意見をもれなく集録してある。このコメントにはサポーターの育成・活用に役立つアイデアがたくさんちりばめられている。宝探しのつもりでお読み頂きたい。

本報告書の内容は、群馬リハネット (<http://www.grn-net.com/>) や県支援センター (<http://www.grsc.biz/>) のホームページに掲載する予定である。また、ダイジェスト版の群馬県介護予防サポーター育成マニュアルを刊行する予定である。これもホームページからダウンロードできるようにしたい。

群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員長  
山口晴保

# 《目 次》

## 群馬県介護予防サポーター育成調査報告書

I	報告書の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	これまでの経緯と調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・	5
III	調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
IV	地域リハ広域支援センター育成事業担当者 調査結果・・・・・・・・	13
	<広域支援センター育成事業担当者アンケートのまとめと考察>・・・・・・・・	23
V	平成18年度介護予防サポーター中級研修修了者 調査結果・・・・・・・・	25
	<介護予防サポーターアンケートのまとめと考察>・・・・・・・・	117
VI	市町村介護予防サポーター育成担当者 調査結果・・・・・・・・	119
	<市町村介護予防サポーター育成担当者アンケートのまとめと考察>・・・・・・・・	142
VII	介護予防従事者研修会における調査概要報告と事例発表・・・・・・・・	143
	事例1 前橋市・・・・・・・・・・・・・・・・	144
	事例2 吉井町・・・・・・・・・・・・・・・・	146
	事例3 草津町・・・・・・・・・・・・・・・・	148
	事例4 桐生市・・・・・・・・・・・・・・・・	150
	事例5 吉岡町・・・・・・・・・・・・・・・・	152
VIII	資料 アンケート用紙・・・・・・・・・・・・・・・・	155
	地域リハ広域支援センター介護予防サポーター育成事業担当者アンケート・	155
	平成18年度介護予防サポーター中級研修修了者アンケート・・・・・・・・	159
	市町村介護予防サポーター育成担当者アンケート・・・・・・・・	166
	群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会名簿・・・・・・・・	173

# I. 報告書の概要

群馬県では、平成 18 年度から、介護予防サポーターの育成を始めた。それまでに地域リハビリテーション支援体制として整備した県内 12 か所の地域リハビリテーション広域支援センター（広支セ）に研修を、また県支援センターに教材開発を委託した（詳細はⅡ章）。平成 19 年度に、18 年度に実施した介護予防サポーター育成について調査を実施した（Ⅲ～Ⅵ章）。さらに、県内 5 市町村の介護予防サポーター活用事例を報告書に盛り込んだ（Ⅶ章）。本報告書によって、群馬県が進めてきた介護予防サポーター制度の全貌や問題点、今後の方針が捉えられよう。

## 1. 調査の概要

### 1) 地域リハ広域支援センターの調査結果概要

群馬県内の広支セ12か所すべてから回答を得た。

広支セの立場では、平成18年度の介護予防サポーター育成事業は概ね順調に進み、予算も妥当で、市町村との連携や役割分担も良好だった。

研修内容については概ね良好だが、初級と中級の研修内容を整理・区分する必要性や、研修教材に関しては最新のデータを使用し、専門用語をわかりやすい言葉に変え、イラストを多くして欲しいという指摘があった。初・中級研修は、全県下で同一の内容を定めているが、市町村の意向を汲んで内容を一部変更して研修を行う必要もあろう。さらに、研修終了者に対するフォローアップ研修の必要性も指摘された。

広支セの61%が、市町村は介護予防サポーターをうまく活用しているにとらえている。しかし、平成18年度に育てた介護予防サポーターが地域に役立っていると回答した広支セは5割だった。これは市町村によっては介護予防サポーターの表だった活動がまだ少なく、介護予防事業の補助的な業務や協力にとどまっていることが原因と考えられる。

平成20年度以降も9の広支セが介護予防サポーターの育成事業に携わっていききたいと答え、11の広支セが今後も市町村の介護予防事業に継続して協力したいと答えた。介護予防サポーター育成の意向がない、サポーターを育成したいが活用が思い浮かばないなど介護予防サポーターの育成に対して市町村に温度差があることを広支セの過半数が感じ、その解消に取り組んでいた。

広支セは市町村の意向に沿って研修を実施する役割を担っている。従って、市町村が介護予防サポーターの育成・活動について明確なビジョンを持つかが、今後の成否の鍵となろう。今後も広支セには、市町村との連携を深め、育成したサポーターが地域で活躍できるよう、フォローアップ研修などを支援していくことが望まれる。

### 2) 介護予防サポーター中級研修修了者の調査結果概要

介護予防サポーターの基本属性は、60歳代を中心に50～70歳代が9割近くを占め、83%が女性、57%は介護経験があり、67%はボランティア経験があった。毎日働いている方は23%で日によって働く方と合わせると約半数を占めた。介護予防サポーター研修への参加理由は7割が自分のためと答えた。中級研修の受講を決めたときには7割が介護予防サポーターとして活動する考えがあった。

初・中級研修については、84%の参加者が「満足」「やや満足」との受け止めだった。初級は7割、中級は6割の参加者が研修内容を理解できていた。そして、58%の人が中級研修で学んだことを自らの生活で実践していた。中級研修は、内容・時間を増やしたものを望む声が多い。特に、認知症予防と運動・筋トレ、地域づくりの要望が高かった。学んだ知識が活動にとても「役立つ」と「やや役立つ」が6割弱を占めた。「活動していない」「活動の場がない」ために役立たないという評価もあった。

上級研修に参加したのは中級研修修了者の2割である。そのなかの6割が「満足」と「やや満足」

の受け止めだった。しかし、「研修にただ参加しているだけ」、「サポートしているだけ」という記述もあり、上級研修に対する物足りなさを感じとれる。

現在、介護予防サポーターとして活動している人は中級研修終了者の37%であった。活動していない56%の方のうちの8割は活動したいと思っており、市町村に活動の場がないことがその理由だった。活動している人の多くは月2～3回の活動頻度だった。今後も活動したくない人は「気力や体力がもたない」「暇がない」を理由としてあげていた。介護予防サポーターとして活動したい領域は「運動・筋トレ」が8割と多く、皆と一緒にいけるところが良さと考えられる。7割の介護予防サポーターが今後の活動に不安を抱えており、84%が市町村や地域包括の事業に参加したいと考えていた。不安を抱えつつも参加意欲は高い。

報酬は無償でも良いが、交通費は負担してもらいたいという意見が多い。そしてボランティア保険は8割が自治体の負担を希望した。報酬を抜きにして地域に役立つことを生きがいにしたいと考える方が多い。

介護予防サポーターは介護予防のことを知りたい気持ち強い。手伝いだけでなく、サポーター活動を楽しみながら自分の存在意義を見いだしたい希望がある。アンケートの記述では学びたい項目が20以上あがっている。今回のアンケート結果を元に、各地域で介護予防サポーター同士が話し合いをもてば、活動のアイデアがたくさん出てくるだろう。それを地域で介護予防事業に結びつける力量が市町村に求められる。

活動意欲の高い介護予防サポーターが県内で多数誕生している。このマンパワーをいかに活用するかは、市町村にかかっているが、介護予防サポーターも受け身で指示を待つばかりでなく、積極的に自分達から市町村に働きかけて自主活動拠点を形成し、継続した活動に結びつけて頂きたい。

### 3) 市町村の調査結果概要

群馬県内38市町村中36市町村から回答を得た。市町村の介護予防サポーター育成担当者によると、初・中級研修を実施する広支セとの連携や役割分担について6割が「良い」と答えた。8割の広支セが介護予防サポーター育成に対する市町村の意向を把握できていたと答えた。

平成18年度の初・中級研修は概ね市町村の意向に沿った研修ができていた。初・中級研修に使用した教材は83%が適切と受け止めていた。研修の問題点として、初級は内容が盛りだくさんすぎる、研修内容は介護予防のガイドラインのみとしボランティアとしての心構えや役割も盛り込んで欲しいなどの意見があった。中級は実技を主体とし、認知症サポーターの養成も考慮して欲しいという提言があった。

上級研修は平成19年度までに11市町村で行われている。すでに3市町村が修了証の発行者を自治体の長と決めている。上級研修は介護予防事業のサポート活動が多かった。上級研修に何を取り入れるかが介護予防サポーターの方向性を決める。市町村の独自性をだす上級研修の運営が50%近くの市町村でうまくいっていない。市町村独自のプログラムなので市町村の体制や職員の意向などに大きく左右される点が問題であろう。

53%の市町村が育てたサポーターを活用していた。特定高齢者介護予防教室、筋トレ教室、サロン活動のサポート役などで活躍している。介護予防サポーター活動は、現状では費用削減、人手不足の支援、高齢者とのコミュニケーションや介護予防のPRに役立っている。先駆的な市町村では介護予防サポーターが介護予防教室の企画に参加し始めている。一方で、現状では介護予防サポーターを活用できない市町村が42%あり、理由として活動の場がない、活動の場が作れない、既存の事業にどのように介護予防を組み入れるか検討が不足していると答えている。しかし、自主グループに育てたいと考えている市町村は97%にのぼった。介護予防サポーターを中心としたサロン活動を実施している市町村は10あった。

介護予防サポーターが市町村職員に対して示した活動希望内容には、サロン活動や高齢者の話し相手、サポーターの得意分野を生かしたサークル活動、筋トレや昼食サービス、閉じこもりの支援

等があげられている。

報酬に関しては、75%の市町村が無償だった。ボランティア保険も自治体での加入は4市町村しかなく、個人での保険加入の情報提供をしていない市町村は58%だった。

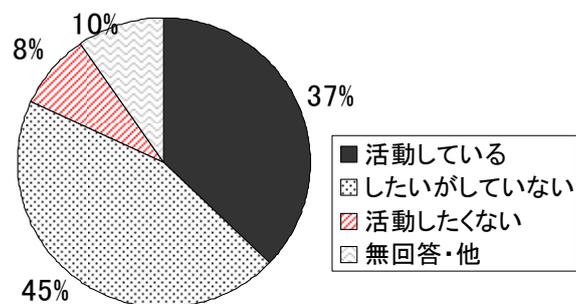
今後、介護予防サポーターを育成するにあたっては、平成18・19年度に各市町村で育った介護予防サポーターの様子を参考に、市町村が介護予防サポーターをどのように活用したいか、そして介護予防サポーターがどのように活動したいか、両者の意見をすりあわせて住民主導の介護予防に取り組むことが望まれる。市町村担当職員のリーダーシップは必要であるが、住民の生活のなかでの介護予防、住民の介護予防に関する要望を探り、住民の意向に沿った住民主導の介護予防が望まれる。各市町村の状況に合った介護予防サポーターを育てることが大切であろう。

#### 4) 調査のまとめ

育成事業は、初・中級研修については順調で、余り大きな問題点は指摘されなかった。市町村が独自に行う上級サポーター研修は、18年度中級研修終了者に対して実施出来たところは9市町村のみで、2市町村が今年度に予定している。介護予防サポーターをどのように活用したいかで研修内容を変えるべきだとの考えで、上級研修の内容を市町村に委ねたが、実施率を上げるにはガイドラインを示すなどの支援が必要と思われる。

約半数の市町村が育成した介護予防サポーターを活用していた。サポーターの約4割は実際に活動している(図)。しかし、約4割のサポーターは活動する場がないので、市町村に活動の場を作ることが今後の課題である。残りの約2割はボランティア活動を行う気がなかったのに研修に参加した人である。大部分の市町村が、サポーターの運営する介護予防の自主グループを育てたいと考えていた。一方、サポーターも6割が自主グループの活動に意欲を持っていた。自主グループの運営には、さらなるスキルアップ研修が必要となる。介護予防サポーターが居住地域で筋トレなどの介護予防をめざした自主グループを運営できるように市町村がフォローアップ研修などで支援することが望まれる。そのためには県支援センターや広支セからの講師派遣などが必要であろう。県支援センターでは、講師バンクも運用している。このような研修の際には利用を検討して頂きたい。また、自主グループの拠点の手配や、サポーターの組織化なども市町村の役割として必要となろう。

中級サポーター研修終了者は50～70歳代が9割を占めた。多くの中・上級サポーターが、無償ボランティア(交通費は支給希望)で地域に役立つよう活躍することを望んでいる。安心して活躍するには、事故に対する保険が不可欠で、市町村にはボランティア保険加入などの支援が望まれる。



## 2. 介護予防サポーター活用事例の概要

5市町村の活用事例を示した。市町村によって、①筋トレの自主グループ、サロンの運営や、サロンでの筋トレ指導者など居住地域での活躍、②市町村の介護予防事業での体力測定の補助、介護予防イベントの手伝いなど市町村全域での活躍、の形でサポーターを活用している。桐生市では、居住地区ごとの介護予防サポーター会、それらを束ねる連絡会を立ち上げてサポーターの組織化を行い、事業展開を計っている。



## Ⅱ. これまでの経緯と調査目的

### 1 群馬県における介護予防サポーター制度について

#### (1) 制度概要

平成18年度の介護保険制度改革により、予防重視型システムへの転換が重要施策の柱の一つに掲げられ、特に介護予防を推進し、地域において誰もが自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的として、地域支援事業が創設された。

「高齢者が自立して尊厳を保ちながら安心して暮らせる地域社会」を創るには、元気高齢者が最大の人材であり、高齢者が自ら介護予防や介護に取り組むという視点が大切であるとともに、それを行政が支えるしくみを構築するということが重要である。

群馬県では、平成18年度より介護予防サポーターの養成に取り組んできた。

これは県独自の認定制度であり、地域で自主的に介護予防の活動を行おうとする方や、市町村等の介護予防事業にボランティアとして活動したい方などを対象に、介護予防に関する知識や技術を身につけていただく研修である。

ボランティア等の人材育成については、地域支援事業の中の介護予防一般高齢者施策である地域介護予防活動支援事業に位置付けられており、本来市町村が取り組むべき役割ではあるが、群馬県では市町村の介護予防事業推進を支援するため、県から地域リハビリテーション広域支援センター<sup>\*</sup>への委託事業として、平成18年度から2年間の予定で、介護予防サポーター養成研修を実施しているところである。

なお、平成20年度以降は、市町村が主体的に介護予防サポーターを養成する予定となっている。

養成された介護予防サポーターについては、①地域の公民館などでの筋トレを中心にした介護予防教室等の自主開催、②市町村が実施する介護予防事業へのボランティアとしての参加、③地域包括支援センターの事業にボランティアとして参画し、特定高齢者のフォローなどの地域活動を行う、などの役割が期待される。

#### (2) 事業化の経緯

研修の実施に際しては、介護予防に関連する各専門職種の協力が必要不可欠であるとともに、地域リハビリテーション推進体制を活用しつつ、市町村及び平成18年度から県内各市町村に設置された地域包括支援センターと連携して実施することで、地域における介護予防推進の展開につなげていくことが重要である。

専門職については、平成17年12月1日に開催された第4回群馬県介護予防推進連絡会議（関係13団体で構成）において、関係団体の協力により取り組むことについて了承を得た。

また、平成18年2月23日に開催された第7回県地域リハビリテーション協議会において、地域リハビリテーション広域支援センターの事業として、平成18年度より介護予防サポーター養成研修を行うことについて決定された。

研修のカリキュラムについては、群馬リハビリテーションネットワーク（群馬県地域リハビリテーション支援センター）に介護予防サポーター研修部会が設置され、群馬大学医学部保健学科の地域貢献事業及び県栄養士会、県歯科衛生士会、日本健康運動指導士会県支部等の協力により、

---

<sup>\*</sup> 群馬県では、地域リハビリテーション支援体制づくりとして、1か所の群馬県地域リハビリテーション支援センター（県支援センター）と12か所の地域リハビリテーション広域支援センターを指定し、平成18年度からは県単独事業として地域リハビリテーションや介護予防に関する事業を委託している。

教材の開発が行われた（平成17年12月21日～平成18年5月24日に5回開催）。

一方、前橋市の協力により、芳賀公民館においてパイロット事業が実施され、初級コース（平成18年2月16日、120人参加）及び中級コース（平成18年2月27日、3月9日、3月16日の3日間、40人参加）を開催した。

### （3）研修内容

介護予防サポーターの区分としては、「初級」、「中級」、「上級」の3段階を設けている。

初級レベルは「介護予防の必要性や方法を理解し、隣人などに広められる。」こと、中級レベルは「介護予防の全般的な知識を身につけ、介護予防事業のサポートができる。」こと、上級レベルは「ボランティア等で経験を積み、地域のリーダーとして自主的活動ができる。」ことと位置付けている。

研修内容については、「初級」は一般高齢者向けに「介護予防の基礎知識」について講義を中心に3時間程度、「中級」は地域活動の希望者向けに「介護予防全般の知識」について講義のほか実技、実習等を含め3時間×3日間程度（例えば、運動（筋トレ）、栄養、口腔ケア、認知症予防、地域づくりの秘訣など）を基本的なカリキュラムとしており、基本的な教材はパワーポイント資料として作成されている。

初級コース及び中級コースの全てを修了した者を「介護予防サポーター」として認定し、県知事名の認定証を交付している。

「上級」については、ボランティアとしての活動参加等が中心であり、活動のニーズは市町村（地域）によって異なることが予想されるため、敢えて統一的なカリキュラムは作成せずに、各市町村が地域の実情に応じて設定することとした。

### （4）実施方法

研修は、県から地域リハビリテーション広域支援センター（12カ所）への委託事業（県単独事業）として実施される（平成18年度及び19年度）が、市町村及び地域包括支援センターとの連携により開催される。

原則として、市町村がどれだけ介護予防サポーターを養成し、どのように介護予防事業の展開を図っていくかの計画に基づき、広域支援センターが研修の実施を計画する。

例えば、研修の実施（日程、会場の確保、講師の選定など）については、地域リハビリテーション広域支援センターで行い、実際に介護予防サポーターの活用を図るのは市町村であることから、受講者の募集については市町村あるいは地域包括支援センターにおいて行い、相互に連携して開催していく形である。

認定証については、広域支援センター又は市町村から中級までの修了者の報告を受け、県介護高齢課において作成し、広域支援センター又は市町村から各受講者に交付する。

なお、初年度である平成18年度は、研修実施に先立ち、県及び群馬リハビリテーションネットワーク（県支援センター）の共催により、群馬会館で「介護予防サポーター養成準備研修会」を開催し、地域リハビリテーション広域支援センター及び市町村担当者に対して研修内容及び実施方法を示し（平成18年6月13日開催、213人参加）、その後圏域別に連絡調整の上、研修を実施した。

## 2 研修実施状況と課題

### （1）実施状況

平成18年度は、9月から19年3月まで、順次各圏域で研修が実施され、県内で1,172人の介護予防サポーター（中級までの修了者）が誕生した。

(初級コース) 20回(20日間)開催 修了者 2,093名

(中級コース) 26回(77日間)開催 修了者 1,172名

なお、平成18年10月1日には、県庁で開催された介護予防推進イベント「華麗に加齢フェスタ2006」と同時に、初級研修を開催し(群馬会館)、265人が参加した。

下の表1に広域支援センターごとの実施状況を示す。また、本章の最後に表2として市町村ごとの育成状況を示したので参考にされたい。

**表1 介護予防サポーター研修実施状況(平成18年度)**

広域支援センター	初級研修 実施回数	初級受講者数	中級研修 実施回数	中級受講者数
前橋	1	69	1	52
高崎一安中(日高)	1	194	4	108
高崎一安中(榛名荘)	2	195	3	110
渋川	1	109	1	46
藤岡	1	116	2	93
富岡	2	154	2	84
吾妻	3	342	3	257
沼田	2	197	3	111
伊勢崎 ※	1	70	2	83
桐生	2	176	2	101
太田	2	100	2	33
館林	1	106	1	94

※ 伊勢崎管轄の玉村町は各地区で行った独自の内容を初級研修としたため、その人数が含まれていない。

## (2) 課題(問題点)

上級サポーターについては、前述のとおり、特に受講時間やカリキュラムは定めず、各市町村の判断で「ボランティア等で経験を積み、地域のリーダーとして自主的な活動ができる」ことを達成レベルとした。

実際に、平成17年度にパイロット事業で先行実施した前橋市では、市町村の介護予防事業のサポートや、自主サークルの立ち上げなど上級サポーターに向けての活動が始まっている。

また、19年度に入ってから、上級者育成に向けての活動も徐々に見られ、いくつかの市町村では中級修了者に対するフォローアップ研修等の取り組みが行われている。

しかし、多くの市町村では、上級サポーター育成についてのガイドラインを定めていないことで、どのように上級サポーターを育成すればよいか手探りの状況が見られ、予想を上回るサポーター認定者をどう活用していけばよいか課題となっており、認定された介護予防サポーター自身にとっても、行政のサポートなしに次の段階への最初のステップを踏み出すのは困難な面がある。

また、研修受託主体である各地域リハビリテーション広域支援センターからも、上級コース研修を実施して欲しいという市町村からの要請に対して、対応に苦慮しており、県レベルでの活動事例集やマニュアルの作成を要望したいという意見などが、平成19年2月15日に開催された第8回県地域リハビリテーション協議会において出された。

このように、介護予防サポーターが今後どのような活動を行っていくか、また、市町村で介護予防サポーターをどのように活用していくかが、課題となっている。

### 3 調査の目的と検討経過

#### (1) 課題への対応

平成19年度、県では、上記の課題に対応するため、高齢者に関する先駆的な取り組みを対象にした「老人保健健康増進等事業」（国庫補助事業、補助率10/10）を活用し、群馬リハビリテーションネットワークと協力して、「群馬県における介護予防サポーター育成による介護予防意識の普及とその効果の研究」と題した事業に取り組むこととした。

事業の目的は、介護予防サポーター制度のカリキュラムや活動の成果を科学的に調査、分析し、介護予防の推進により有効な制度として改善、普及を図り、市町村における介護予防サポーターの活用を支援することであり、そのために今回の調査を実施するものである。

#### (2) 検討経過

調査内容を検討するため、県では、学識経験者、地域リハビリテーション広域支援センター担当者、市町村担当者からなる「群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会」を平成19年9月19日に設置し、群馬大学医学部保健学科の山口晴保教授を委員長として、検討を開始した。

具体的な手順としては、平成18年度介護予防サポーター認定者、各地域リハビリテーション広域支援センター担当者、各市町村担当者にアンケート調査を実施し、結果を報告書にまとめた上で、養成マニュアルを作成し、サポーターの効果的な活用方法について市町村に情報提供を行うものである。

なお、アンケート調査など事業の一部を群馬リハビリテーションネットワーク（群馬県地域リハビリテーション支援センター）に委託して実施することとした。

検討経過は次のとおりである。

- |            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 平成19年9月19日 | 第1回検討委員会                             |
|            | ・趣旨説明、課題・スケジュール確認、調査項目案提示            |
| 10月24日     | 第2回検討委員会                             |
|            | ・アンケート調査案検討                          |
| 11月末～12月下旬 | アンケート調査実施<br>(委託先：群馬リハビリテーションネットワーク) |
| 平成20年1月16日 | 第3回検討委員会                             |
|            | ・調査結果検討                              |
| 2月14日      | 県地域リハ協議会                             |
|            | ・調査概要の説明（対象：地域リハビリテーション関係者）          |
| 3月4日       | 介護予防従事者研修                            |
|            | ・調査概要の説明（対象：市町村及び地域包括支援センター関係者）      |
| 3月12日      | 第4回検討委員会                             |
|            | 以後、年度内に報告書、マニュアルを作成                  |

表2 市町村別高齢者と介護保険費用額並びに介護予防サポーター一修了者数

	人口（人）	高齢者数	高齢化率	介護保険費用額	中級認定	上級
前橋市	318,138	69,837	22.0%	15,591,348,517	50	38
高崎市	342,088	71,615	20.9%	16,312,308,903	165	
桐生市	125,132	33,092	26.4%	8,051,871,251	72	
伊勢崎市	204,081	38,972	19.1%	9,046,955,391	55	
太田市	213,905	39,528	18.5%	8,891,475,508	33	
沼田市	52,280	13,321	25.5%	3,016,349,305	81	49
館林市	78,989	16,151	20.4%	3,694,204,095	3	
渋川市	86,348	21,338	24.7%	4,515,006,067	0	
藤岡市	68,897	15,295	22.2%	3,358,190,855	43	33
富岡市	53,410	13,271	24.8%	3,342,010,677	58	54
安中市	62,309	16,185	26.0%	3,718,447,866	53	
みどり市	51,942	10,788	20.8%	2,493,085,950	29	
富士見村	22,273	4,434	19.9%	997,085,850	1	
榛東村	14,357	2,616	18.2%	551,772,174	0	
吉岡町	18,769	3,544	18.9%	659,640,378	47	
吉井町	24,747	5,764	23.3%	1,211,932,779	27	15
上野村	1,425	600	42.1%	203,438,009	9	
神流町	2,564	1,311	51.1%	314,598,462	14	
下仁田町	9,678	3,699	38.2%	927,496,266	0	
南牧村	2,753	1,533	55.7%	368,649,452	22	
甘楽町	14,103	3,450	24.5%	843,242,090	4	
中之条町	17,197	5,317	30.9%	992,104,590	53	
長野原町	6,356	1,686	26.5%	285,273,973	45	
嬭恋村	10,581	2,840	26.8%	445,813,721	14	
草津町	7,357	2,181	29.6%	336,302,814	33	10
六合村	1,794	596	33.2%	144,427,450	20	3
高山村	4,273	1,235	28.9%	216,977,602	53	
東吾妻町	16,532	5,013	30.3%	977,561,962	39	
片品村	5,243	1,502	28.6%	292,237,713	2	
川場村	4,122	1,566	38.0%	282,850,017	20	11
昭和村	7,769	1,980	25.5%	442,978,524	7	
みなかみ町	22,365	6,856	30.7%	1,571,798,049	1	
玉村町	38,000	5,234	13.8%	1,099,383,741	28	
板倉町	15,909	3,613	22.7%	727,710,540	13	
明和町	11,302	2,367	20.9%	551,797,587	19	
千代田町	11,638	2,419	20.8%	576,734,480	34	
大泉町	41,078	6,015	14.6%	1,408,451,390	2	
邑楽町	27,157	5,091	18.7%	1,081,803,011	23	10
<b>県計</b>	<b>2,016,861</b>	<b>441,855</b>	<b>21.9%</b>	<b>99,543,317,009</b>	<b>1,172</b>	<b>223</b>

- ・「人口」「高齢者数」は、「群馬県の年齢別人口（平成19年10月1日現在、県統計課作成）」より
- ・「介護保険費用額」は、「平成17年度介護保険事業状況報告（年報）、県介護高齢課作成）」より
- ・「中級サポーター認定者人数」は、地域リハ広域支援センター又は市町村からの報告による（平成18年度）
- ・「上級研修修了者数」は、今回の介護予防サポーターアンケート調査結果による。



## Ⅲ. 調査概要

### 1. 調査目的

群馬県では平成 18 年度より「介護予防サポーター」の育成を開始し、地域リハビリテーション広域支援センターに委託して介護予防サポーター初級・中級研修を行った。平成 18 年度は初級受講者 2,093 名、中級受講者 1,172 名が研修を修了した。

本調査は群馬県下で平成 18 年度に中級研修まで修了した介護予防サポーター1,150 名（仕事の参考にするための見学目的の参加者は外した）と育成活用に関わるべき 38 市町村、研修に携わった広域支援センター12 か所にアンケート調査を実施した。

介護予防サポーターの育成は市町村の判断に任されており、介護予防サポーターの特性、研修の実情、その後の活動や効果や問題点についての悉皆調査を行ったことはなく、群馬県下の介護予防サポーターの動きは詳細に把握できていなかった。

そこで平成 18 年度の初級・中級研修の対象者に絞り、介護予防サポーターの特性、介護予防サポーター研修に対する期待、上級研修の内容、介護予防サポーターの活動状況、市町村職員と広域支援センターの職員の関わりと課題、どのような研修や活動が有効であり、その結果、介護予防サポーターの生きがい・地域の介護予防に結びつくかを調査した。

### 2. 調査設計

《調査主体》 群馬リハネット

《集計分析》 群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会

《対象》 群馬県内の

① 平成 18 年度に初級・中級研修を修了した介護予防サポーター1,150 名

※ 仕事の参考にするための見学目的の参加者は外した。

② 38 市町村の介護予防サポーター育成担当者職員

③ 12 地域リハビリテーション広域支援センターの介護予防サポーター研修担当者

《調査期間》 平成 19 年 12 月～平成 20 年 2 月

《調査方法》 郵送配布－郵送回収による横断的調査

### 3. 依頼件数・回収数・回収率

	依頼件数	回収数(件)	回収率(%)
市町村	38	36	95%
広域支援センター	12	12	100%
介護予防サポーター	1150	696	61%

### 4. 調査内容

Ⅷ章 資料 アンケート用紙 に 3 種のアンケート用紙を記した。





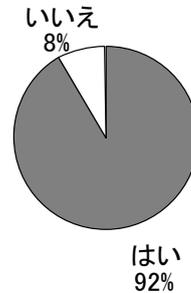
らないと効果がない。

地域の方に介護予防についての知識を広めた。その内容が地域の方の要望と合致している。

養成研修会を行うことにより介護予防の啓発が行われる。

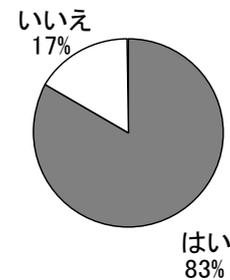
1) 「平成18年度の介護予防サポーター育成は順調でしたか」

	回答数	パーセント
はい	11	91.7
いいえ	1	8.3
合計	12	100.0



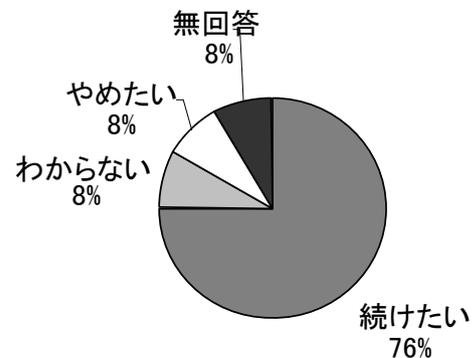
2) 「平成18年度の介護予防サポーター育成のための予算は足りていましたか」

	回答数	パーセント
はい	10	83.3
いいえ	2	16.7
合計	12	100.0



3) 「介護予防サポーターの育成事業について20年度以降どのようにしたいですか」

サポーターの育成	回答数	パーセント
続けたい	9	75.0
やめたい	1	8.3
わからない	1	8.3
無回答	1	8.3
合計	12	100.0



1 サポーターの育成をやめたい具体的な理由

サポーターの数を増やしても、活動に結びつかないとあまり意味がないと思います。現在のサポーターの人達の活動方針を明確にし、土台作りをし、次の養成をしても良いと思います。

## 2 サポーターの育成を続けたい具体的な理由

2年(前橋では3年)の修了者を出しているが、サポーターとして活動できるように支援してきており、ここで終了しては無責任になってしまう。介護予防やリハビリテーションについての一般の方への啓蒙活動として大切だと思う。
圏域内で育成事業が好評であり、継続して欲しい声が多いため。
研修会場周辺地域に参加者が片寄るため、市内各地域で年度毎に研修会場を移していく必要がある。市全域をまわるためには、まだ数年必要。
サポーターの人数を増やさないと効果が現れない。
自治体から要望がある。
市町村の意向
地域連携を確立するために役立つ。地域への貢献ができる。
続けたいとは思っているが市町村の方で育成を望まないと言ってきたところもあり迷うところである。
認定者に対し、認定後研修等を行いたい。

## 具体的な理由 その他

19年度事業における予算的な問題。参加してくれそうな人がまだいそうだから。

主体は自治体となるべきで自治体次第ではないでしょうか。

## 4) 「講師は何人中何人が広域支援センターの職員でしたか」

平成18年度の講師

講師	回答数	パーセント
6人	3	25.0
7人	3	25.0
9人	3	25.0
10人	2	16.7
33人	1	8.3
合計	12	100.0



広域支援センターの職員

広支センター職員	回答数	パーセント
2人	2	16.7
3人	2	16.7
4人	3	25.0
5人	3	25.0
6人	1	8.3
27人	1	8.3
合計	12	100.0

広域支援センター職員(講師担当) ÷ 講師は20~86% 平均54%

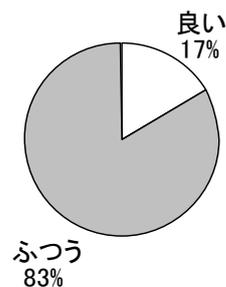
5) 「広域支援センターで対応できない講師はどこにお願いしましたか (複数回答可)」

依頼先	回答数	パーセント
市町村	7	58.3
歯科衛生士会	7	58.3
栄養士会	6	50.0
健康運動指導士会	4	33.3
地域包括支援センター	3	25.0
歯科医師会	2	16.7
講師バンク	1	8.3
医師会	0	0.0
看護協会	0	0.0
理学療法士会	0	0.0
作業療法士会	0	0.0
言語聴覚士会	0	0.0
地域リハ支援施設	0	0.0
社会福祉士会	0	0.0
医療ソーシャルワーカー協会	0	0.0
その他 ※医療機関 1件、 個人的な知り合い 2件	3	25.0

n = 12

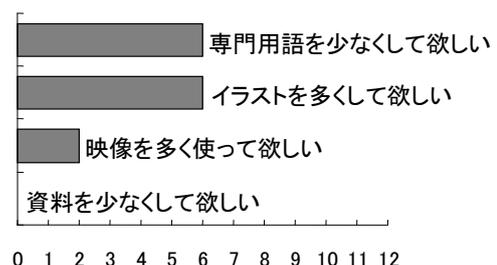
6) 「研修教材の使いやすさはどうでしたか」

	回答数	パーセント
良い	2	16.7
ふつう	10	83.3
合計	12	100.0



7) 「研修教材に改善点がありましたらお願いします (複数回答可)」

改善点	回答数	パーセント
専門用語を少なくして欲しい	6	50.0
イラストを多くして欲しい	6	50.0
映像を多く使って欲しい	2	16.7
資料を少なくして欲しい	0	0.0



n = 12

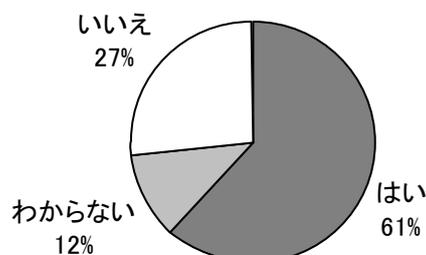
7-5 教材改善点(その他)
データを使う場合は最新のデータを使って欲しい。(群馬県介護保険の現状など)
初級・中級をしっかりとわけて欲しい。初級の内容は一般向けに。 当センターは研修教材をベースにして独自に教材を作り使用している。

8) 「介護サポーター育成事業について改善点がありましたらお願いします」の回答

研修内容の充実(養成する側にとっては負担だが)サポーターがあとどのくらい必要なのか 明確に(いつまでやるのか)
市町村の意識改革。事業について何も知らない市町村の要望に沿ってサポーターを養成するということすら知らない市町村もある。
上級育成のプログラムを作って下さい。
上級ケースを明確にして欲しい。
初級と中級の内容で重なる部分が多いので、初級の内容をもう少し総論的なものに変えてはどうか。(初級受講者の8割が中級も受講しているため)
初級については介護予防を普及啓発するための講演会として、内容をもう少し簡単な一般向けにする。サポーターとして活躍していただく中級参加者は年々少なくなると思われるので、フォローアップ研修者も加える。(内容も一部見直して)
どのような介護予防サポーターを育てたいかどのように活用したいかについて市町村サイドで明確なイメージを持つ必要がある。また養成研修担当の広域支援センターにはきちんとそのイメージを伝えて欲しい。実際にサポーターとして活動できるようになるには研修の受講のみではむずかしく立ち上げまでの継続的な支援が必要なこともある。研修のみでなく、事業にもそのような視点をもつての取り組みが必要。また実際に活動をはじめて下さった方の志気を高めるためにも、フォローアップ研修、スキルアップ研修など行えると良い。

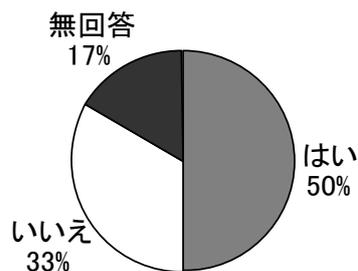
9) 「広域支援センターの立場から見て、平成18年度に育てた介護予防サポーターを市町村はうまく活用していますか ( ) 内に市町村名を記入して下さい」

	回答数	パーセント
はい	16	61.5
いいえ	7	26.9
わからない	3	11.5
総数	26	100.0



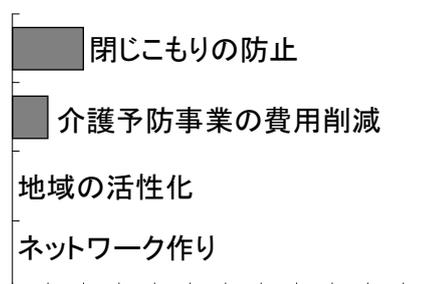
10) 「平成18年度に育てた介護予防サポーターは地域に役立っていますか」

	回答数	パーセント
はい	6	50.0
いいえ	4	33.3
無回答	2	16.7
合計	12	100.0



「1 はい」の場合、地域でどのように役立っていますか (複数回答可)

	回答数	パーセント
閉じこもりの防止	2	16.7
介護予防事業の費用削減	1	8.3
地域の活性化	0	0.0
ネットワーク作り	0	0.0



n = 12 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

## 5 その他の回答

介護予防事業の補助
各地域事業(筋トレ・ミニデイ等)の協力
役立っていく素地はあるが、活動の場の広がり参加人数など限定的

「2 いいえ」の場合、介護予防サポーターが地域に役立っていない理由をお書き下さい  
(複数回答可)

	回答数	パーセント
介護予防サポーターが活動できていない	3	25.0
介護予防サポーターがまだ少人数である	2	16.7
介護予防サポーターの活動が地域に役立つほどではない	1	8.3
その他(回答なし)	0	0.0

n = 12

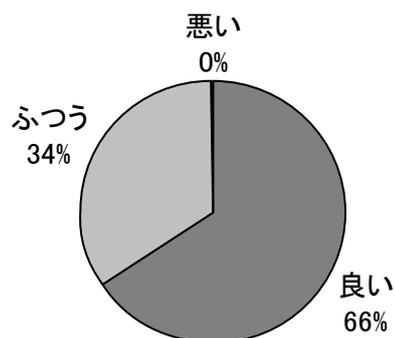
11) 「介護予防サポーター事業を行うにあたり圏域内のどの組織と連携しましたか（複数回答可）」

依頼先	回答数	パーセント
市町村	10	83.3
地域包括支援センター	7	58.3
保健福祉事務所	4	33.3
民生児童委員	3	25.0
老人クラブ	3	25.0
社会福祉協議会	3	25.0
町内会	2	16.7
ボランティア団体	0	0.0
地域リハ支援施設	0	0.0
在宅介護支援センター	0	0.0
趣味サークル	0	0.0
フィットネスクラブ	0	0.0
病院	0	0.0
診療所	0	0.0
福祉施設	0	0.0
その他(記入なし)	0	0.0

n = 12

12) 「本事業を行うにあたり、市町村との連携はどうか（市町村ごとに記入）」

	市町村数	パーセント
良い	21	65.6
ふつう	11	34.3
悪い	0	0.0
計	32	100.0



※広域支援センターと連携が悪い市町村はなかった

12-1 一つの広支と連携が良い市町村数

市町村数	広域支援センター	パーセント
5	1	8.3
4	1	8.3
2	4	33.3
1	4	33.3
無回答	2	16.7
合計	12	100.0

12-2 一つの広支と連携がふつうの市町村数

市町村数	広域支援センター	パーセント
3	2	16.7
2	1	8.3
1	3	25.0
無回答	6	50.0
合計	12	100.0

その他

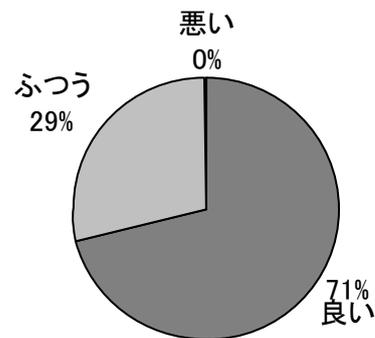
山間部ということもあり、人数集めが大変のようです

館林市はサポーター事業と同じような事業を行っており当センターからも講師派遣をしている

平成18年度は下仁田町では未実施。意向調査時に行わないとのことであった。平成19年度は実施

13) 「本事業を行うにあたり、市町村との役割分担はどうですか（市町村ごとに記入）」

	市町村数	パーセント
良い	22	71.0
ふつう	9	29.0
悪い	0	0.0
計	31	100.0



※広域支援センターと役割分担が悪い市町村はなかった

13-1 一つの広支と役割分担が良い市町村数

市町村数	広域支援センター	パーセント
5	1	8.3
4	2	16.7
2	4	33.3
1	1	8.3
無回答	4	33.3
合計	12	100.0

13-2 一つの広支と役割分担がふつうの市町村数

市町村数	広域支援センター	パーセント
3	1	8.3
2	1	8.3
1	4	33.3
無回答	6	50.0
合計	12	100.0

その他

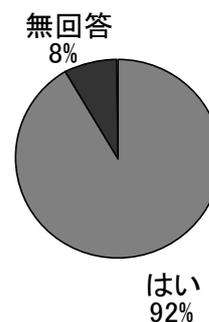
市町村には講師も受けて頂き、関心も高く積極的に行って頂きました。

14) 「市町村がどんな介護予防サポーターを育てたいかの意向を把握できていましたか」

	回答数	パーセント
はい	4	33.3
いいえ	1	8.3
できた市町村とできない市町村があった	6	50.0
無回答	1	8.3
合計	12	100.0

15) 「市町村の介護予防事業に今後も協力していきたいですか」

	回答数	パーセント
はい	11	91.7
無回答	1	8.3
合計	12	100.0



「1 はい」の広域支援センターは、どんな協力をしていきたいですか

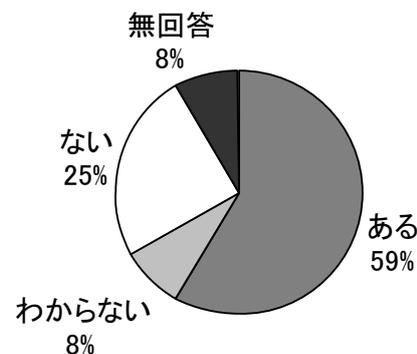
	回答数	パーセント
初・中級研修	9	75.0
講師の仲介	8	66.7
市町村の介護予防サポーター活用への支援	8	66.7
市町村の実施する上級研修への支援	7	58.3

※その他の協力についての記述はなかった。

n = 12

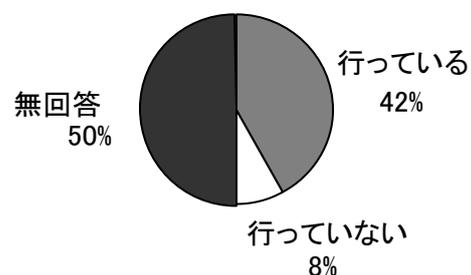
16) 「介護予防サポーターの育成に対し、市町村間に温度差がありますか」

	回答数	パーセント
ある	7	58.3
ない	3	25.0
わからない	1	8.3
無回答	1	8.3
合計	12	100.0



温度差がある広域支援センターでは、圏域内の市町村間の温度差をなくすために何らかの対応を行っていますか。

	回答数	パーセント
行っている	5	41.7
行っていない	1	8.3
無回答	6	50.0
合計	12	100.0



<行っている内容>

介護予防サポーターの情報を提供している

開催の呼びかけや、サポーターの地域別の人数のお知らせなどを行っています。また、地域でのサポーターの活動も知らせています。

各市町村が行う事業に積極的に介入し協力をしながらサポーター事業のPRを行っている。

圏域内他市町村の介護予防サポーター活用状況等の情報を話している。

市町村の担当者(保健師さんが多い)の方々に事あるごとに説明を行った。

## ＜広域支援センター育成事業担当者アンケートのまとめと考察＞

群馬県内の地域リハビリテーション広域支援センター12か所すべてから回答を得た。

広域支援センターの立場では、平成18年度の介護予防サポーター育成事業は概ね順調に進み、予算も妥当であった。市町村との連携や役割分担も、悪いと答えたところはなかった。

研修内容については、初級と中級の研修の内容に重なりがあるので、初級と中級の研修内容を整理・区分し、初級は介護予防の一般的な入門編にする必要があるという指摘があった。研修教材は最新のデータを使用し、専門用語をわかりやすい言葉に変え、イラストを多くして欲しいという指摘もあった。初級・中級研修を実施するにあたって、講師陣のうち約半数が広域支援センターのスタッフが務めていたが、その割合はセンターによって20～86%と、センターごとの方針や状況の違いを示した。

初・中級研修は、全県下で同一の内容を定めているが、市町村の意向を汲んで内容を一部変更して研修を行う必要もあろう。また、フォローアップ研修の必要性も指摘された。このような機会には外部の優秀な指導者に関わってもらい地域に刺激を入れていくことが有効と思われる。

61%の広域支援センターは、市町村が介護予防サポーターをうまく活用しているととらえている。しかし、平成18年度に育てた介護予防サポーターが地域に役立っていると回答した広域支援センターは50%だった。これは介護予防サポーターの表だった活動がまだ少なく、介護予防事業の補助的な業務や協力にとどまっているのが原因と考えられる。介護予防サポーターが地域の活性化やネットワーク作りにつながっていくことは、今後の展開として期待される。

平成20年度以降も76%の広域支援センターが介護予防サポーターの育成事業に携わっていきたい考えがあり、介護予防サポーターの育成に肯定的である。そして、11の広域支援センターが今後も市町村の介護予防事業に継続して協力していきたい考えを示した。介護予防サポーター育成の意向のない市町村、サポーターを育成したいが活用が思い浮かばない市町村など介護予防サポーターの育成に対して市町村に温度差があることを広域支援センターの過半数が感じ、その解消に取り組んでいた。

広域支援センターは市町村の意向に沿って研修を実施する役割を担っている。従って、市町村が介護予防サポーターの育成・活動について明確なビジョンを持つかどうか、今後の成否の鍵となろう。今後も広域支援センターには、市町村との連携を深め、育成したサポーターが地域で活躍できるよう、フォローアップ研修などを支援していくことが望まれる。



## V. 平成 18 年度介護予防サポーター中級研修修了者 調査結果

### 1) 「住んでいる市町村はどこですか」

市町村名の記載がない回答が9あった

渋川市  
下仁田町  
榛東村

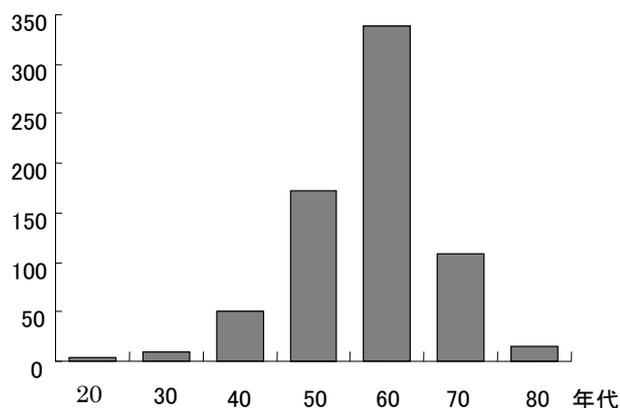
は中級研修を行っていないため、アンケート対象者はいない。

市町村別の中級研修終了者数は8ページの表2に示した。

市町村	回答数	パーセント
高崎市	111	15.9
沼田市	52	7.5
桐生市	47	6.8
富岡市	34	4.9
安中市	31	4.5
中之条町	30	4.3
藤岡市	30	4.3
伊勢崎市	29	4.2
長野原町	29	4.2
吉岡町	26	3.7
東吾妻町	26	3.7
太田市	24	3.4
高山村	23	3.3
前橋市	23	3.3
みどり市	18	2.6
南牧村	18	2.6
千代田町	16	2.3
吉井町	14	2.0
川場村	14	2.0
草津町	14	2.0
玉村町	13	1.9
六合村	12	1.7
邑楽町	10	1.4
神流町	9	1.3
明和町	9	1.3
上野村	7	1.0
昭和村	6	0.9
板倉町	4	0.6
大泉町	2	0.3
甘楽町	1	0.1
吾妻郡	1	0.1
嬭恋村	1	0.1
富士見村	1	0.1
片品村	1	0.1
その他	1	0.1
記入無し	9	1.3
合計	696	100.0

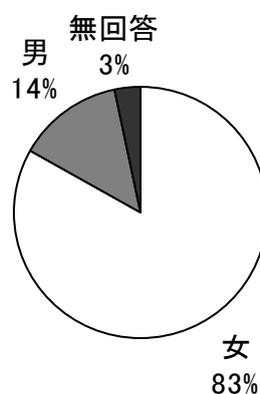
2) 「あなたの年齢を伺います」

年代	回答数	パーセント
20	3	0.4
30	9	1.3
40	50	7.2
50	172	24.7
60	338	48.6
70	109	15.7
80	15	2.2
合計	696	100.0



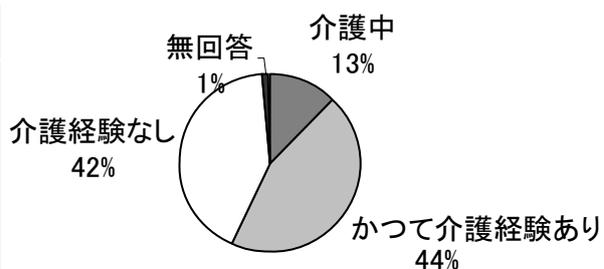
3) 「性別は」

	回答数	パーセント
男	94	13.5
女	578	83.0
無回答	24	3.4
合計	696	100.0



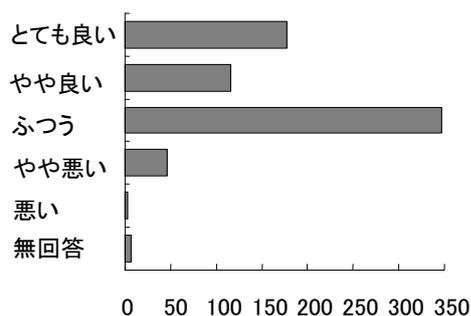
4) 「あなたの、家族への介護状況について伺います」

	回答数	パーセント
介護中	87	12.5
かつて介護経験あり	309	44.4
介護経験なし	290	41.7
無回答	10	1.4
合計	696	100.0



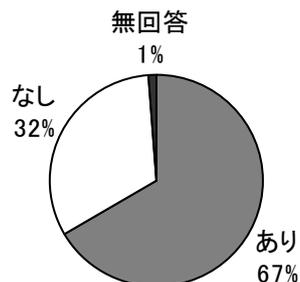
5) 「今の健康状態はいかがですか」

	回答数	パーセント
とても良い	177	25.4
やや良い	116	16.7
ふつう	347	49.9
やや悪い	46	6.6
悪い	3	.4
無回答	7	1.0
合計	696	100.0



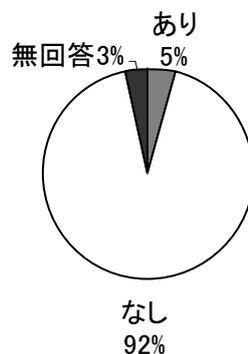
6) 「介護予防サポーター以外のボランティア活動をしたことはありますか」

	回答数	パーセント
あり	464	66.7
なし	224	32.2
無回答	8	1.1
合計	696	100.0



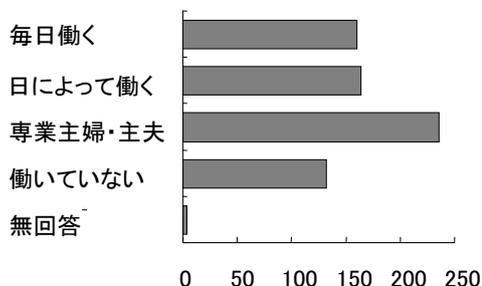
7) 「群馬県NPO・ボランティア推進課の「体験ボランティア※」に参加したことがありますか」

	回答数	パーセント
あり	31	4.5
なし	641	92.1
無回答	24	3.4
合計	696	100.0



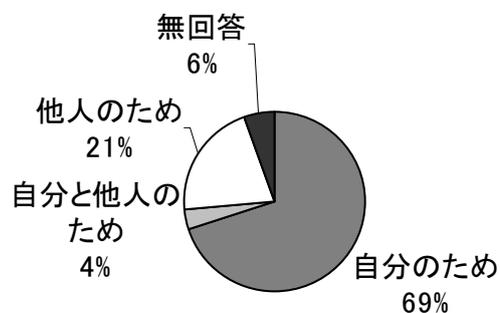
8) 「現在の就労状況を伺います」

	回答数	パーセント
毎日働く	160	23.0
日によって働く	164	23.6
専業主婦・主夫	236	33.9
働いていない	132	19.0
無回答	4	0.6
合計	696	100.0



9) 「なぜ介護予防サポーターに参加しようと思われましたか」

	回答数	パーセント
自分のため	487	70.0
他人のため	145	20.8
自分と他人のため	25	3.6
無回答	39	5.6
合計	696	100.0



「参加しようとした第一の理由」

自分のため、他人のためです。(12件)
健康維持。(10)
仕事(訪問介護ヘルパー・技術)に生かせるため。(9)
勉強の為。(万-に備え)(3)
老人会より参加し、学習してほしいといわれ参加。(3)
子供達に迷惑をかけたくない。(2)
最初は人のためと思ったが、今は自分のためになった為。(2)
自分が元気でいればこそ他人の介護の手伝いもできるのではないかと思います。(2)
自分が健康でいられ、時間ができたらボランティア活動に参加するため。(2)
自分自身の介護予防のための知識を得るために参加した。(2)
将来、介護者にならないために参加しました。(2)
すすめられたので(2)
他人の為でもあるがそれは自分の為でもあるから。(2)
地域の人達と元気に過ごすため。(2)
地域福祉活動(特に高齢が多い地域なので)に役立てようと思った。(2)
どんな事をするのかサポーターの仕事はどんなものか?(2)
何か自分も他人様の役にたてばと思い。(2)
民生委員であり「ふれあいきいきサロン」等で高齢者と交流しているため。(2)
12年前より仕事を辞め、働いていない。もし主人が病気になったら・私がそうになったら看病してくれる人の身になって・と思って。
25年間の介護ようやく自分の時間で勉強し、少しでも社会に貢献できれば、自分も元気で歳を重ねていきたいです。家族の健康のありがたさは、この人生の中で、一番の幸であることが知ることができました。
25年前に父の介護を3年半やりました。知識がなかったので大変でした。これからは 主人の為、人の為に役に立ちたいと思って、まずは自分自身の健康の為に。
4人の親がいます。今はまだ元気ですがいつ介護が必要になるかわかりません。そのために少しでも介護の勉強をしておこうと思っています。
60歳になったのを機に自分が介護される立場になった時どういうふうな心でいたら良いか、またサポーター研修を受けて、少しは他人(家族)に理解も示せるかもと。
60代、70代になったときの自分のため。
60代、70代の予備軍としての年代なので、現状維持を続けるために色々な知恵を受けたい。
63歳になってヘルパー資格を取ったので、介護予防の勉強をしたくて参加をしました。
70, 80歳になった時でも健康でいたい。その為、少しでも勉強しておきたいと思います。
70歳すぎでの研修でしたので自分のために知ったほうが良いと思い、研修に参加してきました。研修に参加し、自分の体についてもいろいろと感ずる点が多くありました。特に足の筋力の衰えなど。
86歳の母がいます。今は元気で私の手を必要としませんが、いずれ?と思い・・・参加を自分に子供がいない為いつまでも元気でいたいから。自分の為。
90代と80代後半の高齢者との同居
NPO わたらせライフの理事で、介護保険、自立支援、デイサービス等にかかわり、日頃は、視力障害者の会の役員(理事・会計)で、ガイドヘルパー等々で活動中。

兄が入院しているので何かできることがあるかもしれないと思って。
新たな交流と自分にもなにかできるかも。
家でおばちゃんがいたのでそれで参加してみました。今、テレビやラジオで介護で疲れてという言葉を知ると、自分でもよくわかります。子供が何人いても介護するようになっても寄ってこないから。
家に高齢者がいるので少しでも役に立ったらと思い。
いきいきサロン(町内)ボランティアとしてたちあげ、月1回行っているため。課題を学びたいと思って参加、自ら学びました。民生委員です。
いきいきサロンに参加しているので今の体力を少しでも長く保てる簡単な体操等をみんなで出来たら良いと思い出席した。
生きがいとして人の役に立ちたい。
いずれ行く道、今できることをとって。
いずれ行く道、元気なときに出来るところに参加です。
いずれ行くみち。少しでも勉強したかった。
いずれ介護になる可能性もあるため自分で運動その他の事を覚えたい。又は他人の為になりたい。
いずれ自分自身が介護される立場がくるから。
いずれその立場になるかもしれないから。
いずれ他人にお世話になる時が来る今、動ける時にボランティア活動がしたかったので、それが生きがいになり自分の健康を保っていけるからです。
いずれは自分が通る過程と思い、自分で今できることで役立てば。
いずれ私達も通る道なので元気なうちはお手伝い出来ればと思って。
以前、看護師として働いていたので他人の為に経験を生かせる事があればボランティアをしたい。
以前勤めていた所の上司に命令されたため。
以前に在宅介護で仕事をしていました。民生委員という役職を頂き思うような仕事ができず、時々ヘルパーをしています。少し時間があるなかで、まだ自分のためでもあるが人様に応援できたらと思い、介護予防サポーターに参加しました。
いつかは自分も介護される様になるかもしれない。それならば、必要なことを勉強しておいたほうが良いと思い参加しました。
一昨年4月に介護をしていた主人の母が亡くなり、今度は自分が介護を受ける番かなと思っていました。そんな折、介護予防サポーター研修参加の話を受け、自分自身のため、もちろん他人のためにもお役に立てると思い参加しました。
いつまでも元気で人と会話ができるように、そして笑える暮らし。
いつまでも健康でありたい事。そして学んだことを世の中(周りの高齢者)に役立てたい為。
いつまでも健康でいたいため。
いつまでも健康年齢で生きたいから。
今、80歳をすぎ、一人で生活しているおじいちゃんがいるため。
今、親の介護をしてとても大変です。義父7年、実父母2年、現在も続いています。自分が年をとった時、自分の子供に同じ思いをさせたくないです。
今、介護しているので役に立つかなと思っ？
今、介護職をしているので少しでも助けになればと研修をしました。
今、健康なので何か他人に出来たらと思い。
今、自分が関わっている介護の仕事に役立てたり、地域の年寄りがいつまでも元気でいられるようにいきいき教室のようなものを立ち上げられたらいいなと思った。
今から少しずつ老いていくための準備として。

今現在、福祉の仕事(老人介護)等をしているので少しでも、知識をもって接することができるようになるため。
今まで夫の両親を見てきました。(老人)近所の人にもやさしくたくて手作りおやつとか、野菜他あれば、すぐあげたくります。人にやさしくしたい気持は常にあるので、 今、自分の両親は病院に入っています。生きてるうちに親孝行してます。
今迄は社会にお世話になり現在があります(仕事を通して)。これからは社会へ恩返しのつもりと社会参加のため。
いろんな事を学びたいため
選べませんが世の中の為に何か役に立ちたい。
老いた父母が居るので参加を決めた。
老いても健康で自立した生活を送れる様に今から心がけて毎日を過ごすために。
老いの準備として介護を受けないためには今が研修のチャンスと思いました。
大勢の人達とふれ合い互いに助け合う気持ちと自分もいつまでも元気でいられる事を 思っ参加しようとした。
太田市老連で介護予防サポーターの募集がありましたので高齢医療知識を得て 少しでもこれから何かの役に立てばと思い、参加いたしました。
夫と年齢差がある為、少しでも介護予防になればと思った。
夫の両親と同居しているのでいつか役にたつかと思っ参加を決めました。
お手伝いしたかっただけです。
己の為、人のため等。
親がいつどうなるかわからないので、少しでも健康なうちにアドバイスができれば いいなあーと思っ、参加しました。友達にも教えてあげられるし。
親が介護が必要になった時、知識があれば良いと思っ。
親が高齢のため、必要になると思っ。
親が寝たきりになり、近くに住んでいないため面倒をみてあげられなかつたので。
親の介護の経験から予防の必要性を感じているので。
親の介護を4年半やって自分の身に置き換えたことにより、生涯健康で暮らせる為の 勉強をしてみたいと思っこと。団塊の世代を生涯健康で暮らせる為を目標に受講しました。
親のために。
恩返し。
介護、看護の知識を学びたかっから。
介護が終わり、子供も結婚して離れ、ガクツとした気持ちになり、 これではいけないと思っ参加してみようかと軽い気持ちで…。
介護がなるたけ先に行くように。
介護経験があるから。
介護経験があるため自分でしてもらう時どのように心がけたら良いかと思っ、 1日でも長く介護をしてもらわないようにと思っ。
介護向上のため
介護サポーターの仕事はどんなことをするのかと思っ。
介護サポーターの内容を知りたかっ。
介護される時がこないとも限らない。そのためにも色々な事を体験しておいたほうが良いと思っ。
介護する事はもちろん自分が介護される立場になった時の事も考えました。
介護知識を高め役に立ちたい。
介護に興味があつたので。

介護についての知識を得たかったため。
介護のお世話にならない為。
介護の経験はありますが予防の為の知識を得たいと思いましたので。
介護の資格もっているのでは何か役に立てるのではないかと考えて参加した。
介護の仕事にたずさわっているため。
介護の仕事をしていて少しでも役に立ちたいと思ったので。
介護の必要な義母がいたから。
介護ボランティアをしたいと思ったから。役に立つと思い。
介護問題が連日TV等でとりあげられ、大きな社会問題になっているので、他人のために自分も協力していきたいと参加しました。
介護予防サポーターとは、どんなことをするのか興味があったから。
介護予防サポーターの勉強をしたかった
介護予防どんな事をするのかと思い、参加理由は自分のため、他人のためです。
介護予防の指導をしているため。
介護予防の知識を多少なり、意識して生活をしていけば、自分のためにプラスになると思います。
介護予防の必要性が急がれている為。民生委員にお願いされて。
介護予防の勉強のつもりと他人と筋トレと一緒にしているため。
介護予防の勉強を役立てたい。家族に近隣の人に。
介護予防を実施することによりいつまでも自立した生活ができる事が人間にとって一番大切と思います。
介護をしてもらう時のため。
介護をなるべく受ける必要をなく過ごしたい。身近な人のためにわかる事を教えてあげたい。
学生の頃からボランティア活動をしていました。高校生の頃でしたか日赤奉仕団で活躍していました。そのまま現在になっても種々の所へ出かけて行っています。他人のためや自分のためになっています。主人の両親の介護も経験あります。その時は今の様な制度はなかったので、家族で大変な思いをしました。
各民生委員に人数割がきたので。
家族が介護が必要になった時の事。
家族が皆60歳以上のため勉強しようと思いました。
家族それから近くの高齢者等にどんな介護予防サポーターができるか自分の身についてたと思いました。
家族に90歳の主人の母がいて、足腰が弱い為、介護を必要としている。主人一人っ子の為、母は私に甘える。2人で今の状態を乗り切る為にも、又地域で民生委員として活動もしているので、何かの役に立ちたいと思いました。
家族に介護が必要な者がいる為、少しでも何か得るものがあるかもしれないと思ったので。
家族に介護が必要になったとき役に立つと思って。
家族に介護しなければならない人もいる為参加させていただきました。
家族に養祖父・祖母がいるため。
家族に老人がいたため。
家族のため。
家族の時、大変だったので本人の意識、経験により食事、運動が役立つ。毎日、前向き。
家族の中で介護が必要になった為。
家族や親族等が介護を必要とした時の為に少しでも役に立てればと思い参加しました。

家族や年上の人達に役立つことをしたいと考えています。
家族や廻りの人に体験を話したり、少しは知識を持っていたいと思いました。
家族若者に迷惑をかけない為。
家族をはじめ地域の方に心配をかけない老後を送りたいと思ったからです。
かつて親の介護をした。その親の年齢以上の年齢に自分もなりましたので若い方に苦勞をかけず元気で長生きできる事がいちばんと考えます。更に他人のためになれば、尚幸福です。
加齢と共にいつか自分も世話になる可能性がある為。
加齢による体力低下を防止するため。
技術を身につけば自分自身自信をもって人のために役立つと思ったからです。
義父母との同居
義父母の介護と自分の老後のため。
義父母を介護したことから、介護が必要になる前に何か出来なかったのかと感じていたから。
義母(同居96歳)を看取り、いくらか気持ちが落ち着いた頃予防サポーターの話を伺い、お年寄りのためにお手伝い出来ることがあればと思い参加しました。
義母義父の世話をした時、世話をする人よりされる人の方が大変と思いなるべく短い期間(介護)の最後を迎えたい。
義母の介護経験して介護予防の大事さを感じたため。
行政の依頼より。
興味があった。年齢的に必要な研修
興味もありましたが、将来親の介護等に役立つのではと考えたから。誘われたから。
居住環境が高齢者が増え、周囲の人間が支えることが必要と感じたため。
居住地域の相互扶助に役立つための活動が出来たらと思って。
近所に高齢者が多いのでいつどういことがおきるかもしれない為。
近所に病気の人やケガをした人達に出来ることがあればと感じた。
近所の一人暮らしおばあちゃんにとってもお世話になったので自分のためでもあり力になりたいから。
くだり坂になっている自分の老化をゆるやかにしたい。
区の公民館で(らくちん体操界)介護予防サポーター出場表を作成して勉強中です。
平成20年より指導者なしでらくちん体操の指導にあたる予定です。
グループホームで週1回1時間の運動(健康体操)ボランティアをしているので参考になればと思いました。
車の運転をする人がなく、何をするにしても車が必要となった。介護予防サポーター送迎と考えたが現実の問題となるとガソリン代もし事故が発生したら保証はどうなるのかと考え、運転も必要の限度の範囲となってしまう。
ケアセンターでボランティアをしています。役に立つ知識が得られると思ったので。
元気で認知症に成らず家庭で迷惑をかけないように日常生活ができる為。
元気なうちには世の中に出来ることはお手伝いしたいと思ってる。
元気なお老を見て、中年層にもっと頑張っていかなければと思ったからです。
健康で居られることに感謝。社会貢献がしたいと思ったから。
健康で暮らしたいと思う。
健康保持及び知識を受け、お役に立てる時があれば考えた。
健康を維持し、少しでも他人の手助けになる為。
健康を考えて、身心ともに。
現在、介護施設に勤務しており、職員の研修の一つにと考え、また地域に貢献していくきっかけになれば

ばと考えた。
現在、介護していませんが、いずれ家族や兄や姉達の介護が必要になった時の事を思い参加しました。
現在、介護相談員・民生委員をしていますので役立つ事が出来ると思いました。
現在、高齢者を介護しており、介護される方も大変だと実感しておりますので参加しました。
現在「いきいきサロン」を地域で行っているのので、参加している高齢者に少しでも寝たきりにならない様、折にふれて指導する為。
現在60代。今がボランティアができる時期でないかと考えて。
現在95歳の義母の介護していますので他人にもお手伝いしています。これからも自分が元気でいられるようにと思います。
現在いろいろなボランティアを行っており、病院や施設など老人に関わっているので、その後に立てたらと思って学びました。
現在介護している家族があり、又民生委員でいきいきサロンを毎月しているので理解を深めるため。
現在介護をしているから。
現在何回か町のサポーター活動している包括支援センターの手伝い。
現在の介護をとりまく現状がどうなっているのかを知りたかったから。
現在の仕事に役立てようと考えました。
現在は人のため、先々には自分のためになる。
現在はヘルパー、またはケアワーカーとしてお仕事をさせて頂いております。お仕事の暇なときサポーターとして働いてみたいと思っております。
現在は世のためにつくしたい。未来は自分のためになる様に。
現在夫婦のみ生活で老後健康の維持と他の人のための介護にお役になればと考えて。
現在ホームヘルパーをしています。少しでも介護予防サポーター活動により、自分を向上させ、人にやさしくしてあげられたら良いと思っています。
現在右下肢に障害をもっています。8年前の交通事故の後遺症からですが当時は歩くことができませんでしたが車イスの生活からT杖にそして、家の中では使用せずになりました。健常の時、ケアワーカーとして働いておりましたので、少しでもその時のように近づけるようにとの気持ちからです。
研修が始まったとき義母が不自由になり介護が必要でしたが少し遅かったです。
研修を深め、サポーターとして介護予防の仕事をしたいため。
行動したい。
高齢化が進み、医療費がかさみ、これからが不安に思うから。なるべく健康で医者にかからなくてもすむ様に過ごすために。
高齢化時代に対応するため。
高齢化社会に向け役立てることが出来ると思った。
高齢社会になっても他の人の役に立ちたい。
高齢者がいる為。
高齢者とかかわるのが好きだから。自分のため
高齢者と接する機会も少ないので又研修を受けたことにより地域のサロンで役に立てればと思いました。
高齢者に体操を指導する仕事をしているので指導の幅を広げたいと思ったので。
高齢者のお宅へ訪問する機会がある為、何かその方たちと体を動かせればと思いました。まだ町内にはミニデイがないので。
高齢者の介護に役だてたら。

高齢になって他人に迷惑をかけたくない。
高齢の親がいるので役立つかなと思い又、自分もいつまでも健康でいられるという意識をもつ様にと 思いました。
高齢の仲間入りをするので、勉強しようと思いました。現在、民生委員をしている関係もあります。
個人的に高齢者体操など行っているが、もっとすぐ身近な自分の地域で活動したいと思ったため。
個人では、やりにくい部分もあるので、サポーター同志も情報交換等して実行に 結びつけたらと思う。
子育て支援に関わってきましたが自分の母親(85)が今は元気ですがいずれ役立つ時がくるのではな いか、又、自分も通る道なので自分のためにもと思いました。
子供達と別居なので少しでも健康で、又、子供達に負担をかけないで生活していきたいと思って。
子供達も遠く離れ、出来るところまで自分の力で生きていけるよう筋力トレーニングをはじめました。大 変良いことなので他の多くの方々にも勧め、自力で生きていけるようお話をしたく思いました。
この件について。学びたいと思ったから。
この地域で助け合いの会ができたらいいと友人達と話し合ったのがきっかけで参加した。
これから高齢化になっています。自分がまだ体を動かしているうちに何かできないかと思って。
これからする場面があるかもしれないので。
これから年齢を重ねていった時のことを考えて参加しました。
これからの自分に若い人に介護されない様に、自分なりに努力し、勉強していきたいから。
これからは若い方達のみにも頼るのではなく、高齢者と健康なうちは助け合わなければ ならないと思います。
これからますます介護が必要な人が多くなると思うが今のままでは介護が受けられない人も多くなる と思う。ボランティア力が必要になると思う。
これから益々高齢化社会になっていくので自分が元気なうちに人のため尽くしておきたいと思うから。 自分もまたいずれ誰かの世話になる場合もあるかもしれませんので。
これから迎える高齢化社会に自分として何か役に立つ事ができればと思い勉強したくなりました。
今後、介護予防という事がとても大切になってくると思ったから。
今後、高齢者が多くなるから、役にたとうと思った。
今後元気でいれば、介護の予定があるために。
今後知っていたいから。
在宅介護の時は親戚や親、姉妹、まわりの人にお世話になりできたのでおかえしできたという気持ち からです。
昨年11月で仕事をやめて、自分の時間ができた。
さけては通れない事だと思って。
サポーターの事を勉強し、まず自分で実行、実践し身近なところから広められたらと思います。
サポーターの勉強をしてみたかった。多くの人がある内容を知ること自分が受ける身になってもサポ ーターの気持ちがわかるか？と思いました。
サロンをしている時に役にたつと思ったから。
参加して出来ることなら他の人に協力したかった。
参加しようと思わなかった割当てなりゆき。研修を受けているうち本人のためになると思えばすべて参加 してる。
時間も丁度あり、聞いてプラスになると思ったので。
自己啓発を含め、これからの高齢化社会に対応できる能力を身につけるため。
仕事で介護をしている為、何か少しでも仕事でなく、したいと思いました。

仕事に生かしたい。家族や自分自身が介護が必要となった時のために。理解を深めたかった。
仕事を辞めた後、何かできることがあったら手伝いたい。
仕事を辞めたので他の人と交流を持ちたいと思いました。少しでも他の人の役にたてたら良いと思いました。
施設でいきいきサロンを開いていますのでお年寄りのために役立つと思いました。しかし自分のためにすぐ役立つ気分です。
実家の母が介護が必要になってきた為
実家の母が一人暮らしで、自分も将来、ひとり暮らしになると思うので、お互いの立場を少しでも理解できるヒントがつかめたら良いなと思っている。
実家の母が一人暮らしで、年にもなっているから。
実家の両親の介護が必要な時に役立つことが出来る。近所のお年寄りが集まった時など話題に出し、役立ててもらっている。
実家の両親や義母の介護のため。
実母が認知症になったため、ヘルパー免許取得後、研修制度に関心をもった。
自分(現在は元気であるが5年ほど前リハビリを通して歩行ができるようになる)のためであり、他人のためになりたい。
自分が動けるうちに。
自分が健康で無ければ他人(人様)のお世話はできないから。まず自分から(身も心も)
自分がしてもらう立場になったら・・・と考えて
自分が将来家族になるべく世話をかけないようにするにはどのようなことに注意して生活していけばよいのか学べると思った。
自分が年老いた時になるべく人にお世話にならないように予備知識を学びたく参加しました。
自分がなった時に役立つから、自分のため、他人のためと〇をつけたい。
自分が人の世話にならないで生活？と言うか過ごせる様に1日でも2日でも伸ばせたら・・・と思って受けました。
自分が病気になったことがある。
自分がまず健康で周りの人の役にたてる事。
自分がもし介護される立場になった時に介護サポーターの気持ち(ありがたさ)がわかると思う。
自分自身将来介護のお世話にならないようにいろんな知識を得て健康に余生を過ごしていきたいと思って。
自分自身他人に又家族になるべく迷惑がかからない様に心がけたいと思ひまして。
自分自身のためそして少しでも皆様のお役に立てればと。
自分実施し他人に勧める。
自分たちの親戚近くに高齢者がいるため。
自分で体験してみないと他人の介護は出来ないと思いましたので自分のためです。
自分で出来ることがあったら参加し、一緒に楽しみたいと思ったからです。
自分でも介護される年に近づいてきたので少しでも自分に出来る事があればと思い、参加をしました。
自分と家族のため。
自分の親がそういう立場になった時の対応を少しでも知識があった方が良いと思って。
自分の介護技術の向上。社会福祉法人に関係しているので。
自分の介護予防と介護生活にならないよう地域の人達と共に勉強したい。
自分の身体をより健康にすることが大事だと思ったから。医者にかかっているけど身体は心配りが肝要だから。
自分の健康のうちに他人のために若い時から親の病気をみてなんでもできるうちにやりたい。

自分の健康のために。それに仕事の場所が清掃をしているから、(介護をしているので)出来ることができればと思い参加しました。
自分の健康のためにと、多くの人達と接することができるから。
自分の健康を維持するためと、地域の人々が元気に生活できるよう役に立ちたいと思った。
自分の周囲に加齢の方が多くなり、介護するときに少しでも役立つ知識を身につけたい。
自分の将来が何となく見えるかな?とあって参加しました。
自分のため、家族のため、母が介護を受けている為に参加しました。
自分のため、主人のため。
自分のため、他人のためどちらかわかりませんが子供が介護の仕事につき、いくらかでも理解できればと思い、参加しました。
自分のため。
自分のためだけでなく、家族や近所の方々の役にたてればと思って。
自分のためではありますがまだ自分には健康です人の為にといいボランティアに時々参加しております。
自分のためでもありますが家族のためでもあります。また、定年まで働いて大勢の皆様にお世話になり、少しでもお返しをすることができればと思い。
自分のためでもありますが少しでも他人のためになればと思います。
自分のためと、親を見たりしたり。
自分のためと言うか家族がもしそうなったら何も知らないより、少しでも介護に役立つ事を知っておいた方が良くと思って。参加しています。自分で介護を必要になった時も役に立つかもしれないと思っています。
自分のために勉強してみたいと思いました。義母と一緒にです。元気です。私自身皆さんのために役に立ちたいと思いました。
自分の為もありますが地域に一人住まいの方や近所の人々と話をする機会のない方との話をする場所を決めて、ぼけない為楽しくすごせたらと思い参加しました。
自分の為もあるが色々役を持っているので、他人のためにもなるといい参加した。
自分の近くに介護が必要となりつつある人がいるため。
自分の父を少しの間介護し、今また主人の父母と一緒に住み、知識を持ちたかった。
自分の予防にもなるが、介護予防サポーターとして活動した場合、色々な意味で自分にかえてくるので。
自分の両親が今は健在なので、役立てようと思った。
自分の両親がいる為勉強になると思ったから。
自分の老後のため。
自分はじめ隣保班、職場、愛好会(3ヶ所)参加して、どこも腰より下が皆痛がっている。年齢60歳以上の人は9割の人が痛がっているのでびっくりした。家ではなかなか筋トレが必要でもできないため。
自分は人の面倒を見るのが大好きなので介護の仕事をやってみようと思いました。
自分または妻が要介護状態になった場合に役立つ。
自分も介護を受ける年齢になり、その前に何か出来ないかと思い受けることにしました。
自分も高齢者の仲間入りに近くなってきました。若い頃の動きとは異なって足があがらない、手が腰が等々を感じます。少しでも心地よい毎日を過ごしたいと思う。
自分も人の世話になるのだから、今何か人のために出来ることを勉強したいと思いました。
自分も含めて介護される側に多くの人にならない様に。
自分もやがて通る道だから。仲間ができてやる気がでる。
自分も老年には入り、自分で出来ることは知っておきたい。

自分も健康を知って皆さんに教えたい。
自分をサポートしたいため。
柔道整復士とケアマネを持っているので仕事上、介護予防の勉強のためと地域に貢献できるかと。
姑、夫と介護し、介護の大変さを身をもって知っているからです。
姑が脳梗塞のため半身がきかなくなり、その為の介護の仕方の勉強がしたかったから。
姑の介護にとまどう事があり、自分や夫のために学んでおくつもりで参加しました。
主人(他界)が元気な頃、ホームの見学に参りました。丁度、若い介護士の指導で風船遊びをしていました。主人は突然「帰ろう。ここへは絶対来たくない。」と言いました。若い介護士の方の品性に欠ける態度と(スピード)勢いの良さに「疲れる。もう少し、大人扱いできないのかなあ」と言っていました。特に男の方はそうかもしれません。
主人の母親(81歳)と同居のため。
主人の母が見ています。もうすぐ自分もストレスがたまり外に出たい気持ちが多くなった時に介護予防サポーターで身につけた財産を多くの人と共有したいと思ひまして参加しました。
主人の両親と同居しているので、いずれ役に立てばと思って。
情報収集
将来介護される立場になった時のために研修しました。
将来の自分のためでもあり、又地域の高齢者の方達のお役に立てる事ができればと思っております。
食生活開発推進員より要請があり、研修参加。
職場内での予防になればと思ひました。
職務遂行のため。
食糧改善普及員になったため、その中にサポーター研修が入っていたのか修了書はあります。
少しでもお年寄りの方の手助けが出来たらと思ひました。
生活する中で地域に必要と感じていた。今回のご縁は町内の民生委員さんの推薦でした。
相互扶助精神の高揚を広めたい。
外に出て人と交わることの楽しさを忘れず、外へ出るときの身だしなみを整えることの嬉しさと喜びを終生もっていたい。
祖母の介護を経験しつつ自分をも見つめ直す為。
体調維持のために少しでも役立てたらと思ひ参加しました。
正しい知識を学習し、自らの健康づくりのため地域の人達との輪を広げたらと思ひて。
正しい知識を取得して、健康管理と地域のボランティア活動に参加、協力したい為。
他人にかける負担を最低に守る為。
他人のために活動する事によりいつかは自分のためになり地域の人達との交流をはかるため。
他人のためにも。
他人の役に立ちたいため。自分自身が介護を考える時のことを考えて。
他人を見て、介護して、自分のために勉強になる。
たのしそだったから。
他方面から自分をみつめる。
地域高齢者のため。
地域参加
地域社会へ奉仕できればと。
地域づくりに役立てたい。
地域で民生委員をさせていただきました。教育、実技、講演といろいろ勉強させていただきました。少しでもこれが利用でき、恩返しがあればと思ひました。

地域に高齢の方が多い。
地域に少しでも役に立ち、近所の方とのふれ合いがもてたらと思い参加しました。
地域に役立てばと思い。
地域の方々の少しでもお役に立てるようできる事から始めたい。
地域の方と一緒に参加し楽しく老後を過ごしたいと思いました。
地域の高齢化、一人住まいの人々が多くなり、自分を含めて皆様と話し相手ができるのならば。
地域の高齢者を対象としたサロンを始めるため、まず自分が勉強しなくてはと思い、参加しました。
地域のために少しでもとけこめたらと思い。老後のコミュニケーションのために受講しました。
地域のボランティア活動の代表になっていて指名された為。
地域の老人会で割当の人数募集があり、たまたま会の役員になったので自主的に参加しました。
地域ボランティア活動参加のため。
地区の人にすすめられて。
地区の民生委員から選出されたためミニデイサービスの参加には地域の情報が得られる。
地区の老人が健康で長生きし、楽しい残りの人生を送れるように。
知識を得ることによってより良い介護が出来ると思う。
知識を身につけておけば自分だけでなく他人まで役にたつと思う。
父の介護から、その家族等に何かできることがあれば。
父の介護に役にたつかな？
父を看取り、母を介護中肺炎、寝たきりになり施設で現在お世話になっております。主人も3年半前に脳出血になり、現在左足に後遺症がありますので役に立つと思い参加しました。
長寿会の集会のときに勧められて始めました。大変に効き目がありましたので、皆様に話をして会員が増えてきましたので喜んでます。
町内で参加者を集め、初級認定者と共に実行していきたい。
町内に必要なのでぜひと言われ参加した。自分のため
町内の人に教えてあげたい。
町内民生委員さんの勧めで町内の皆さんに役にたつことがあればと思い。
通所施設勤務をしているため、レク指導の中で取り入れたいから
つねに健康のため、寝たきりにならないためです。
妻のため。
定年後、自分の健康管理を考えたとき、地区の交流をはかりたいと思った。
出来る限り自分のことは自分でまた、少しでも元気であればサポーターに参加したい。
出来ることがあれば、他人に手伝いたいと思う。
転居して数年なので近所に親しくする方もなく友人探しもかね、今ならまだ人様のお役に立てることもできるのではないかと思います。
同居に老夫婦がいるため。
同居の両親を介護したいが、まだ達成感がないので自分の為に参加
当初は他人の為にと思って参加したが現在は自分のためであることを認識した。
年を重ねてもなるべく自立していける様、勉強を又自分だけでなく、まわりの人とも関わりをもちたい。
年をとってきたので他人の為にとも思いますが、今は自分のために一生懸命生きています。
長いことボランティアをしているのでこれから自分もなる事なので勉強したいと思って参加した。
情けは人のためならず。自分が健康で出来ることは何であれやりたい。
何を隠そう80歳なので人の面倒などみられません。自分だけで精一杯です。
なるべく元気でいたいから。

なるべく子供達に負担をかえずにいたいと思ったので。
なるべく他人に世話をかけないよう。
認知症について詳しく知りたいと思い。
認知症にならない為に。
認知症の義母を見て、近い将来の自分。人ごとでは無いと思ったので。
寝たきり予防・介護不要の為に体操(ストレッチ・踊り・パラレル体操等他)のボランティアをしていますが、その延長線上で参加しました。
年齢が76歳のため自分が介護を受けるときが必ずやってきますので予防と手伝って下さる人の気持ちも考えられる様になりたい。
年齢的にも人によっては介護を受けてる人も、又、介護を受ける日もそんなに遠くない事と思えば、今他の人のためにも勉強、又、お世話することを考えなければ。
年齢と共に介護を受ける立場に近くなったので。
年齢と共に筋肉の衰えとともに、仲間づくりです。
年齢と共に身体のあちこちに不具合が生じ、これから先のことが心配になった為。
年齢を理由にボランティア活動から遠ざかろうとする人が多いので「あの人がやっているのなら私も」という意気込みを持ってもらいたいと願って。
脳を刺激し、なるたけぼけない様に生活したいので。
始めてから2年3か月になります。お友達と和気あいあいと体操ができて楽しいです。1週間に1度ですが体にとっても良いと思います。今は感謝しております。
母親が近くに一人で住んでいるので何かあった場合、知識があると良いと思い、又、地域でのボランティアの手伝いもしてみたいと考えて。
母親又夫が病気になった時のため近所の人が病気になった時、手を貸してやる事が出来ますように。
母親を介護しているので。
母が(主人の)認知症になっているため、もしもの時に、参加しておけば何かと役に立つかなと思い。
母が介護施設に2年前より入るようになり、毎日行って様子を見ているうちに私にもこれからを考えな一と母が体験させてくれたのだと思うようになった。
母がサポーターさんにとってもよくしていただき、まだ父もいますし、その他の人にもサポートしてあげられればと思ひまして。
母が特別養護老人ホームにお世話になっています。家のまわりには一人ぐらしの老人が多く、みんなでよくお茶飲みをしています。自分が少しでも何か役に立てたらと思ひました。
母を時々預かるので介護の知識を持っていればいいなと思い、参加しました。
半病人なので生涯皆に迷惑をかけたくない為。尚他人のために協力できれば最高と思ひた。
被介護状態にならない予防方法を知ることができると思ひたから。
膝を痛めて自転車にも乗れなくなったので筋トレを始めたので参加しました。
人様が(高齢者)喜んで下さり、これからは自分が行く道。色々学ばせていただきたいと思ひ参加させていただきました。
人として。
人との交流をしたい。筋力低下を感じているので参加した。
人の世話になりたくないから。
人は皆死ぬ前日まで立位又は歩行可能(介助も含めて)であるべきと思ひます。立てることが幸せの条件と確信しています。
人々が助け合うことが大切と考えたから。

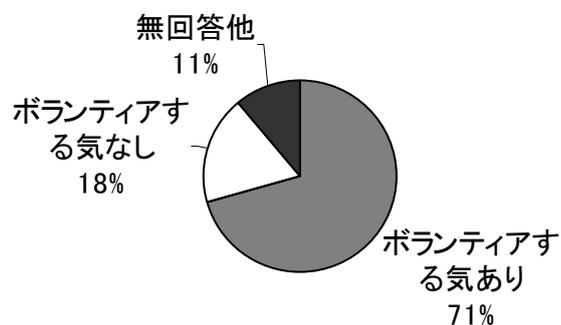
一人暮らしの人や高齢者が毎日笑顔で暮らすためのお手伝いが少しでも出来たらと思ったからです。
暇があったので数合わせに参加(依頼された)
夫婦双方の両親が老齢のため。
夫婦2人(60代)の生活に生かしたく。毎週行っている教室でのことを実施するにはどのようにしたらよいか。
夫婦2人暮らしのため、将来必要と思うので
福祉関係には興味があり、旧ヘルパー2級もボランティアをする為に修得しました。(傾聴ボランティアの研修も受講しました。)
藤岡市の「健康推進員」活動である地域の「筋トレ」中、市職員より資格取得を勧められた。
父母が年老いて来た為。
父母を介護した経験で自分が将来元気で長生きしたいし、他人や家族をサポートする事によって自分が精神面でもプラス(向上)になると思うため。
ふれあいサロンで活用するため。
ふれあいサロンの中で学んだことを活かしたかった。
ヘルパー2級、精神衛生ヘルパー、福祉住環境コーディネーター2級等をもっており、何かの役に立つのではと考えた。
ヘルパー介護福祉としての仕事についていましたが家族の都合で退職し、しかしまったくの主婦業だけでもちょっと、もの足りなく思い、何かお役に立てればと思ってです。
ヘルパー研修に参加してとても良かったので何か得るものがあると参加しました。
ヘルパーさんの数も少なく、介護を要する人が年々増加する今日、多少でもお手伝いが出来たらと思い参加しました。
ヘルパーで10年間務めました。その時年寄りが私を待っていてくれたのでその時の感動が忘れません。今日で11年前の事です。
ヘルパーをしていましたが現在はしておりません。自分の勉強又、他の人とのコミュニケーションをとることも自分のために良いと思っております。
ホームヘルパーの仕事向上。家庭においてのお世話の向上。
ボランティア活動とはよく知らなかった為。介護予防を広めたい為。
ボランティアグループに人数の割り当てがあり、また自分の体調の変化を感じた時期だったので。(60と？歳となり、ここ数ヶ月前より膝の痛み、股関節がズキズキ、筋力の衰えを感じた時で、参加をしました。毎日、筋トレ、いきいき体操をやっています。
ボランティアの方よりの依頼で。
毎日の生活の中でどんな事に気をつけていたら良いか。
毎日楽しく健康に過ごせればと思ってます。
まず自分が吸収できるものを学びとり、それから他人や周りの方へ提供していきたいと考えた為。
まず自分が健康であって家族のこと、近隣の高齢者のために役立たせたい。
まず自分が健康にいる為にはと考えると、親の人生、自分の人生、他人の人生が元気でいられるように少しでも、勉強できれば良いと思いました。
まず自分が知識を学ぶ事により、家族、兄弟等と接する機会が来たとき、少しでも役に立つのではないかと思いました。幸い自分はすこぶる健康体ですので。
まず第一に介護予防サポーターとはまず自分の体を健康にしてからでないと他人をサポートすることはできません。それで、民生委員をちょうどやっているのので、この研修に参加しました。まず自分の健康と他人の健康両方ともできればと考えて研修を受けました。これからもどんどん研修を受けるつもりでいます。
まずは自分が健康でないと主人や他の人の介護はできないから。

まずは自分が健康でなければ何も出来ないし、知識があれば、人にアドバイスできると思うし、為になりたい。
まずは自分自身が介護予防を心がけたかったから。
まずは自分の為ですがご近所、知人の方に介護に関する日常の会話中に聞かれたり介護されて悩んでいる方が多いことに少しでもお役に立てればと思うこともありますので自分のため、他人のためとも考えられます。
まずは自分のためと思いました。自分が健康であれば他人のために働けると思う。
まず自らが健康に留意し、介護保険のお世話にならないよう、また数年先に定年を迎えますので、その時にサポーター活動ができるように。
身近な人達や自分にも役立つと思ったので。
身近に介護を受ける人があり、何の資格もないので研修を受けて、学んでおけば役に立つと思いました。
自らの生活に役立て健康を維持していきたい。3人の老人をかかえているので役立てたい。
民生委員活動の中で地域をめぐりて介護予防が必要と思いました。まず、自分が研修し得たことを訪問したときに一人でも多くの方に伝えられたら良いと思い参加しました。
民生委員さんに依頼され、子育ても終わり、お世話になった地域の人達に恩返しとも思い、参加する事にしました。
民生委員で老人(高齢者)宅訪問する為。
民生委員としての参加と自宅に病人がいるため
民生委員としての役割で4月から月1回行われるミニデイサービス会場に参加させて頂いています。
民生委員なのでサポートをしたいから。
民生委員の活動の中で自分にプラスになるだろうと思い参加しました。
民生委員を三期していますので町内のサロンで役員として活動しています。
民生委員をしていたため、知識を得たいと思ひました。
民生委員をしていて、担当の人が少し認知症になってきたので、いろいろ知っていないと私自身が困ることがあると思い受けました。
民生委員をしており、何かのお役にたてばと思い参加しました。又、イキイキサロンも町内で行っていますので、やはり役立てばと思い。
民生児童委員をしていて介護予防サポーター研修を勧められてからです。
民生児童委員をしていて話を聞き、これから高齢化社会に向け寝たきりにならないという事はとても大事な事だと思い、もちろん自分自身のこれからの健康維持にも役に立ち又、お年寄りの役にもなれたら良いと思い研修を受けました。
民生児童委員をしているので勉強になると思ったので。
民生児童協議会団体のなかにおいて、幸運にも指名され大変ありがたかった。日頃から特に筋力アップについて多野郡鬼石町の活動等について関心をもっておりましたので、学びたいと思っておりました。
民生の会長より参加するよう要請されたため。
もう少して定年。自分が何ができるかとスキルアップ。
もし他人の為に良き行いができるとしたら、自分も元気でいられると思いますので。
もちろん自分のためですが誰かお手伝いをして欲しいと思っている人がいれば手助けが出来ると思ったから。
要介護2程度の介護経験はありますが、自分がもし介護される立場になったとき、それなりの自覚もてるようになりたいので元気な時に色々なことを経験したり学んでおきたい。
要介護者と同居しているため。

吉岡町の今の高齢者の現状を知りたかった。認知症の母の介護と介護職に役立てたいと思った。
世に出て介護の質を高める為。
予防のため。
理由は自分のため、他人のため半々です。健康で生活しているため人の為になるのではないかと同時に自分のためにも良いと思って。
両親が高齢になり勉強したいと思いました。
両親が高齢の為、介護について勉強し、介護できればと思い、参加しました。又、隣近所も高齢者が多く住んでいるので何かの時に手助けが出来ればと思います。
両親とか夫とか介護の必要なとき役立つから。
両方の親を見送り親のような方と会話をしたいから。
レベルアップをはかるため
老々介護の現状を日々体感している為。
老後の健康のため。
老人会長
老人の接触が多いため理解を深めたかった。
老人ホーム等訪問したりして何かお手伝いしたいと思い、ヘルパー2級も取得しました。
老齢なので健康維持のため。少しは人のためになりたいと思い。
老連より推薦されたため。
我が身を考えると、少しでも予防の術を知っておきたい。介護においても知識として研修参加したかった。(実施できる様に学びたかった)
我が家にも年寄りがいる為、知識として参加しました。
私自身一人暮らしですので、一日も長く健康で介護保険を使わず元気で生活出来るようにと思い参加させていただきました。
私は「寝たきり予防の会」というボランティア団体を主催しています。予防には重点をおかない現在の医療制度・介護制度は破綻します。ボランティア活動だけでは予防を広めることは限界があり、行政との協力が必要である。
私は2年前母の介護を4年間していました。とても大変でした。又、私の友達も同じです。周りが今みんな大変な思いをしています。
私は祖母(義理)、夫の両親と続けて4年間近く自宅で介護しました。自分なりに工夫して精一杯やっただけです。実技は満点だと思いますが医学的又は精神面はどの様なものかと思い、勉強しようと思いました。
私も77歳となり、かなり体力に自信がなくなりました。何とか自分の事は自分でと思い参加しました。他人のためにできることはやりたいと考えております。
私もいずれ年老いて他人の世話になるかも知れませんが今の元気は時に他人のために手助けをしたく思い立ちました。
私も地域の方々に助けられここまで来たので今、元気でいるうちに皆様のお役に立ちたいがと思ってです。また人のためにしていることは自分のためにもなることだと思います。

- 10) 「中級研修の受講を決めたとき、介護予防サポーター（ボランティア）として活動する考えはありましたか」

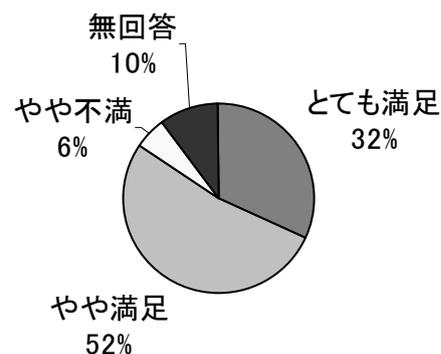
	回答数	パーセント
ボランティアする気あり	492	70.7
ボランティアする気なし	126	18.1
両方	1	0.1
どちらともいえない	1	0.1
わからない	1	0.1
無回答	75	10.8
合計	696	100.0



初・中級介護予防サポーター研修についてお聞きします。

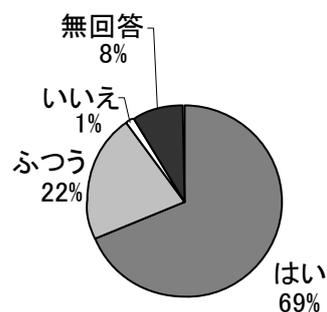
- 11) 「初・中級研修での講師の教え方はどうでしたか」

	回答数	パーセント
とても満足	222	31.9
やや満足	364	52.3
やや不満	41	5.9
とても不満	0	0.0
無回答	69	9.9
合計	696	100.0



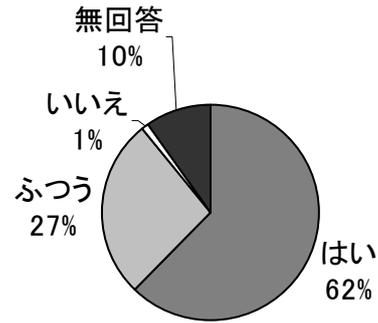
- 12) 「初級研修は理解できる内容でしたか」

	回答数	パーセント
はい	477	68.5
ふつう	150	21.6
いいえ	10	1.4
無回答	59	8.5
合計	696	100.0



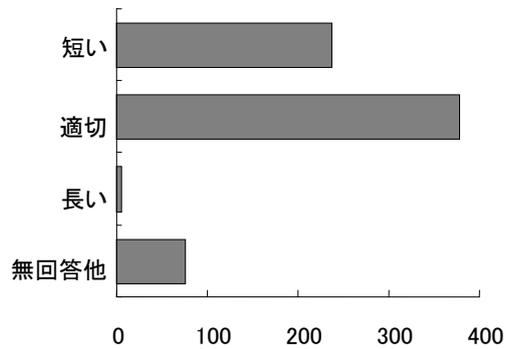
13) 「中級研修は理解できる内容でしたか」

	回答数	パーセント
はい	434	62.4
ふつう	187	26.9
いいえ	7	1.0
無回答	68	9.8
合計	696	100.0



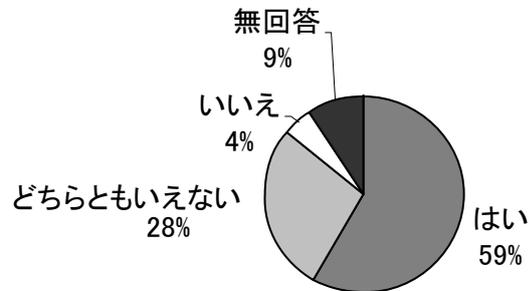
14) 「中級研修の実施期間（3日間）はどうでしたか」

	回答数	パーセント
短い	237	34.1
適切	378	54.3
長い	5	0.7
わからない	1	0.1
無回答	75	10.8
合計	696	100.0



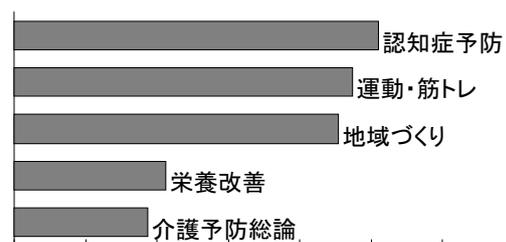
15) 「中級研修で学んだこと（運動・口腔ケア・栄養改善・認知症予防など）を自ら実践していますか」

	回答数	パーセント
はい	404	58.0
どちらともいえない	196	28.2
いいえ	30	4.3
無回答	66	9.5
合計	696	100.0



16) 「中級研修でもっと学びたい内容を選んでください」

	回答数	パーセント
介護予防総論	94	13.5
運動・筋トレ	237	34.1
口腔ケア	36	5.2
認知症予防	255	36.6
栄養改善	106	15.2
地域づくり	227	32.6



n=696

「その他」

運動したいのでその場所へ行くことができずにあきらめてしまっている。
音楽・ゲーム療法。
介護保険についても
介護予防で健康年齢で生きるための勉強ができた。
介護予防に必要な介護用品。(転ばぬ先の杖)
筋トレを2年あまりしております。研修所で。
傾聴ボランティア的内容。
高齢者へのレク指導。
高齢者向けの調理。認知症の人への対応
サポーターとして自分は向いていない(消極的性格)
実習
市としての介護予防政策について。
初級・中級で学んだことを自分のものにするのに精一杯です。
食事作りから食べるところまで。
認知症の家族への助言の仕方と介入について
一人の人が多いので何かアドバイスが出来たらと思い。
もう少し勉強をしたいと思いました。
もっと全般の研修がほしかった。
老人学(老人の気質等)
老人力の活用

17) 「中級研修で改善して欲しいところがありましたら提案をお願いします」

3日間ではとても短くて、しっかり身につくまではいかない。(例)教えて下さる方がもう少し丁寧に時間をかけていただけたらと思います。どの講師も追われていたように感じた。栄養改善の内容がもっと詳しく学びたかったです。(6件)
運動、筋トレの内容が高齢者には少きつuitと思われる事があった。老人よりは実年の運動法が多く、もう少し簡単かつ有効な方法があるかと。(3)
研修修了後のボランティア参加のあり方。(3)
特にありません。(3)
もっと具体的に詳しく。(3)
運動・筋トレの時間が少なかった。(2)
研修場所を近くして欲しい。会場の確認や会場までの到着時間が気になる。(2)
研修を活かすことのできる組織づくりを具体的に指導。方法を教えて欲しい。研修を受講しても地域で実践できずにいるサポーターが多いのではないのでしょうか。(2)
コミュニケーションの取り方、実践など(2)
地域作りの方法及び手法等のやり方について。運動。筋トレ。行政を離れ地区で活動する方法。(2)
定期的研修の開催と知識の向上。(2)
別にありません。(2)

栄養改善についてはもっと細かく教えてもらいたい。調理実習をしてカロリー計算をしたい。(2)
グループになり、少ない人数での実習が欲しかった。(2)
今、地域でボランティアをしています。70歳以上の方が多いのですぐに役立つ(教室でできるもの)内容を考えて欲しいです。
今のところ何を習ったか少しも覚えがありません。何でその研修を受けたかもわかりません。食糧改善普及員になったからかもしれないと、未だに定かではありません。
医療用語を使った場合、用語(〇〇〇〇)と内訳を記入していただくとわかりやすいと思います。
運動、筋トレについて。長時間は体力的に無理なメニューかと思いました。その地域のお老により、体調管理を中心として、短時間にメニューをわけて、プログラムを実行してはどうか？少々物足りないと思う位の方が続けていけるのではないかと思います。
運動の件、大変丁寧分かりやすく指導いただきましたがなかなか一度に全部覚えられません。(私だけでしょうか?)ビデオテープ、プリント等できれば希望者に譲って欲しいです。
運動は大変勉強になりました。
大勢で学んだのでちょっと大ざっぱな気がした。少人数での時間も欲しいと思った。(時間が経っているので少し忘れました。)
教えていただいたことを忘れてしまいがちなのでおさらい復習を兼ねて定期的に研修会等あると身につくかと思います。
介護体験者の話(体験談)を「実話」として聞いたら良いと思う。ボケとそうでない判断、境目は？認知症についての実態を知る。
介護は心の問題だと思います。される側の気持ちを察する思いがなくてはならないと思う。相手の気持ちがよめる様な人格を作る為の研修も必要だと思います。
介護予防サポーターでしょうけど、ミニデーに役立つような事ももう少し入れても良いのではと思う。
介護予防サポーターとして出席してから8ヶ月たちましたが、私が担当した2カ所とも5年前から始まったミニデイサービスで月1回集まって軽い筋トレや歌を歌ったり、お茶を飲んだりして、2時間ぐらい過ごしています。問題なのはこのサービスに出席しているお年寄りの方全員が5年前に始められた時の方ばかりで、新しく入れる方が一人もいないのです。入ったとしても仲間に入りにくいという話も聞きました。地域づくりに問題があるのではと思います。
介護予防を必要とする人を応募(何等かの方法で)講師の先生はそれらの方々を指導していただき、サポーターは研修するという事はどうでしょうか(実践)。サポーターとしての活躍の場が見通せない。サポーターはそれぞれ研修を受けて活躍したいのです。行政の仲立ちが得られれば(きっかけ)。改善と言うほどではありませんがもう少し中級研修の回数期間が長くても良いのではと思います。まだまだストレッチとか色々お教え頂きたいです。
改善と言うより、高齢者は運動そのものが大変と感じました。
改善よりも、時間が少なく、テキストも全部出来ず、各自で読んで下さいというところもあった。低栄養、又主食、主菜、副菜のバランスについて運動も全部できなかった。研修日時を増してほしい。
学習内容の充実。
各先生のお話を聞くだけで質問をとるゆとりの時間がなかったこと。
各地域のグループワークのようなものが少しあったが事前に地域での活動状況等を調べて教えて欲しかった。参加できる活動もあったかもしれない。グループワークも受講生に「おまかせ」のようだった。
活動する場所づくり。
体を使って行える研修を増やして欲しい。ロールプレイングなどでグループ別に行い、ディスカッション

ンしていったり、発表していくこともしてみたい。
机上の勉強というかスライドを見ている時間が多かったのもう少し時間をかけて、時には年配者にきていただいて実習しながら勉強できたらと思いました。
筋トレをその場でやっただけでは忘れてしまうので、ビデオがほしかった。パンフレットだけでは説明しづらいし教えづらい。
グループワークは予め議題があったほうが時間にも無駄がないように思います。
群大の先生の話はとても勉強になりました。研修で感じたのは老人(敬老会)の方がたくさん受講していらっしゃいましたが団塊の世代にもっと積極的に働きかけていただきたいと思いました。運動、筋トレも楽しんで体を動かせるような方法を選んだ方が良いと思います。中級研修の人集めの方法が理解できません。人が集まらなかったから老人会にお願いしたとのことですがお医者さんの講義はあの人数でお聞きするのは残念でした。
現在活動しているサポーターのビデオ「話」等を見たい、聞きたい。群大医学部の先生のお話しが大変興味深く、資料を読むだけでなく講義を聞きたい。少人数で。
研修がもう少しうちとけて話し合いながら、一方的でなく進めていけば、もっと内容が充実する様な気もしました。
研修期間が短いので一般常識的なことが多かった様に思います。高齢者の心のケア等専門の先生の指導をお願いしたらと思います。
研修中はとても良い話が聞けた参加して良かったと強く感じたのに日が経つにつれ残るものがだんだん少なくなってしまう。何か良い方法はないのかなーと思います。
研修内容が表面的で他の研修会でも研修済みのことばかりのものが多く、もう少し内容を詳しく紹介して欲しかったです。中級研修という事なので、少し私も期待しすぎたのかもしれない。
研修に出席させて頂き、サポーターとはいえない。在宅介護にあたり、認知症が日ごとに進み、対応に困ったこともたびたび。現在も糖尿病と認知症に毎日悩んでおります。もっと本を読み、講義をもっとしっかり受ければ良かったと思っております。研修のお通知をいただいても在宅の日にあたってしまうと欠席になることが多く、残念に思うことが多々あります。認知サポーターに出て知識を取り入れたいです。
研修について行くのが大変な所もありました。実際に行うとしたらその都度勉強しなくてはわからない所もたくさんあると思います。
研修日程をなるべく早めに連絡して欲しいです。勤務表作成があるので休日が合わないため参加できない事が多いです。
研修の実施期間をもう少し長くして欲しい。(授業のすすむスピードが速かった様に思う。)
研修の時、人数が多すぎて後になって自分でも理解していなかった所があるように感じ、もう少し人数を少なく回数を増やしていったほうが良い。
研修のなかで、実際に介護予防サポーターとして活動されている人の話を聞ける時間があればいいなと思います。(現場での問題点や苦労話などが聞けると、活動が身近なものとして感じられると思うので)
研修日が指定されており、都合により休むことが出来ない。研修日に余裕を持たせてほしい。
研修を受講して自分自身のためには非常によかったものの、それを人に教えるには垣根が高い。先日、フォローアップ研修の時にお話がありましたが運動、筋トレ等の実践にはビデオの配給等していただくとありがたい。
現場実習もとり入れたらどうか。

<p>講義としては立派でした。満足度も得られます。しかし実践面でのサポートはどの様になっているのか、地域の中での身分の確立は、行政と市民活動としての橋渡しが不確かでした。傾聴ボランティアのセミナーもそうでした。自分の力で発想でボランティアの場を開拓していくことは大切ですが、難しい面が多すぎる現在です。</p>
<p>講義ばかりではなく、もっと体を使って実践をしてほしい。時間が短かったので。</p>
<p>講義を受けるばかりでなく、指導を受けた後、助手としてリーダーの役割を試みることに。</p>
<p>口腔ケアの資料が初級・中級と全く同じでしたし他に比べてあっさりしすぎていたように思いました。</p>
<p>講師と受講生のやりとりを多くしてほしい。</p>
<p>講習内容があまりにも一般的すぎてこの講習会以外でもよく耳にする内容で勉強になりました。中級サポーターの研修なのですからもう少し、高度な研修を受けたいです。</p>
<p>高齢化社会になり又異常気象なにが起こるかわからない。近隣、地域の助け合いが必要である。</p>
<p>高齢化のなかでの居住の改造。生活の環境の整え等、生活の場での住の注意等も(あまり金をかけずに)出来る事など学びたかった。</p>
<p>高齢者が多い各地域ごとに月1回～2回位栄養改善、運動、認知症予防、地域づくり等の研修を行って欲しい。</p>
<p>高齢者に対して自分自身参加する内容にしないとサポーターの一人芝居になってしまう。運動・筋トレは高齢者に適用が困難(中年の運動)。</p>
<p>高齢者の筋力がどの程度なのか、実体験(疑似体験)する事ができれば、介護予防の為にトレーニングへの取り組み方も違って来るのでは。</p>
<p>午後の研修でしたので講師の持ち時間がいっぱい(少なかつたようで)もう少し時間に余裕があればと思いました。</p>
<p>個人の意見としては救急処置とかも取り入れて欲しい。</p>
<p>今回の研修は時間が少なく、形式のような気がします。私はヘルパー2級研修を受講しておりますが、具体的指導者等の講演が聞きたいです。</p>
<p>先に述べたようにまずは介護予防サポーターとはその意味をわかって参加している人が研修を受けた数の中に何人いると思うか。私はまずは正しいサポーターとしての姿勢と精神をもう少し研修してもらえればと思っています。</p>
<p>サポーター研修を各市町村で実施し、増員を計ると良いと思う。</p>
<p>参加したいが現在の所、妻の介護のためできません。</p>
<p>参加人数が多いことは良いことですが実技になると全員がやり終えるまで時間がかかりすぎてしまう。もう一度やってみるにも時間が足りない。同じ講習実技を数回にわたって行うのは無理(予算等で)なのではないでしょうか。</p>
<p>参加人数が多いため講義がよく聞くことができませんでした。</p>
<p>時間があればもう少し勉強がしてみたかったです。</p>
<p>時間が足りなくなり、後半ははしょってしまうことが多かったので、時間配分を考えて要点を強調して欲しかったです。</p>
<p>市町村からの活動計画通知がきても内容が不足のため、先が見えない点が多く、こんなものかという感じがした。研修時にもこれから先の活動方法がおおまかな内容だけの話の為、全然見えてこなく、内容不足に不満があり、活動意欲が遠のいた。</p>
<p>実技を多く。</p>
<p>実施期間が短いので5日間程度にして実習等を取り入れて欲しい。</p>
<p>実施時間を長くしてほしい。</p>
<p>実習で学んだことを経験(体験)させて欲しかった。</p>
<p>実践した場合の内容をもっとくわしく知りたかった。</p>

実践指導(スライド、資料ばかりでなく)
実践の時間をもう少し長くしてほしいです。他人に教えるポイントもくり返し復習しながら時間をとってもらいたいです。個々の体調が違うので、無理に指導して悪くなるとはいけないと思うし、注意点も重ねて教えて欲しいです。
実践の場を入れてほしい。実習など。話し相手のコツ。やり方など。
自分から進んで研修を受けたいと意欲的な人達にして欲しかった。
自分のためになりましたが他人に指導まではできません。
事務的なことでなく、介護される側の目線で講義してほしいと思います。勉強の時間が足りなかったと思いました。
終了時間が遅く感じました。
初級研修とあまり内容的に変わらない様だったし、同じ次元の人達でない人と一緒に何か余分子扱いの様な不快感があった。
食生活について月に2回ぐらいはしてほしい。月に2~3回ぐらい運動。
初中上級研修で学んだ人達に時々地域で介護予防サポーター育成と時々研修で学びたいです。
数人での確に。
すべてを分けて詳しく知らせてもらいたいです。
せっかく研修をするので時間をもう少し長くして内容を深く勉強させていただきたいと思います。
先生も初めてなので大変だったと思いました。そのような感じを受けました。
全体的にレクリエーションを柱にして筋トレや体の動きを取り入れて見守りながらする。
専門的すぎる点が少しあり。(体操)もっとお年寄りを対象にするのだからゆっくり動作の体操や接し方の注意点など教えていただけたら。
総括的な講義ではなく、実践的な方式の導入へ。地域に出て役立つ講習会。ロールプレー練習の活用。ポイントを絞って集中的に取り組む(グループ化)
だいぶ前のことになるので忘れみですが運動や認知症予防の勉強をもう少し勉強したかったです。
誰もが認知症になりたくない予防できるのであれば良いとされる。食物、考え方、運動などなど、もっと時間をかけてやって欲しい。
短期間すぎてさらっと勉強して資格をいただき、実践には力不足でした。私自身はヘルパーなので、理解できる部分もありましたが資格のない人には意味不明の研修ではなかったかと思われます。
男性が退職するとほとんど何もせず家の中に。もう少し男性参加を。
地域づくりの事を教えて欲しい。もう1年以上もたつのになにも活動をしていない。何をどうしたら良いのかわからない。
地域内の情報を聞いても職員があまり把握していないので自らも勉強を願いたい。
地区によって参加が偏っていると思う。昔からの土地の出身者は知人、友人、親族もあり良いが、転居してきた人達にとってはサポーターの必要が多くなると思うのでなるべくサポーターの研修は土地のものでない人によびかけるといいと思うのでお願いしたい。
中級研修(3日間)とても有意義でありました。その後、研修(3時間)はハードなDVDを使用しての体操でした。私達は予防サポーターです。何とか楽しく出来ました。高齢者には一寸・・・ハードすぎるのでは？
中級研修では今している事で充分だと思います。
中級研修に参加したときは指導しているときの補助的なところは少なかった。見学していた。指導者は研修サポーター養成への心がけが見られなかった。
中級研修はすんでいます。上級研修をしてほしい。
中級研修を改善するのではなく、その研修を続けられるような、地域づくりが必要だと思います。このアンケートも遅すぎると思います。

次への目的意識を設定することが不足していたか？
テーマをしぼって一つ一つの話し合う意見交換の時間がもっと欲しかったように思う。
土、日の研修は大変だと思いますが仕事をしていると休み辛い事が多いので平日コースと休日コースと選べると良かった。
投薬について
時折、研修があつたらもっと勉強出来るのではないか？まず自分自身が介護予防を把握した上で活動していきたいと思っております。
内容の事ですが高齢者にとっては時にはレクリエーションのような者(散歩、ゲーム、ボールあそび、おてだま、あやとり、パズル、昔の遊び)をとりにいれると楽しんでくれるのではないのでしょうか。
認知症予防に関しては実際に介護者家族と接点があり、相談を受けたり、助言したりと認知症高齢者やその家族を支える立場で活動されている方を講師として選出していただきたいと思いました。
認知症予防についてももっとくわしく話していただきたい。地域の人を知らないのもっと地域の人を知ることが大事だと思います。
認知症予防をもう少しくわしくして欲しいです。認知症の人に接する時の注意など。
年に何回か同じ研修を受けられると良いです。(1回では忘れてしまう為)話題づくり(話のネタ)
話し合いの場。心の悩み。
一つでも専門のことを時間をとってほしいと思いました。
一つ一つ説明をしながらのばす所はのばすなど教えて欲しい。始める前に準備体操を十分にしてから始めるようにして欲しい。
病気にならないための予防法に重点をもっとおいて欲しかった。体中あらゆるぶしょを動かし、かつ楽しくできる運動方法を指導してほしかった。行政ももっと力をいれてほしい。
ピンシャン元気体操・座って行う筋力強化・立って行う筋力強化等、音楽に合わせて家で毎日やりたいのでテープがほしいです。
復習は大事ななのでその都度ミニテストみたいなものがあると良かったかなーとこのアンケートを振り返ってみて思いました。
プロではないので研修で受けた内容で良いと思います。
ボランティアに参加するという事は自分がまずは健康でなくてははいけませんのでそのことの勉強の時間がほしいと思います。
毎回研修できなかつたのでその場合？
毎年再教育、再研修をお願いしたい(自己チェックのために)。介護予防総論、認知症について。高齢者の精神的特性。
まだよくわかりません。
身内が認知症なのでもっと詳しく学びたかった。口腔ケア、栄養改善のメニューがあつたが、こういうことまでサポーターが実践するのでしょうか
村の集会場を利用して気楽にお茶を出したり笑えるお話をしてみたい。
もう少し、広く知りたいが3日間ならこれでも仕方ない。
もう少し時間をとってほしいと思います。介護施設なども見学したいと思いました。
もう少し若い人に研修の必要があつた。
もっと現場に合った研修をしてください。(施設、老人ホーム等の見学実習)コミュニケーション(介護者との)
もっと実習が必要。生活習慣の保持の方法。医者通いを少なくする方法。
もっと広くたくさんの人達に研修を受けられるようにして欲しい。
休み時間が少ない。終わりの時は、もう少し早くして欲しいとのこと(主婦より)

理論と実技の習得が必要。実際に要介護者、特定高齢者に対して、指導する際の補助者として実務経験をつむことが大切でそれなくては不安が残る。

私が中級研修を修了して一年がたちました。このアンケートを書くのに例えば講師の教え方等の質問に対して記憶が曖昧になってしまいます。せつかくのアンケートはすぐに答える事により、正確な解答が出来ると思います。

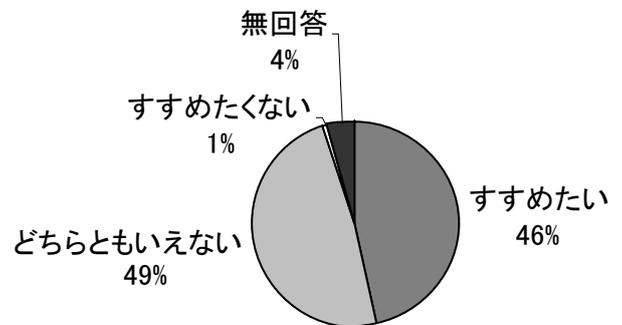
私どもは中・高齢者の運動を研究し、実践しているが一般の受講者には研修が必要である。自治体(私の場合富岡市)の積極的取り組みが必要だ。国や県からの指示を最小限にこなすのではなく、ボランティアと協力して、実際と介護予防の成果をあげる努力が必要だ。

私は現在上級研修が修了したところですが、活躍できる場所がほしいです。施設(デイサービスや病院)などはかかわっておるのですが町内など身近な人達とのかかわり方をどうしたら良いか模索中です。私達が介護予防サポーターと認められると良いのですが。

3日目の日の皆で話し合う時間の際にもっと時間をとっていただければ一人一人のお話が十分にお聞きできたのではと思います。

18) 「介護予防サポーターになることを周囲の人に勧めたいですか」

	回答数	パーセント
すすめたい	323	46.4
どちらともいえない	338	48.6
すすめたくない	6	0.9
無回答	29	4.2
合計	696	100.0



「周囲の人に勧めたい理由」

十人十色ですから。(10件)

自分のために。(8)

多くの方が介護予防サポーターの意識又は知識をもって生活をしてもらいたい。(6)

健康になる為。(5)

まだ歩み出していないのでどうしていいかわからない。(5)

自分にも家族にも役にたつと思います。(4)

本人の意識が必要。(3)

より多くの方々に知っていただくことにより他人の理解が得られると思います。(3)

今は活動もしていないので、何とも言えない。(2)

高齢者が増えて来ているから。(2)

自分があまり活動していないので。(2)

知識を持った人が多いほど良いと思います。(2)

とても役にたつから。(2)

若い方の参加を勧めたいが家庭の事情でなかなかできない。(2)

介護者増加防止のため(2)

50代、60代の若い人に勧めたいです。

65歳以上がたくさんいるし、いずれ自分も年を重ねていくから知識があれば他人にしてやれるから。
明るい健康な日常生活をおくる為にも。
あまり高齢でない人に勧めるのが有効
あまり自分のためにはならない。コミュニケーションのためなら良い。
ある程度の数の仲間が地域に必要であるので。
いずれ自分のためになると思うので
いずれ自分も行く道自立して他人に迷惑かけないためにも人に尽くすことが大事。
いずれ必要となると思うので、勉強したり体験したりする事は良いと思います。
いつかは自分も介護される立場になる為、一つでも多くの事を知ってほしい。予防のためもあり、まず地域住民に喜ばれるのがうれしい。
いつかは自分も通る道、特別なことではないと思っているので動ける人が動きの悪くなった人を手助けするのはあたりまえだから。
一緒に出来る仲間になりたい。一人で出来る事はなかなか少なく、仲間が必要である。
いつまでも自分のことは自分の力で生活できるように。
田舎の方へいくほど、つながりが強いので。
今、現在活動をしていないから。
今、若い人が少ない。お互いに助け合っていくことがすてき。
今の研修では介護についてよく理解できないから。
今のところ、70、75歳と言っても元気の人が多いです。
今のところ実際に何をどんな風にするのか見当が付きません。
今の勉強方法だとただ講習に行くだけでそれを役立たせるような場がない。
今は何にも役立ててない。ただ研修を終えただけ。
嫌でもみんな老いていく。だから助けたり助けられたりできれば良いと思うから。
いろいろ知っておくことが良いと思うから。
色々なことに興味がある人であれば良いと思います。
色々な事に理解ができるようになると思う。
動けるときに大変な人の力になりたい。我行く道と思います。
運動・筋トレ色々学べるので自分のためになる。
老いる事は予防次第で介護を遅らせることができることを学びましたので。
多くの人が参加し予防してゆく事は良いと思うが人に勧めるとなるとどうなるのかな？とただ話しの中でこういう事があると言う事は話してゆきたいと思います。
多くの人達が健康について前向きになり介護保険を少しでも減らして元気な町作りにつなげたい。
多くの人達特に若い人になってほしいです。
多くの人の話を聞いて始めたい。
大勢の人が勉強し、理解するため。
大勢のほうがサポートしやすい。
お勧めできるほど自分でもやってないので。
お互いに助け合いですから。
おつきあいの中で興味を示した方には勧めたいと思いますが自分から進んでお誘いするつもりはありません。
介護経験がないため、細かいお話ができない。説明不足。
介護される方が少しでも少なければ良いと思うので進んでやってもらいたい。
介護するされる人が非常に多い為。
介護というものは一人でも多くの人の参加が必要であると感じているから。

介護の必要性が少なくなるため受講していただきたい。
介護の必要を感じ、予算をかけないです。
介護の勉強は自分のためです。
介護予防がとても大切だと思うから。
介護予防教室に参加するということであればおおいに勧めたいと思う。
介護予防サポーターでなくも知識として知っておくべきことでしたので、このようなことを知ってる機会を大切にしてほしい。
介護予防サポーターという名前のもとで活動(行動)というのはあえてあまりしたくない。活動(行動)についてはどんどん勧めたい。
介護予防に関心のある人が多い方が色々な考えを出し合って幅広い介護が出来ると思います。
介護予防に対する意識が高まると思うので。
介護予防に対する知識を得ておくことは将来必要にあると思います。
介護予防の意識づけができると思う。
介護予防の重要性を認識し、実施してもらいたい。
介護予防の知識を皆さんに知ってもらいたいとは思いますが仕事をもっている人が多いので。
介護予防を自分で実践したり人のために教える事もできて、良い体験にはなるが人に勧めるとなるとちょっと考えてしまう。
各自生活環境が異なるし、無理に勧めても興味がなければ続かないから。
各人、それぞれ高齢者の家族がおり、介護をしている方が多く、時間的な余裕がないので無理に勧めることができません。
家族の誰もが具合が悪いとか悪くならない為の予防も兼ねて。
活動の場がない。(現在)
活動の場の確保が難しいのでまだまだ勧められないが、友人、知人とお茶を飲んだり食事の時にこの様な考えをもって生活していくことの大切さを話しています。
家庭にいたのではストレッチ、筋カトレニングは出来ないけど、肩甲骨、股関節の周りの筋肉はなかなかきたえる運動は一人では出来ません。
家庭に入ったまま暇をもてあましておられる方にサポーターの技術を学び人のお世話をする好ましさ充実感を味わって頂きたいと思います。
家庭の事情があるので無理にすすめられない。
考え方が違う。(外出を好む人。家の中を好む人)
関心がないと出来ないことなので。
気持ちの変化を感じてもらいたい
行政区内の高齢者のためにも。
強制するからフリーな活動の場がない。認定を受けたら村から即、地域で実施の指示。これでは一寸抵抗を感じる村からの丸投げ。(村からの指導なし)
近所に老いて身体の不自由な人がいるから。話しをくり返し同じ事を話す人。家にいてつまらないという人がいる。
近所に今年88歳になる一人暮らしの方がおり、その人が胆嚢管での退院のくり返しで、今は家にいます。その人と約束で7時30分に電話をして安否を確かめています。珍しい食事ができたときには持っていく。
近所にもお年寄りが多く、一人暮らしの人が多いため、私達60歳はまだ若い方なので同年ぐらいの人達と一緒に手伝いできたらと思い、友達と励んでいます。
近所のつきあいがなくなりつつある現代、この活動を通じ、コミュニケーションがとれるのではないかと 思う。

近所の人と協力できるから。
元気で時間に余裕があれば。
健康で意欲的な人に勧めたい。
現在、介護施設に勤務しており、職員の研修の一つにと考え、また地域に貢献していくきっかけになればと考えた。
現在、市のミニデイサービスのお手伝いでお茶を入れたり、ゲームをしたりしている。自分の存在がまだ見いだせない。
現在当地区では参加者いないのが状況です。
研修が自分の老後を考えるのにも役立つ。
研修は受けたが、その後何もなく「あれはなんだったんだろう」と思っているから。活動が全くない。
研修を受けても実践できるかわからないので
口腔ケアは自分の良い勉強になった。皆さんに知ってもらいたい。
高齢化が進んでいる現状を踏まえ、多くの人に自覚をしてもらいたい。
高齢化のため勉強したいという方が少ないと思う。サポーターにならなくてもそういう方々の気持ちが分かるだけでも勉強する事は良いことだと思う。
高齢化率の上昇は抑えられないのでお互い助け合う必要を感じます。
高齢社会に向けて、大勢の人に知識をもってもらいたいと思います。
高齢者が多くなり、自分も老いていくので、老後さみしくない生活を送りたいと思い、友達に介護サポーターを勧めました。
高齢になると特に体を動かす事をしなくなるので運動を勧めたいと思う。
個々のやる気が一番大切だと思います。
個人差がありますから、やる気のある人には快く受け入れて頂きますが・・・。
個人で活動するきっかけが見つからない。
子供や親の面倒に手がかかるのでボランティアをしている暇がない人が多いので。
このような活動は人に勧められてするものではないと考えられるので。
このような講座があることを知らない人が多かったので内容を説明して見たら興味をもっていたので是非勧めたいと思います。
これから加齢の人が多くなるのでお互いで健康に気をつけて生活していかなければならないと思う。
これから先、生きていくのに必要なことが勉強できたので。
これから先は高齢者が多くなるので大勢の人達に介護予防サポーターになっていただきたいと思います。
これから住んでいる人達を考えたとき、自分だけというわけにはいなくなり、身近にいろいろな経験のある人がいれば、お互い協力しあえば、心強いと思ったので勧めたいです。
これからの介護予防は地域の若い人の理解と協力が必要だと思います。
これからは、介護の必要なお年寄りが増えると思うから。
これからは一人暮らしや高齢者世帯が多くなりつつあり、これからの世の中はみんな協力し、助け合わなければならない時代になると思うので多くの人に理解してもらい協力してほしいと思います。
これからはみんな介護が必要です。
これから必要となると考えているから。
今後、介護される方が多くならないように多数の人に指導する為にすすめたい。
今後、高齢者が増えるに従い、生涯現役を過ごしてもらうため。
サポーターイコール介護に関心のない方にすすめても仕方がないので勧める必要はない。自分自身で感じた人がサポーターとしてお役に立てれば最高です。
サポーターが習得し、実践、自分の為で良いことを他の人に広めたいから。

サポーター活動を通して多の人とのふれ合い自身の心が広まるから。
サポーター研修を受けなくてもその様な活動を自主的に行っている人もいる。
サポーターであり、指導者として認められる程の力がつかない。
サポーターとして研修を受けて、それっきりという人が多いように思います。自発的にやりたいと思わなければ勧めてもどうかな？と思います。
サポーターになることはまず自分自身の体調を整えることにつながるので、多くの人に関心をもってなってくれたらいいと思う。
サポーターの内容を深めた人が多くなればそして実行することが出来れば世の中が住みやすくなると思う。
サポーターを続けるには定期的な研修を受けることが必要だと思います。1回ではムリだと思います。
サポーターを増やしたい。
サロンボランティアさんにも勧めたい。地域で役にたつ為。
参加して自分なりに少し理解できたがもう何度か研修の場に参加しないと人には何とも言えない。
参加してみて内容がはっきりつかめないから。
自活した生活を送るため、生きていく上での楽しみ、生きがいづくり。
時間的にゆとりが無いと無理です。
仕事をしない人、暇な人に手伝ってもらいたい。皆で勉強しようと思う。
仕事をもった人達がいるので少し周囲の人に勧めるのが難しいのではないか。
仕事をもっている方が多いため。
自身の為。勉強する人しない人に差が出ている。
自他共に役立つ。
市町村の職員の広報活動が重要と思う。
実際すすめて、サポーターになった。
実際に活動していないのでどちらともいえない。
知っていて悪いことではないので。
知っておくと良い生活ができる。
自分、高齢者、年齢を問わず沢山の人の関わりをもてれば。
自分が介護していただく時に役に立つから。
自分が町内会長さんに勧められて初めたことなのであまり健康に自信がないので勧められない。
自分がまだ自信をもっていけるようになってから。
自分がより良い健康管理ができ、もっているものを少しでも人の役に立つことが出来る為。
自分自身、民生委員をやっていたらいきいきサロンを立ち上げることもなかったと思う。立場が違ったらサポーターになっても役に立たなかったと思う。
自分自身が活動していないのでわからない。
自分自身が元気でいられそうという事をすすめたい。
自分自身がサポーターとして活動していないので周囲の人にすすめる事が出来ない。しかし何かきっかけが出来たら活動を開始したいと思っている。
自分自身に役立つから。
自分自身の健康の基礎作りにもなるし、又、そういった交流から仲間づくりもでき、活動の場が広がると思う。
自分自身の現在の体力に自信がない。
自分自身のためになるけれど・・・負担に感じる人もいると思う。
自分自身のためにもなると思うから。日々の過ごし方が変わってくると思います。
自分自身もある程度まで健康でいられると思う。

自分で思わなかったら出来ない。本人次第です。
自分で気づかず、迷いのあった事が先生方によって前に進む事が出来た。
自分で決める事だから。
自分で研修会に出席してとても勉強になりました。周囲の人も少しでも知識があったら助かると思います。
自分で受講させていただき、それ(学んだ事)を行動にうつす事の難しさを思いますと考えさせられます。ボランティアは人に勧められするものではないと常日頃考えています。心のある方に参加していただきたいものです。
自分で体験してみても得るところがありました。
自分で楽しんでいるので人に勧めるまでいきません。
自分で通る道なので心しておきたいから、私より若い60歳代位の人にすすめたい。
自分で勉強すればすむことだから。
自分に積極的な活動の意志があってもそれを生かせる環境やシステムが整っていないため。
自分の気持ちもしっかりしてないし、地域もやってない。研修中でもあるので。
自分の健康管理と多くの人と友達になれるから。
自分のことは自分で自己の関心。
自分の将来のためにもなるので。
自分の生活があるので研修に参加する時間が合わない。友人が農家の人。
自分の体力を知ること大切だと思います。老いることを自覚することの為にそう思います。
自分のため、又他人のためになる。
自分のためから予防によって負担の軽減ができることを周囲に広げたいです。だれより自分が一番痛切にわかっているの。
自分のためでもあるが地域全体としてとらえていかなければならないから。
自分のためにとても良いと思うので勧めたいです。
自分の為になるし、機会があればサポートできるから。
自分のためには役だったが(特に筋トレ)活動の場がない。
自分のためにも他人にお手伝いできることはうれしいことです。
自分のためにもなるし、近所でもお年寄りのほうが多くなり、まずはまわりからと思っているので近所の方を誘おうかと思っています。
自分の為にもなるし、又、介護の事が分かると思う。
自分のためを主に受けたので皆様に勧めたいが相手が加齢のため、信頼されないかなと思います。時々人によっては話しています。又友人の病気などできる手伝いはしています。病院への往復、日常生活の手伝いです。
自分の力で一生、元気で生きていかなければならないと自分に言い伝える事が必要だと思う。
自分の身近に発生した時に少しは役だつ。
自分の役をする人をお願いしたいから。
自分も将来の問題としていずれかは介護をうける立場になるはず。1人でも多くの人理解と協力が必要。
自分も含め高齢化社会になるから。
自分も勉強になるし、皆で助け合う必要性がある社会になってきているから。
社会のためになるから。
社会へまず出て見ることも大切。
周囲に適当な人(ボランティアに関心をもつ)がいない。
周囲に若い人が少ない。

周囲の人が老人だから家を出ない。
周囲の人も介護予防サポーターというのを認識してもらいたい。
修了後現在引き続き実施しております。新規の人も現在実施しております。
受講した本人は大変勉強になりましたがボランティア意識のない人に何と言っても無駄のようです。我が身にふりかかってきて(身近にそういう人が出て)初めて必要になるのが現状です。
少子高齢化の進む中で自立の生活と相互扶助になる。
将来の為に勉強しておくことは大切。
女性だけに任せるのではなく、1人でも多くの男性にも参加してもらいたいから。
知ると知らないでは全然違うと思うので。
人員の多いほうが良。
人格的に、性格的に合っている人でないとしたら、資格をとっても意味はなし。
少しでも役立てたら良い。
すすめたいが周囲の人達は皆さん高齢で(75歳~の方々)が多いので勧められない。
すすめたいと思いますがなかなか理解されず残念に思っています。
勧めて19年度研修を受けています。
勧められてする仕事ではないと思います。自分からやる気でないとい..と思います。
勧められてできりものではないと思う。自主的に信念をもっていなければ、研修も受けないのではないかと思う。
すすめられてもなれるものではないと思う。
すすめるものではなく、各自が進んで勉強しなければサポーターとしてボランティアは出来ないと思います。
する気のある人はすると思う。ボランティアは自分でする気にならないと続かない。
責任のあることなので他人に勧められない。
せっかく研修会を受けたのに継続した勉強会がないから。
組織がはっきりしていないので活動状況がわかりづらい。
その人の家庭状況があり、こちらからは勧められない。
その人の考え方でサポーターとして活動しえない人が多いように思える。
それぞれの家庭の事情による。
それぞれ皆、忙しいので。
第一に人に勧められてやるものではないからです。
体操で体を動かす事が良いから
大変なのですすめたくないです。
大変なのでやる気のある人じゃないと無理があると思います。
大変良い講座でしたので参加してもらいたい
たくさんの方が知識を持つことで、より健康な人々が増えるし、これから高齢者の割合も多くなるのでこれらを支える人が必要
多数の人に参加してもらい地域の活性化に。
たった一回のサポーターですがその日が縛られるので。でも勉強になります。
他人のためと思い(義両親)受講したが自分のためになった。
他人のためにも自分のためにも体力に自信を持てるようになればと思います。
他人のためにも世話好きであり、明るくとりくむ人ばかりでない。
他人の役に立てなくても学んで多少なりとも実践できれば介護される側からは少しは遠のくのでは？
誰でもいずれ高齢になりますが、その時、自分の生活に生かす事ができるから。
誰でも知っておいたほうが良い。

誰にでもすぐできる事ではないと思う。
誰にでもできることだから。
団塊の世代を寝たきりにしない為、今から意識改革をしてもらう為、なるべく多くの方に勉強してもらう事が大切と考えます。
地域活性の為に。
地域社会のなかに相互助け合いの精神を広げていけると良い。
地域全体に理解されると良いから。
地域で多くの人が協力出来ると思います。
地域的なこともあるので、市町村が思うほど進んで参加が増えるとは思わない。
地域で高齢者を支えるには多くの人参加が必要。特に元気な高齢者の参加が必要と思う。
地域に多ければ多いほど心強い。
地域に高齢者が多いので。
地域に一人でも多い人がいたら力強いから。
地域に一人でも多く自宅の周囲は皆一人住まい高齢者夫婦80歳以上の方々と自然と声をかけたいくなる。
地域によっては少人数でやらなければいけない所があると思います。
地域の高齢者が増加しているので、少しでも介護予防サポーターになることで介護予防知識を得ることが出来るため。
地域の高齢者の活性化。
地域の中に介護予防サポーターがぜひ必要と思う。そのサポーター連携をとり、地域のネットワーク化を図ったら良いと思う。
地域の人にもっと理解を深め、サロンの利用が介護予防につながる事を広めてもらいたい。
地域の皆様が周りの人に関心を持つような気持ちになってほしいと思いますので。
地域の連帯感を強める。
地域や周囲の人皆でサポートしていく必要がある。
知識を得られる。
中高年の方々一人一人が学ぶ気持ちをもてば町民の介護予防に、大いに良い結果がでるのではないのでしょうか。
町内の高齢化です。不安材料たくさんあり、予備知識があるだけでも安心(老化)の。
適した人とそうでない人がいるため自分も実行することがむずかしいので。
出来れば勧めたいと思っている。
どうせ長生きするなら元気でいたいし、仲間もできるから。
同年代の方々に話しはしても理解がもらえるか不安で。(話し方がうまくない。)
特定高齢者など元気な方にすすめたい。介護保険を先送りにするのではないことを伝えていきたい。
年をとるばかりでお身大切かな。
とても勉強になり、介護の事を積極的に関心もてるようになる。
とても良いと思うから。
どの様に説明して良いかわからない。
どんな事をするのか自分でもわからないから。
内容が理解不足なので。
なかなか一般の人達はよくわからない。(機会)が無いのでは。
なかなかすすめるのは自分のことだけでサポーターについてはあまり関心がありません。
仲間がいっぱいいた方が良い。
仲間作り。

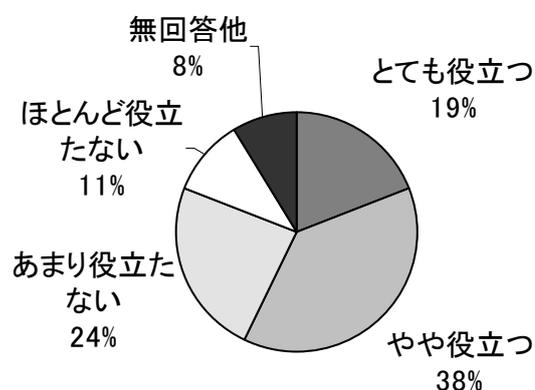
仲間を一人でも多く、実際にサポート推進するのに役立てたい。
何かあった時は周囲の人に知ってもらいたい。自分の事だけでなく、周囲の人も何かあれば自分で解決ができないから勧めたい。
何より自分の為になるし、少しは他の人にアドバイスぐらいできるから。
何にもしていないのでわからない。
日常生活に必要なのであるから。
日常的な事なので改めて勧めても関心が少ない。
人間性の問題だから誰でもよいという訳ではないと思う。
人間は誰も老化を迎えるため介護サポーターを取得しておくことと寝たきりを多少、防げるのではと思い、地域の方に教えて役立てたい。
寝たきりにならないため、一人でも多くの人に参加していただきたい。
年齢が高いほうが多くなり、自分の体を自分で守れるようにするため。
初めての講習で、介護サポーターとは本来高齢者に自らなってもらい、自ら健康への関心を持って実践してもらい、要介護者を少なくすること、医療費の負担を軽くすることだと聞きました。現在対象の年齢の方には勧めたいですが、私と同年代の人にはできません。
必要なことだが受講しただけで活用できないのでは有効でない。
人から人へと聞いていると色々なことを話すが、きちんと先生からの受講だと安心する。
人それぞれ考え方もあるし、好きな人でないと、介護は難しいので、お茶しながらの話題の中には出しはいますが。
人それぞれで身近な人に話しても反応が少なくない。
人それぞれの立場があり、自分がその立場になってはじめてわかることなので。
人との出会いが楽しいから。
人に接することで自分に得るものがあるから。
人には向き不向きの人があり、サポーターに向いている人ならばいいがそうでない人には無理。
人にもよるし仕事をしている人が多いので、研修に参加できないと思う。
人によって気を悪くする人もいます。
人によって向き不向きがあるから。
人のいたみを少しでも理解できるように。
人のサポーターをするという事は大変なことなので自分から進んでしてもらいたいので。
人の為にも自分の為にもなるので。
人のために役立てたい。自分ではなかなかできませんが。
人は人、自分は自分。
一人で介護することは大変です。多くの方が協力していくことが必要と思います。
一人では立ち上げは大変かなと思う。
一人では力不足。
1人ではとても無理。(何人かが集まり地域の人と交流する機会がなければ)人数を集められなければその機会を作る人に勧めたい。
一人でも多くのサポーターができれば近くの老人をまねいて交流できるし、それが自分のためになると思う。
一人でも多くの方が知識を学んで人の為に役立ってもらいたいから。
一人でも多くの方が毎日いかに楽しく生活できるか。
1人でも多くの人と共に勉強した。
一人でも多くの人に参加してもらいたい。
一人一人が自己の健康管理を認識して予防する心得にしたい。

広く知って欲しいと思います。
夫婦共働きの家庭が多く自分の生活を維持していくのがやっとの世の中です。進めたいとは思っていますが、どちらとも言えません。
福祉のささえあい。
平日のみ介護予防教室が開催されているため参加できない。
平成19年度の講座に2人誘いました。一緒に活動できれば良いと思い、又自分の為にも役立つからと言って勧めました。
勉強になる。
ボランティアというポジションを自分自身理解しているかどうか不安。
ボランティアとして活動したいと考えている方が地域に何人もいます。
ボランティアは自発的にするものだから。
ボランティアは自分が納得しての参加でなければ長続きしないと思いますので。
本当に口では介護する立場でも一人ではとても疲れる。
本人の意志が大切なので。
本人の自由でその気持ちがない人に話しても、無駄だからです。やる気持があれば、進んで参加すると思います。
まず、自分のためにもなるので。
まず自分の健康に気をつけ、なるべく人の介護をあてにしない様に。
まず自分のためになる(健康保持)それが他人のためにもなる事は大変良いことと思います。
まず自分の為になるから、又人の為にも。
ますます高齢化の時代になるため役立つと考えるから。
ますます高齢者が増えていく中で若い人にも受けてほしいと思います。(お互い理解しあいたい)
まだ介護予防サポーターとしての役割が明確にされていないので。
まだ自分で体験していないので何とも言えない。
周りに該当するような人がいないから。
周りの・・周りとの関係がこれからサポートするにあたっても周囲の人との和になれば。
周りの方々は忙しそうで元気。
短い期間の研修で高齢者の人達にどう接して良いかが解らない。
身近にサポーターがいればもう少し活動しやすくなると思う。
自ら参加すべきだと思う。
自ら進んでサポーターになり活動したい人には勧めたいが人により向き不向きがあるので。
自らの介護予防を若いうちから認識し、中級研修で学んだような内容を実践する人が増えて欲しい
自らの為にも良いから。
皆、元気でいたいため
みなさん忙しいから。
皆さんが受けていたらボランティアに参加して下さる意識が高くなると思う。
皆さんで(一人でも多く)学ぶことによって良い結果が生まれると思うから。
皆で介護予防に関心をもち、健康でいたい。
皆でやれば良いと思います。
皆の健康のため。
ミニデイサービスにボランティアとして参加しているが自分の資質が心配。
みんなで力を合わせて親切にすることが、困っている人を助け、世の中が明るくなると考えているから。
みんなで病気にならないように身近で運動、食事他やれば町もお金(病院に支払う)の支出もへるし、町全体が元気でいてもらいたいです。

みんなに知ってもらいたい。
昔ながらのつきあいをやめ、少しずつ若い人達の協力者となるため。
昔のように地域の人々が地域を支える事が望ましいと思う。
向き、不向きがある。
無理に勧めても長続きしないから。
無理にすすめるのではなく、興味があるのなら声かけて参加を促したい。
もう少し人数を増やして欲しいから
もっと若い方に多く知って頂きたい。
物事の見え方が前向きな人に勧めたい。名譽職的な考え方の人は駄目。
役に立つので
やはり本人の気持ちが一番だから。
やりたくない人も多いのでは？
友人、知人、周囲の人達との会話のなかで、介護サポーターとしての意見交換をしたいです。
横の輪を広げ地域でこれから楽しい生活を送りたい為。
理解度が深まるから。
老人が増加するから、サポーターは必要と思う。
老人世帯がふえていくので、お互い助け合う地域になるので。
老人ばかりで(友達)勧めてもだめだと思います。
若い人(50~60代)に特に勧めたい。子供にも手がかからなくなった人には良いと思います。
若い人なら良いですがお年よりは無理です。
若い人は仕事があるので私も仕事を持っているので、全部出席出来ないと思う。老人は進んでというわけにいかないと思う。
若い人は皆共稼ぎのため家にいない人が多いため。
わからない。サポーターの活躍の見通しがたっていない。現状ではどのように考えたら良いかわかりません。
私の周囲の方は働いていたり、ボランティア活動をしている人が多いので勧めている時間がない。

19) 「学んだ知識がサポーター活動に役立っていますか」

	回答数	パーセント
とても役立つ	131	18.8
やや役立つ	267	38.4
あまり役立たない	165	23.7
ほとんど役立たない	74	10.6
わからない	1	0.1
無回答	58	8.3
合計	696	100.0



「「3あまり役立たない、4ほとんど役立たない」の項目を選んだ方は、その理由を選んで下さい。該当する項目がなければその他に記入をお願いします。(複数回答可)」

	回答数	パーセント
サポーター活動をしていないから	133	55.6
サポーターの活動の機会が少ないから	110	46.0
サポーター活動に役立つより自分に役立った実感が強いから	72	30.1
サポーター活動には初・中級研修で学んだ知識を生かせる場がない	64	26.8
学んだ知識を役立てるという目標をもっていないから	17	7.1

n=239

「その他」

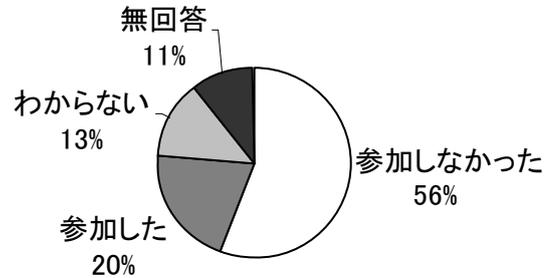
活動の場の確保が難しいのでまだまだ勧められないが、友人、知人とお茶を飲んだり食事の時にこの様な考えをもって生活していくことの大切さを話しています。
行政は活動の場を設定してくれていますがもっとサポーターの役割を明確にしてサポーターの活躍の場を増やして欲しい。
桐生市ではこれから活動に入ります。各公民館単位で役員が決まったところです。
現在週3日働いていて日程が合わず。
現時点で、まだ活動していないが実際に活動すれば役に立つと思う。
個人では踏み込めない事情もあり、村ではこれから活動の輪を広げつつあります。村当局でこれから役立つであろうと期待している。
サポーター活動は実際行われているのですか？
サポーター活動をどの様にやればいいのかわからないし、学んだだけでは、生きないと思います。行政の方々が方針を出し、その中に参加させていただき勉強させていただきたいと思っています。
サポーター修了後の連絡及び、情報提供も無いので、横のつながりも無し。
時間的に余裕がない。
自分のために学んだからボランティアをしようと思っていなかったから。
初・中級で学んだぐらいでは他人に指導できない。
その他に○のみ
地域性の為か、あまりまだしないで欲しいと言われている為。
知識を役立てるという目標をもっていないから。
中級の資格を得たが活動の機会も場所も紹介もない。
妻が平成19年2月から腰痛で介護4になり居宅介護で外に出られなくなってしまいました。
ヘルパー2級で5年間仕事していたから。
まだ町自体がやっていない。
全く機会がない状態です。
学んだ事があつたかどうか自分でもわからないから
役に立つ話が聞けなかった。

介護予防上級サポーターについて、全員にお聞きします。

上級は、市町村の介護予防事業に15時間程度参加する上級研修の受講により、市町村が認定します（研修内容は市町村ごとに異なります）。

20) 「上級サポーター研修に参加しましたか」

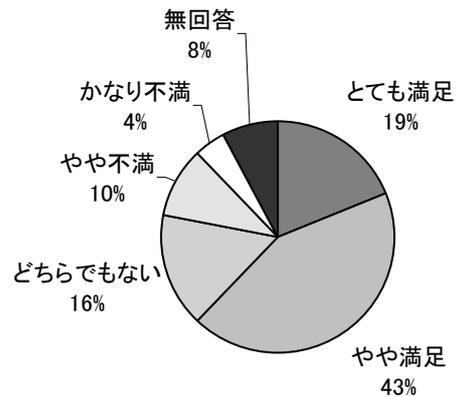
	回答数	パーセント
参加した	142	20.4
参加しなかった	389	55.9
わからない	91	13.1
無回答	74	10.6
合計	696	100.0



上級研修に参加した方のみご回答下さい。

21) 「上級研修の満足度について」

	回答数	パーセント
とても満足	27	19.0
やや満足	61	43.0
どちらでもない	23	16.2
やや不満	14	9.9
かなり不満	6	4.2
無回答	11	7.7
合計	142	100.0



22) 「上級サポーター研修では何をもっと体験してみたいですか。（複数回答可）」

	回答数	パーセント
筋トレや唾液腺マッサージ等の介護予防技術の体験	56	39.4
筋トレ教室参加者の会場での案内と声掛け	51	35.9
デイサービスでの見守りや声掛け	49	34.5
体力測定(握力等)の補助	29	20.4

n=142

「その他」

現在サポーターをしているので毎日が勉強になります  
施設を使っての実習  
全身運動  
老人の食生活実習

23) 「上級研修で改善してほしい点がありましたら記入をお願いします」

一般論にして欲しいですね。
介護サロンでは試行錯誤してお手伝いさせて頂いておりますが、他のサポーターとの交流も必要と思います。時間的なこともあると思いますが見学に来られるのではなく、見学に行ってみたり、他町村のサポーターの働きを勉強してみたいです。
介護予防技術の体験
介護予防の運動・筋トレがリハビリを基本としているようだが、リハビリと予防では対象者も違うので、内容も違うはずである。(富岡市の上級講習会の場合)
会場によって研修・進行方法が違ったので指導の統一を望む。
改善ではないと思いますが年寄りでいちばんきらわれることは人の悪口を言う人です。若い人に可愛がられる年寄りになることが一番大事なことです。まず心の問題です。そんな話も少しはしてから介護予防に入ったほうが良いと思います。
各部落に2人ぐらい、又1人の部落。上級サポーター研修を受けたのですが何か活動と思っても、むずかしいです。
筋トレ教室に参加しましたが2回とも同じもので曲に合わせて受講者と一緒にしているだけで、これではサポーターとしての研修が足りないなと思いました。
筋トレ教室に一人でも多くなる様、皆様に勧め実施したい。
筋トレ教室も参加のみ、体力測定も補助のみでサポーターに対する指導は具体的でなかった。
筋トレや体力測定においてこれは体のどこを使っているとかどこを鍛えるためとかの説明も欲しい。
血圧測定に時間がかかり始まりが遅くなる。時間の流れがルーズになりやすいので研修時間が少なくなる。
健康を保つためにはあらゆる所を動かさなくてはならない。普段使われていない所こそ重点を置くべき。
現在通りで良いと思います。
研修講師がはっきりしていない。地域の筋肉トレーニング会場と一緒にやるだけでなく、それぞれの運動のポイントなどを説明してくれながら、声かけしながらやって欲しい。富岡市では1.5時間位を3回参加するだけで修了なのか？(筋肉トレーニングの音楽をかけてするだけ)
研修時間が短くて中途半端だと思う。
研修生にも自己のもっている(発表可能な)体操等の発表の場をスケジュール化してほしいと思います。
サポーター同志の交流、意見交換。
サポーターならこの程度の知識でOKなのではないでしょうか。もう少し専門的でもいいのかな~とも思ったりしたのですが。



「そう考えた理由は」

活動していないのでわからない。(7件)
活動していない。(6)
活動の場がほとんどない。(5)
活動に参加する方法がわからない。(4)
「生き生きサロン」に参加していますが出てくる人は比較的介護をそれ程必要としない人が多いので。(3)
参加してくれる人がやや少ないから。(3)
相手のいることなので家族関係等もあり、むずかしい点もある。(2)
家の中に閉じこもって身体を動かそうとしない人達に対して、積極的に声をかけて外に連れ出し、活力をつけてあげられる活動が出来ると思いますので。(2)
介護予防の意識づけにより、より良い長寿社会を維持できると思う。(2)
介護予防の知識の大切さを広く一般の人々に浸透させるためには、介護予防サポーターの地域での活動が今後必要不可欠であると思う。(2)
活動の場所をもっと多くして欲しい。(2)
筋トレに参加させていただいて私自身も足が強くなったし、一緒に参加している友達を見てもはっきりその効果がわかります。(2)
健康によい。(2)
高齢化社会、多少の知識を身につける事が大事だと思う。(2)
自分から進んで参加してくれる人が多く、楽しんで帰る笑顔が見受けられます。(2)
自分自身の介護予防になる。(2)
自分に役立つ(2)
知識として知っておくことはいざという時に役立つ。(2)
ミニデイサービスのお手伝いに市から委託されましたが、これは介護サポーターの知識は必要ない…といっても良いものでした。ただのお手伝い…むなしい感じを受けます。(2)
ADL体操リーダー研修で学んだことを高齢者に健康体操としてやっています。
あまりぴりっとなかった。
あれだけの運動は個人になったときはやれない。
家での介護で少しは参考になったがそれ以外の何の活動もやってないので。
家に閉じこもらず外に出て筋トレをすることは寝たきりにならない為に必要だと思います。筋肉をきたえるだけでなく、外に出る事により人とのコミュニケーションもとれ、一石二鳥だと思います。
家の外に出る人は出る。出ない人は何に誘っても出て来ないです。
いきいきふれあいサロンに参加しても介護予防についての活動が見られない。
意識改革ができる。(日常生活において)
医者が治せないのに私の身体が改善されたから。
一部の人達の輪のような気がする為。
いつか自分も年を重ねて人の世話になるときの参考になるのではないかと思います。
一般の方がわかっていない。
いつも頭にあるから実行しようと思う。
今、回想法に参加しているが参加者(高齢者)が少ない。

今、私はJAで行っている(市が委託)デイサービスへ参加活動させて頂いていますが、ほうぼうにサポーターとして研修を受けた方がいるはずなので、どの辺まで足をのばしてよいのか思案しています。介護サポーターとしての活動の支持が欲しいです。
今現在の状況では全く役立っていないと思う。時間をかけて初級・中級の研修を受けても、それを生かせる「場」の提供や提案が全くなく、逆にこちらから老人ホーム等でアロマを使って手(ハンド)マッサージをやりたいと申し出たが、何の音沙汰もない状態です。
今の活動では役に立っているのかあまり伝わってこない。催しをしたときに、そこへ出てくる人はそれだけで良いと思う。そこへ出てくるまでの行動の引き出しができれば良い。出てきてくれるまでがなかなかむずかしい。
今の所やっていません。
今は6あたりと思うが、これからであると思うから。
今はあまり現実に活動していないが将来その場に立った時、役立つと思う。
今はこの体験を使った事(使う場所)がないから、ただ研修を終え、この間1日だけの研修に参加しただけです。
今は市主催の筋トレの血圧測定とか会場の案内をしています。もう少し小さなグループで皆が気安く参加できる様にしていけば、役立つと思います。
今は役立っているという実感があまりありません。
今まで運動不足だった自分がよくわかった。まだ間に合うと思い、予防している。
今までは自分のことだけを考えて歩いてきた自分でしたが介護予防サポーターを受けて、他人にもまた困っている人にもそっと手を出せる自分を発見できたことです。
依頼があったときに全部参加できない時があるので。
色々な教室参加者の会場での声かけや体力測定の補助など参加するサポーターさんの力は大きいと思います。
受けただけで活かす機会がなければ、自分一人だけのもので終わってしまうから。
運動を続けているお年寄りが見ていて効果があるとわかったから。
老いていく自分自身にも体を有効に使うコツ、たとえば筋肉の使い方・口腔ケアでは、ふだん心がけていることをあらためて大切なことなどを学んだように思います。自分が少しでも介護されないようにする予防としても役に立ちました。
お手伝い位ではないでしょうか？
会ができたばかりです。
介護(寝たきり)予防には、日常における①栄養②休養③運動がもっとも大切。その為に十分役立つと考えます。
介護が必要になる前に予防しておけば普段とかわらない生活が可能であるので、予防を心がけることで元気なときにいろいろ体が動かせ、近所の人とも交流ができ、心身ともに充実出来ると思う。
介護サポーター制度に対し、実感がわからないから。
介護サポーターとして認知症予防講座に参加しているが、参加者のみなさんが「生き生きして喜んでいる姿」を見ると講座修了後も何らかの形で続けてやりたいと思い継続している。
介護される状態になってからでは遅いから。
介護自体体力が必要な仕事なので。
介護している現在学んだ事を役立てている。
介護士の人達から見るとボランティアの人達は本当の介護がわかっていないのでやりづらいと聞きました。
介護者はほとんど施設やホーム、デイサービス等を利用している。
介護する人(家族)の負担が多少軽くなるか？

介護の本当に必要な経費を削減する為で高齢者の理解が得られない時に男性が参加しない。介護経費削減の対策であり、本当の介護予防の対策でない。
介護の話題が出たとき研修内容等おしえてあげられる。
介護は誰しものが経験する身近な問題。他者にとっても自分にとっても知識として自覚していることは大きな糧になる。
介護保険を少しでも先に伸ばせれば。運動、食事、近所づきあい等毎日が楽しくすごせる事が大切かと思う。
介護予防が将来的に必ず役立つと思っているから。
介護予防教室が今後あちらこちらで行われると思いますので。
介護予防サポーター研修のあの程度の研修(上級)でそんなに役立つなんて考えられない。
介護予防サポーター制度があるというのは始めて聞いた言葉。医療費削減には役立つと思う。
介護予防サポーターということが多くの市民に伝わっておりません。もっと広報にて特に外出の少ない高齢の方にとり思います。
介護予防サポーター等を開いても、高齢の為、その会場に足を運ぶことのできない方も多くおられると思います。会場にこられる方には大変役立つと思います。
介護予防サポーターと活動するまでには市町村がもう少し教室広げてやってもらいたいから。
介護予防サポーターとして活動していないので学んだことを忘れてしまっている。
介護予防サポーターとして活動していないのでよくはわからない。自身としては筋トレや有酸素運動しているので体力は向上していると思う。
介護予防サポーターとして研修を受けた自分には役立っていると思います。地域の皆様にはなかなか伝える場がない。時々、訪問している一人暮らしの高齢者に伝えているぐらいです。
介護予防サポーターとしての活動をしていないからわからない。自分としては上級もとれるように頑張りたいと思っている。
介護予防サポーターになって努力しだいで力がつくと思います。
介護予防サポーターの研修での介護予防の知識が地域でも活用できるため。
介護予防サポーターをサポートしていただく人がいない。日付ですが手伝う人がいない。
介護予防サポーターをする事により寝たきりをなくし、毎日の生活により良いものになります。
介護予防でPT、OT、STの連帯によって健康年齢で生活できるようになれると思う。
介護予防という考え方が少しずつ広まっていくのではないかと思います。
介護予防に参加する人が限られてしまう。
介護予防の推進そのものが地域で現実のものとしての実行がもっと具体的に目に見えない為。
介護予防の推進を実行することです。
介護予防プログラムをやっていくうえで、どうしても手伝いが必要だと思う。
介護予防を行っている地域とやっていない地域があるので良くないと思います。
介護予防を理解することで役立つと思う。推進では積極性が必要。
会場(ミニデイサービス)の掃除、手伝いぐらいで声かけのチャンスもままならない。
会場づくり(机、椅子箱で)お茶入れ近くでサービスを受けてる人の手伝いをするのではあとかたづけ。
会場で皆一緒なのでとても役だっていると思います。
回数が少ない。仕事とぶつかってしまうことが多い。
会としての活動はどの様なのとまだわかりませんが、受講した事でたくさんの事を学び外出した時、まわりを見た時、自然と手が出、口が出てさわやかな毎日です。
学習することで自身の生活を改善することが。
各人それぞれの生活環境や意識の程度により違ってくると思います。
各人の自主性を伸ばしていくやり方なので。

活動回数がまだ少ないので様子がよくわからない。
活動が現実化し、すべての人に参加してもらえば役立つと思う。
活動している現場を見ていないのでどちらとも言えない。
活動する場がない。活動する場があっても、勉強したことはあまり役にたっていない。ミニデイサービスを手伝っている。
活動する場所がわからない。自分から積極的に活動する場を探すにはかなり決意必要だが、活動も場から誘いをしてほしい。
活動内容したいですが。
活動の場が全くない。研修中にグループミーティングで話し合った意味が生かされれば。一人では活動が難しい。
活動の場面がないため、自らアクションを起こすのは難しい。誘われれば参加したいという気持ちはある。
活動の方法がわからない。
活動目的によって異なるため。
活動をしていれば良い点、悪い点、疑問点など色々、でてくるとは思いますけどしていないので答えがみつからないです。
活動をやる事により他の方へのアドバイスや又自分自身のためにも。
軽い運動、筋トレは転倒予防の他に全身の健康のために良い。ただ地域の活動の場及び住人の認識がない。
機会がなかったから、まだわからない。
機会をどのようにとらえたら良いかわからない。
きちんとした理論考えのもとに行われている事だから。
基本的には自発的に行動することが理想ですが、やはりある組織体でリーダー的な存在を発揮してもらわないと、各個人での活動では限界もありうる。
教室に足を運ぶだけで良いと思う。又、使わない筋肉を使うので(無理のない)体にとって気持ちが良いと思います。
行政側がどれだけサポーターを活用できるか発案力がなければ、サポーターが級などとても意味がない。地域によってかなり差ができると思う。
行政等が積極的にサポーターを活用すべき。
行政と連携して行われるものですから、個人的にどうこう言えない。
行政の中での位置づけがないので活動できない。(今一歩)介護予防サポーターという言葉を知らない住民が多い。
近所の老人の方に体操を教える程度。
筋トレも口腔ケアにしても毎日の生活に役立つと思うので。
筋トレや話し合いをしたりしている人達が笑顔で楽しんでいる。
具体的な活動が思いつかないから。
具体的に活動するにしても他人の協力がなくてできない。他人を集めてやることはむずかしいので1年以上になりますが、現在まで3回しか皆さんと話すチャンスがありませんでした。
車の運転ができない病院、買い物につれていけない。運動、筋トレは良いんですが。
継続すれば筋力が強くなり、腰痛、肩こり等は改善する。医療費の節減になると思う。高齢者は痛みのない生活がいちばん。
元気な人がみんなサポーターできる世の中になれば良いと思う。
現在、地元で行っている。いきいきサロンで活用しています。
現在、地域活動で高齢者に週1回筋力トレーニングとミニデイサービスだけの活動で介護予防サポー

ターとして研修した事があまり実践していないと思います。
現在親の介護中なので、他の人を見ると広い視野で接することができるし、友人も介護で大変な人が多く、お互いに話しをして理解することが出来て良いと思います。
現在家族の介護におわれていて、介護サポーターの活動があるのかもしれませんが。
現在地域で行われている内容では参加者に対してあまり変化がみられていない為。
現在の仕事に役立っている。受けた内容を時々確認し、地域に役立てようと思っています。
現在の段階では自分自身の知識として役立ったら良いと思っています。
現在は筋トレサポーター、ミニデイサービスの参加をしているが、それだけで良いのか疑問に思う。
研修会の実施だけでなく、組織化して活動の場を作らないと役立つところまでいかない。
研修後サポーター活動を行っていない方がいるとしたら、(または自分自身行っていない場合は無意味である。)
研修して得た知識が自分の為にもなり、アドバイスもできると考えたから。
研修センターを利用して介護予防サポーターが地域のお年寄りを集めて学んだことをしてあげたいと思います。がまとまりのない町で自分さえよければという考えの人が多く、もっと声かけして集まれる場所づくりをして欲しい。
研修で学習した事等を実践し、話題とできる。
研修と実際とは違いがあると思いますがその場になればきっと役に立つと思います。
研修に参加してみて父母に近いような方々が多数、参加されており、運動量も私のほうが体力的に劣っていた。
研修の内容が活かされていない。
研修の連絡や呼びかけもない。
研修を受けたことが上級サポーターの活動に参加して感じました。
研修を受講された方をみて、中高年の方々で、本人達がやっと運動している姿を見ると、一緒に行うことが楽しみにつながるかどうかが？もう少し若い方々と思います。
研修を通して介護予防に役立てることは喜ばしいことです。ただいかに活用するかが課題です。活用してはじめて制度が生きると思います。
現段階では活動する機会がまったくないから。初心者には与えられた活動から始めないと。なかなか自分からその機会を求めて活動する事は難しいと思う。組織、人間関係等。
口腔予防は飲み込みや誤飲に役立っている。
講習後、すぐ活動に入ればとても役立つと思いますが受講ただけで時間と共に忘れてしまいます。個人ではなかなか活動できません。
講習内容から見た場合。
公民館等で行いますがまずそこに出て来られない人をどうするかが問題です。まだ軌道にのらない。
公民館等でする場合、月に2回私の地域は2ヶ月1回やらないよりやった方が良いが筋トレ等は一週間に1回すると痛みのある人も調子良いと言ってます。私自身週1回筋トレ2時間1500円会費。月に2回筋トレを集う会(1回2時間500円会費)でやっています。お金を払ってやった方が皆休まず、真剣になると思います。誰に聞いても家ではできないと言ってますので効果ない様な気がします。
高齢化が進んでいくなかで、サポーターが地域にいてくれるのは心強いと思う。
高齢化社会になりますので一人でも少なく寝たきりにならない為にまず介護予防が大事だと思いますのでサポーター制度は役立つと思います。
高齢者が毎日続けられる運動を教えられる事により転倒予防になったり、普段、働かさない筋肉を動かす運動をすること
高齢者には良いと思う。まだ60代の私には必要ないと思う。(今現在では将来はわからない。)
高齢者に有益な内容である。

高齢者の事業の手伝いが積極的にできるようになった。
高齢の独居の人が多いので
高齢を迎えすべてにやる気を無くし、足、腰、膝のおとろえ等が進んで来てしまう。そのため、介護予防サポーターは老化を少しでも防げると思い、地域の方々に健康で(体操、栄養、口腔ケア、認知症予防)を広めサポートしてあげたいと考えています。
心のケアが世の中で叫ばれています。隣近所、友達等介護サポーターが中に入り、介護予防の研修の成果をためす場としてサポーター役に徹することができ、世の中に役立っているという「自覚」が生まれ、地区のリーダー的役割が増すと思う。(参加者が少ないので困っている)
個人が予防する自覚をもつことが出来ると思う。
個人で参加、研修を受けたのではどの様に役立てたらよいかわからない。
個人でしかなく、活動するための組織が無く、活動ができないサポーター修了者で活動できるように支援してほしい。
個人の意識の問題が多いと思う。まだまだ自分の死後について考えている人が少ない。「他人のことまで世話する事はない」という人もいる。
個人のやる気の問題。
この制度について、まだあまり周知されていないように思います。多少なり理解してもらおうとやりやすいのではないのでしょうか？
これから高齢化社会に介護する方が多くされる方が少なくなる方向へいくと良い。
これから進んでいく高齢化時代に向けて、健康で生き生きした高齢者があたりまえの様に生活している社会であって欲しいと思う。その為にはきちんと基礎知識を持ったサポーターの活動が必要だと思います。
これからどういうサポートの仕方があるかによる。本当にサポーターが役立つような場が作れば役立つが。
これからの医療制度に期待がもてないのでできるだけ自分自身、まわりの人々の健康をのばして寝たきりを防ぎたい。
これから一人暮らしのお年寄りや身体の不自由な方が多くなると思うからです。
財政的に村が大変だと思います。予防することにより介護を受ける老人が減少すれば保険料等が上昇しなくなる。
サポーター活動2つ参加中だが、「筋トレ」回数(1回/週)はOK、筋トレ+α(これをもっと充実すべし。家庭での健康管理。頭の体操。「ミニデイサービス」1回/月では効果なし。2回/月程度が良いと思う。(但し2倍×スタッフ必要となるが)
サポーター活動機会がない。
サポーター活動はまだ始まっていない。
サポーターが増えてキャラバン隊などをつくり、介護予防の体操などをPRして必要性や良い点などを大勢の人に知ってもらうことが出来れば良いと思います。
サポーター研修後、役立てるチャンスが無いので。
サポーター研修に参加した者にとっては関心事なので熱意もあり、とても役に立つが関心のない住民が多いと思われる。
サポーター資格をせっかくとつても、実際に活動しているだろうかと疑問をもっています。
サポーター自身は予防の重要性は認識しているが対象者はそれ程認識していない気がする。
サポーターしながら自分の老後もある。
サポーター同士の仲間作りにもなるし良いと思う。
サポーターと高齢者との信頼関係があつてこそ、推進可能であつて、若輩の身としてはなかなかむずかしいところです。

<p>サポーターとして3回させていただいた時、皆さんがとても楽しそうにしていましたし、これからも続けてもらいたいと言っていました。</p>
<p>サポーターと被サポーターをつなぐ役目。事務的でつまらない。</p>
<p>サポーターに向いている人はいいが(積極的な人)そうでない人は無理(消極的な人)</p>
<p>サポーターの依頼が無い。</p>
<p>サポーターの数は減らしても良い。自立援助を大切に。見守りに重点をおきたい。</p>
<p>サポーターの方達が時々集まって勉強会をもつとか横のつながりをもつことができれば良いと思います。</p>
<p>サポーターの活動の場を保健センターのみでなく、各地区ごとに実施してより多くの人達に体験してもらい、それをどう継続していくかが課題だと思う。</p>
<p>サポーターの資格をとった人がどこでどのような活動をしているのかという情報がないのでわからない。</p>
<p>サロンに来られる方々に時々お聞きすると引きこもりとか雪道も転ばないようになったと言われます。もっと多くの人達に話しかけをするチャンスがほしいです。デイサービスとは違ったサロンですから多数の参加がほしいと思います。</p>
<p>参加した方々は介護の経験の有無、その他いろいろな方がいたように思う。はたしてどこまで理解し実践可能か？</p>
<p>参加者16名のアンケートの結果に改善された点が多くみられる。</p>
<p>参加者が健康に注意し気力をもって参加しようとしている。</p>
<p>参加することにより理解できたことが多く、より多くの人参加できれば良いと思う。</p>
<p>参加する人が限られている。又、参加したくても会場まで行くことができない人が多いのではないか。(体力的、物理的理由)参加できている人は効果が上がっていると思う。</p>
<p>参加できる方はいいが参加できない方はおいてきぼりになる。訪問して近くの老人を呼んで何人でもこまめに推進したほうが良いと思う。</p>
<p>資格取得時の勉強とは少し違い、地区の人々と学ぶので地区の様子もよくわかり、とても勉強になりました。</p>
<p>仕事や用事等の無い時は参加したいと思うが町村からの参加できる事業についての依頼がない。</p>
<p>自己の考え</p>
<p>施設勤務の中で役立つ事はありますが地域でボランティアとして参加したくてもいつ、どこで、そういった活動があり、サポーターとして参加希望をされているのか解らないから。</p>
<p>市町村ごとの取り組み方に温度差がある。具体的に活動できる事業が少ない。</p>
<p>実際にたずさわることになれば改めて復習すると思うが現在はプリント等(勉強してきた)は読みかえはしていない。</p>
<p>実際にどの程度役立つか？</p>
<p>実際に毎日少しずつでも続けてやっている人ばかりではないので。</p>
<p>実母の介護で結果がでているので、筋トレ、だ液腺で大きな長所で言葉やかむことで認知も止まっている状態です。</p>
<p>市の取り組みが消極的である。</p>
<p>自分が体を動かし実感した。研修が理解しやすく必要を感じた。</p>
<p>自分が役立つから人にも勧める。</p>
<p>自分自身出来るだけ介護されないように努力していきたい。みんなそう感じていると思います。60歳を過ぎると老い始めているなあと不安になってまいります。実感しております。</p>
<p>自分自身では予防として覚えている所のみ実践していますが、介護予防サポーターとして活動したことがありませんのでどちらとも言えません。</p>

自分自身の健康に強く関心をもつようになりました。
自分自身のためになったから。
自分自身もう少し学ばなければだめだから。
自分で活動していくにはまだ勉強不足だからほとんど介護予防の推進には役にたっていないのでは？
自分で活動していないのでよくわからない。しかし、仲間づくりに教えてもらった事を使う事で予防推進に役立つと思う。
自分でサポートをしてないので、ようわかりません。
自分で体操していてとても良いと思うから。
自分でも良かったのでみなさんも同じだと思います。
自分でやる気がなければ、役に立たない。
自分なりに周りの人へのアドバイスが出来、実行していただけたから。
自分にすぐ実践できるから
自分に対して色々体験できる事がとても役立ちました。
自分に対して介護の自信がないからです。
自分の健康がすぐれない。
自分の健康は自分で責任がもてるから。
自分のためもあり受講したが外に出て皆と一緒に始めようにも施設や皆が集まるところに行くとなるとどーかなと思う。活動する場が問題。
自分の転倒予防に役立っている。
自分のペースに合わせて動けるだけの事をする事で、役に立てたらなと考えているからです。
自分の身近な事からできるから。
自分も介護される側になれるから。
週1回ですがとてもよく楽しみです。
住民1人一人が介護予防を考えるべき。行政だよりではなく、健康は個々で成すもの。
受講教室に参加して最初は話下手だったけれど、少し話ができるようになったという受講者のことや指体操などもすこしずつできる様になったと受講者の事を聞くので。
生涯現役を過ごしてもらうための筋トレ。運動が転倒防止に役立っている。
上級で体力測定のお手伝いのみでよくわかりません。
上級に出てないのでわからない。介護の仕方によって役立つ。
症状の進行具合が違って来るだろうし、会話、コミュニケーションによって明るく1日が過ごせると考えます。
自立した生活ができる。
真剣に考える人の居る地域では良い方向へと念じ、祈り願いたいです。
身体すっきりします。気分爽快です。
推進する場がない。
好き、嫌が多い人にはトレーニングも食事のあり方もあまり効果が無いように思う。
少しでも多くの人間がかかわる事により介護予防の推進となり、ゆくゆくは自分自身のことにもつながっていくと思う。
少しでも長く生きるためには高齢者の意識を変え、高齢者本人のできることをやる努力をしなければと思います。それのお手伝いをする意味でサポーター制度は必要であり、沢山の人が研修を受け、実践ができればと考えます。
少しは役立っているのかと思うが自分に自信がないから積極的に動けない。
進んで協力できる人達に限定したほうが役立つ。
スムーズに歩けるようになった。

する側も受ける側も互いに思いやりの心が必要であることがわかるから。
生活の中で自分で心がけ(体操など)自分のためになっています。
制度に対しては良いのではと思いますが、役所が市民に押しつけている感がありありと見え、反発を感じます。自己負担で活動せよと言われても年金暮らしでは資金不足で活動する気持ちにならない。
制度により介護予防の知識を学び活動できるので。
制度はとても良い事だと思います。本当に介護予防が必要な人達が多く参加して下さると良いのですが。
積極的に推進活動する場が見つからないので。
積極的に推進すれば交流がはかれ地域の皆様との親睦に生き甲斐が見いだせる。
設問18で答えたとおり、本来の事業目的が途中で曖昧になっているからです。参加人数が少なかったためと聞いていますが高齢者自らが参加するものなのか若い世代がサポートするものなのか明確でないからです。それがはっきりするならとても良い活動だと思います。
全体的に表面的すぎる。
専門の講師の方に研修を受けたので。
躁鬱症状の出やすい年齢となりますのでウチにいる場合は家族関係もひずみがきます。外に気を向けることにより本人または周囲の関係も良いくことが多い。
早期発見、早期予防が必要であるから。
その時々場によって学んだことがいかせそうです。
その場所まで出かけなければならない。全員の人が参加できない。
体験不足
体操や会話がよくあった。
大変難しい質問です。地域サロンの時に少し時間をもらい、軽い運動、お話等はできますが、日中に出てこない外出嫌いの人が足腰弱くなっている方が多いです。一番必要とする方には難しいですが健康な方に対して予防にはなると思います。数回の研修を受けただけで資格のない私達がどこまで踏み込んで指導をして良いのか・私の勉強不足を感じます。
体力が低下する前に実践すれば効果が出ると思います。
正しい知識が役立つ。
正しい知識を学習し健康づくりに関心をもつことが大切。それをまわりの方々との会話の中で広めている。
たとえどんなことでも続けてすることが大事だと思うのです。
他人のため。自分も高齢化に向けて。
だれでもすぐに身近に役立つのでとてもうれしいです。
地域社会の高齢者がその気になれば。
地域住民の参加を増やす努力が必要。
地域性もあってか高齢者に理解してもらうのはなかなか難しいです。
地域でサポートする場があれば役立っていくと思います。
地域で月2回のデイサービスを民生委員として行っています。毎月何かしらの事を実施しています。
地域での介護予防の取り組みがされていない。
地域では農業仕事を持っている60歳の人達は集まりに出てこない。介護予防活動を行うために自治区の役員の呼びかけが必要だと思う。
地域においてお年寄りをもっとも、筋トレは望んでいることです。
地域に介護を広められるから。
地域に広がるとももっともっと思ふ。
地域のいきいきサロンで毎月少しずつ筋トレをしている。

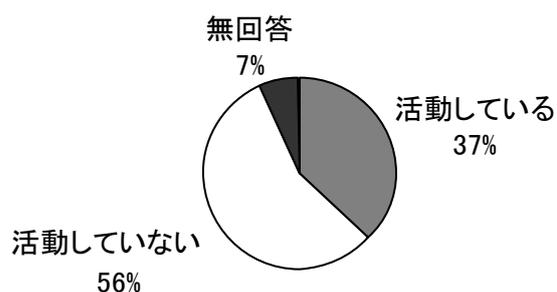
地域の高齢者達のいこい及びたすけあい、楽しい一時。
地域のサポーターがまだ少ない為。
地域の人達の(高齢者)日常生活が健康で過ごせるように。
知識を得ることは気づかなかった介護の手助けになる。また、一緒にストレッチ等をしているとお互いに信頼する。心が豊かに育つ。(主人と2人で行っていて実感しています)
知識を少しでも持った人が増えるのはとてもいい事。そして、それを生かすのはもっといい事。
知名度が低い。内容がわかりにくい。
中級ぐらいだと誰でもできそう。
中級で学んでもなかなか実行となると自分で完全にできているか考えたとき5位しか人に予防サポーターとして伝えられないかと考えました。
中級の研修を終え、運動、筋トレ、歯みがきなど実行すると腰、膝等の痛みがやわらいだ。
月に1度ぐらいでは役立っているとは思わない。
伝えるのは難しいので高齢になってではなく、普段からの心がけ、常識とするような教育が必要と思う。社会全体で少し時間をさくことで本人の幸せが得られると思ってます。
当、ライフのデイサービスにて各人、各様の利用者様に適切な言葉、行動、対応等が自信をもってでき、又、喜ばれる。
時々この様な時間を持ちたいと思います。
特に新しい知識が得られなかったから。
どこまで手助けできるか。
年を重ねると同じ年でも個人差があると思います。
どの程度役立つと考えるかという問題は活動の規準があいまいであり、筋トレ教室参加者、ひとりひとりの健康状態も異なるので返答に困ります。回答の出せるような内容にして下さい。
どのように動いていいかわからないし、サポーターとしても不十分。
富岡市内でも地区によっては筋トレ教室等頑張って高齢者の方達が皆明るく楽しそうに過ごしている教室に混ざって活動させて頂きましたが素晴らしい事と思いました。
富岡市の講習では役立つところまでいかないなと思います。なぜならこのサポーターになったらどういところでどんな風に活動するのかは話されていなくて、ただ受講してサポーターになるだけで終わってしまうように思います。行政としてのサポーターをどうに活動するかもあやふやです。
どれだけ地域にグループができるかによる。
内容はいいと思うがもう少し時間をかけたサポーター育成スケジュールを経て、自信につながっていくものと思う。
内容や実情を知ることができた事。老健施設に行き体験が出来た事。
長野原町のサポーターさんをまとめてくれる。支援センターの職員の力不足で役立てないでいる。
寝たきりにならない様に又ひきこもりがちにならない。認知症の予防。筋力・体力の増進。
寝たきり老人を出さない為。
熱心に活動すれば大変役立つ。
年月が浅いので、どの程度皆様方に役立っているのか目に見える程、すぐに効果がわかりませんので。予想。
年齢と共に身体もかたく成っていくので筋トレは大切。毎日食べている食事が大切。
始めたばかりでわからない。
引きこもりは最も大きな要因となるがここに着眼し、活動することが大切と考える。
一人暮らしの方や夫婦でもお年寄りの方などと話しをすることによって(人がたずねていく事の少ない家)明るく生活出来ると思います。大変喜んでいただけます。少しはやくだつのでは?
一人では何もできない。(自信がない)リーダー的な人のもと、協力しながら活動するような形になって

いるといいと思うから。
一人でも多くの人に声かけなどの協力ができれば良いと思う。
病人に対してすぐ助言が出来るようになったこと。
ピンピンコロリという言葉聞いてなるほどと理解したのですが寝たきりの生活で長く生きることのないよう最後まで健康な命であって欲しい。
ふれあい。
ふれ合いサロンにて皆様、関係者から御指導、又は悩みを聞いている程度でさほど活動する場はありません。
平成19年12月に地区活動の2回目を行いました。運動・筋トレを中心に第3回からと回数続ける予定になっております。徐々に高齢者の参加を呼びかけていけたらと考えておりますがまだ途中経過として6にしました。だが活動の元の資料は全て研修させていただいたものを使用しております。数字はやがて8になると思います。
勉強が役立つほどのボランティアをしてないので。
勉強したことは役に立ちますか、わからないこともあるので・・。
勉強することによって他人の為に役立つ。
歩行困難な人が歩ける。楽になった。
ほとんど一般常識のわかる人ならわざわざ研修を受けなくてもと思いました。
本人が参加する意識があるかないか。あくまでも本人。
本人がやる気になって継続していただければ、効果はあると思います。
毎日があたりまえのような運動でも自分から進んでいかなければ役にたたないし、自分の努力も必要だと思う。
毎日少しでも続ければ良いが、一人暮らしの方は積極的にみてやらないと運動等しない。
まだあまり活動の場がないので様子がわかりません。
まだあまり知られてないと思う。はじまったばかりだし、始まったばかりだし、軌道にのるまでもう少しかかると思う。
まだ一度もそういう場もない。
まだ活動していません。話し合いをしていますので4月1日(平成20年)をもって発足します。
まだ期間が短かったの。
まだ最初なので6としましたが、若い人もそこに目を向けるだけでも意義がある。
まだ知られていないから。
まだ始まったばかりでよくわからない。
まだまだ知識不足
まだよく見えません。
町で始めた事業に参加というか活動を始めたところです。
全く役立たないとも言えないし、役立つとも言えない。
学んだ事がサロンで実際行う時に忘れてしまう事が多かったから。
学んだことを生かす場所がない。
自らの生活に知識を取り入れ、自分のまわりの人に運動を勧めることぐらいしか現在ではできない。なるべく多くの人を研修させることが介護予定につながると思う。
皆、仕事を持っている。暇ができるようになる。(参加できるようになると)体力が不足してくると思います。
皆さん解っているけど努力できないというか続かないという方が多いのではないかと。大した知識も無いのに知ったかぶりするようでイヤだ。
ミニデイサービスかがやき実施中心のやり方中心で行われていますから。

ミニデイサービスやADL体操教室での積極的にお手伝いができるようになりました。
民生委員なので研修した事を一人暮らしの人達の家に行き、伝えている。
みんな元気になりそうだから。
みんなが集まって行動する機会が少ない。
みんなとふれ合うと言うことはいいことだと思います。
難しいところがあり、学ばなければ出来ない事がたくさんありました。
もう少し体験したらもっと良いと思います。
役立つが実施できない。
役立つ役立たないものも、一つは行政でどんどん計画を立てて推進していただけたら。私達サポーターだけではどうにもならない事があると思う。
役に立つ知識であるがあまり使う機会がないと忘れてしまう。常に実践しておかないといけないと思います。
やっている人はいいと思いますが出来ない人は介護予防と言ってもやらないので。
やはり専門的な知識を要するもので運動でも栄養的な話等も簡単になってしまいます。
予防医学をもっと進めるべき。自治体も積極的に関わって欲しい。
リーダーシップをとってくれる人がいれば全面的に協力できる。ある程度行政の人が役割分担を示してくれればやりやすい。
老人(個人個人)の意識がどのくらいのものかわからないから。
老人と元気で長生きが出来ると思います。
老人に声かけみんなが集会所に来られれば良いが遠くていけないとか寒いからと言って出てこなければサポーターの人達だけになるかも。
老人を抱えている人が多く、少し専門的な知識があったほうが家の老人にも役に立つことができる。そのくらいの程度かなと思うところもあります。ほとんどの家庭は介護保険には入り、専門の人の介護にたより、そのほうが安心感もありますが予防はデイサービスやらでも専門の方も来て、教えてくれます。サポーターの中で一人ぐらいきちとした資格のある人がいないと不安だと思う。
老老介護になりつつ地域での介護予防の推進で楽しんでいただける事
わからなかったことが少し役立ったので。
私がお手伝いしているボランティアで、利用者の方で喜んでもらっていると思うから。
私なりに
私の地区ではサポーターが少なく活動はしていません。自分のまわりで自分のできる事をまずしていきたいと思っています。研修を受けたことを元にご近所の人達に話しかけや体によいことを勧めています。
私は一度も介護することに参加していないから役立ってないのです。介護の勉強をしたのを少しでも役立てたい。

25) 「介護予防サポーター（中級または上級）として活動をしていますか」

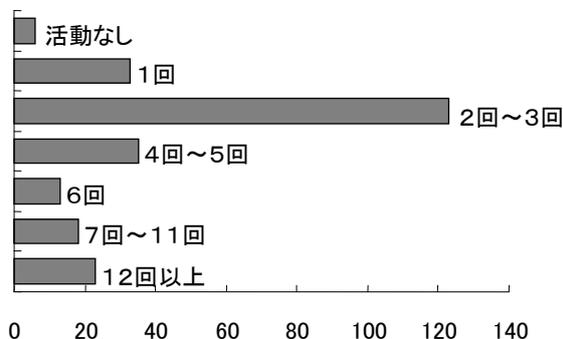
	回答数	パーセント
活動している	260	37.4
活動していない	390	56.0
無回答	46	6.6
合計	696	100.0



介護予防サポーターとして活動している方へお尋ねします。

26) 「直近3ヶ月の活動頻度はどれぐらいですか」

	回答数	パーセント
活動なし	6	2.3
1回	33	12.7
2回～3回	123	47.3
4回～5回	35	13.5
6回	13	5.0
7回～11回	18	6.9
12回以上	23	8.8
無回答	9	3.5
合計	260	100.0



27) 「これまで市町村の行う事業のなかで、介護予防サポーターはどんな活動をしていますか（研修以外で）」

ミニデイサービス。(歌唱。ダンベル体操)その時によって。(輪投げ。ボーリング。オセロ。手作り飾り物。(10件)
いきいきサロンで活動しています。(9)
筋トレ、ミニデイサービスの手伝い。(5)
筋肉トレーニング(3)
シニア体力で筋力トレーニング体操のお手伝い。血圧測定器の操作。(3)
ひらめき寺子塾。六合地区のサポーターの人達全員でしています。市の職員の方が指導してくれています。(3)
筋トレ教室の会場への案内と血圧測定。休憩時間のお茶だし。手助け。(2)
筋力トレーニング、筋トレ体力測定会には参加しています。(2)
県の華麗に加齢。(2)
週2回サロンを行っています。ストレッチからトレーニング、踊り、指体操とか。(2)
体力測定の協力(2)
閉じこもり予防教室「さわやか元気教室」の手伝い。(2)
ふれあいサロンでケアマネージャーの指導の補助や自らお年寄りと共に体を動かしたりしている。(2)
わからない。(2)
回想法。(懐かし話会等)(2)
(区単位)地域の予防サポーター(受講の人数)で会を立ち上げ3回目が来年です。
(なつかしい思い出のうたをうたう。)今年最後の日は忘年会としてすいとん作り、昔を思い出しながらみんなで食べようと思います。筋トレ、手遊び。
「筋トレ」(火)／毎週(インストラクター役／自主活動)「ミニデイサービス」1回／月。「老人給食」ボランティア1回／月(独居老人への弁当配達)
20年より始める。
65歳以上のすこやか検診で介護保険を使用していない人で少し問題のある方の集まりで補助、サポ

一ターのお手伝い。
JA主催のデイサービスに組み込まれた介護予防教室に参加。
JA地域サロンに参加した。
NPOで医院への送迎介助。施設でのおむつたたみ、お茶の世話、個人の認知症の人にかかわっています。
アクティブ・アフターケア教室の手伝い。
あらためて介護予防サポーターとしてではないが、高齢者の話を聞いたり、サロン会などをとおして他の介護教室などにも参加し、自分なりに地域活動をしています。
ありません。
ある団体のお手伝いをしています。血圧測定などちょっとしたものです。
安中市で行っている事業の中でウォーキング大会やJAで委託されているようなデイサービス事業に参加しています。
いきいきサロン(高崎市)で高齢者へレク指導、運動指導。
いきいきサロン。日高病院のデイサービスの手伝い。施設訪問。
生き生きサロンで高齢者と介護予防の話をし、実践している、話を聞いている。
いきいきサロンに集まって下さる元気なお年寄りストレッチで楽しく遊ぶ事
いきいきサロンのお手伝い。高齢者の交通指導。
いきいきサロンの中で毎月筋トレ等を行っている。
いきいきふれあいサロン
いきいきわくわくサロンという集まりの中で体操などをしたり、体力測定の補助をしたりしています。
生きがい対応型デイサービスのお手伝いに行き、参加者の皆さんと楽しく、体操、手芸、輪投げ、カラオケなどをしています。お茶入れ、配り物、その他頼まれたことだけお手伝いさせていただきます。
伊勢崎市シニアカレッジに協力。午前の部では一緒に食事作り。(糖尿病)午後の部では運動。
今、町内公民館で筋トレと体操を行っている。100歳体操。
受付、お茶入れ、話し相手、一緒にゲームする。
運動、筋トレ等。
運動、筋肉トレーニング、血圧測定。
運動、測定のお手伝い。
栄養改善。体操。
おきあがりこぼし教室(鬼石式筋力アップ)。10月~12月にかけて参加しました。
お茶のみ話、食事会、手あそび、輪投げ、音楽を聞く。
お年寄りのリハビリ体操の手伝い。
介護予防教室の手伝い。回想法による懐かし話会の手伝い。
介護予防事業の各地区で行っているミニデイサービスに依頼され、健康講演や介護予防運動を行っています。
会場準備、参加者の見守り、補助等。
買い物同行。運動などの手助け。
各部落では、体力測定のお手伝い。筋トレ教室参加者のサポーター。
軽い筋トレの補助。
川場村で行っているニコニコ教室(65歳以上の方ならどなたでも)体操、ゲーム、お話を参加者の方々と共に行いました。特にゲームは私のほうが楽しませてもらうようでした。若い者に指導をしてくれるといった感じで生き生きとされていました。
教室のお手伝い。

居住地のサークルをまとめ、活動に向け3回会合を持ったままで活動に至らない。
近所に住む一人暮らしの方の様子を気にかけてたりというところです。
筋トレ、体力測定会の手伝い。
筋トレ。音楽に合わせて踊る。
筋トレ体力測定。
筋トレの手助け
筋カトレーニングの自主トレの手伝い。
筋カトレーニングの測定のとくに。
筋カトレ教室。体力測定。ふれあいいきいきサロン。
区民センターで毎週10時半～12時。筋カトレーニング(DVDにより)握力の測定、片足立ち等、参加者は30名おります。長寿会とタイアップしています。
グランドゴルフ、スマイル
車いすの人への介助、デイサービスの見守り、声かけ、他
軽運動、お茶を飲む。カラオケ。ゲーム。話しをする。
傾聴ボランティア
元気塾(ミニデー)
健康教室。いきいきサロン。子育てサロン。
健康教室。体力測定。
健康サロンに参加し活動をしている。
健康体操など。
講座の手伝い。
公民館で地域の方にチラシを配り(声かけ)まだ2回しか活動しておりませんが対話やゲーム、昼食サービスなどです。体操はやってみましたが公民館では狭く無理でした。
高齢者の集まりで運動・筋トレをしています。月に1回ぐらいです。
声がかからない。
サークルの手伝い。
サポーターがするサロンの打ち合わせに参加している。
サポーターしては会ができたばかりです。
サロン
さわやか元気教室などでお手伝いしたことがあります。サポーターとしてでなく、運動経験があるので指導(体操国体選手として市体操協会理事長)
施設での体験がベストであると思う。
施設のボランティア。一人暮らしの人に贈る切り絵と小物。
市中心の寺子塾を手伝う。
市で行う体力づくりのイベント等
市で行っているすこやか教室へサポーターとして参加し、受付係や参加者のお話相手をしたり一緒に運動したりします。
市で行っている特定高齢者の介護予防教室に協力していますがお茶を入れたりお話相手などです。
市で行っているミニデイサービスに予防サポーターとして月1回地域の公会堂で、市が委託している業者(JA農協サービス)が行うお年寄りサービスを見ているだけで、終わったら後片づけや掃除をするだけです。研修でした事など何も関係ありません。今まで通り業者がしていてもこれでは良いのではないかと思います。
シニアスポーツクラブ。ふれあいいきいきサロン。
シニアの健康体操の集まりのお手伝い。

市の方からJAのデイサービスの日程表をいただいたのでそれを参考にして出ています。介護サポーターとしてどんな事ができるか漠然としていて活動する機会が知りたい。
市の第2愛老園でADL体操の地域リーダーとしてローテーションを組んで活動をしています。毎週金曜日(担当は月に1~2回程度)
自発的。
自分で行動する事がむずかしいことが多かったので他の市町村への行事等のお手伝いをしながらサポートのべんきょうをしているところです。
集会場で皆さんと歌をうたったり、運動したり、お茶をいれたりしている。
職員の方についてお手伝い程度です。
食生活推進委員としての活動のなかで食事作りやおやつを作ったり軽い運動をして楽しみました。
シルバーとの合同事業や高齢者の調理教室の後とか。サークルで集まった時など。
身体機能測定。オリエンテーリング補助。社協の下での給食サービス(調理・配達)
すこやか教室でのお手伝い。
ストレッチ体操。筋カトレニング
スマイルボーリング、グランドゴルフ、サロンで行います。
体重測定。身長。
体調伺い
体力アップ等の体操など。
体力測定。移送。
体力測定。一緒にふれあいゲーム。筋トレ。
体力測定のお手伝い。筋トレのお手伝い。ご近所のお誘い。
体力測定のサポート。高齢者向け運動のサポート。
体力測定の補助、教室の血圧測定の補助、会場準備、湯茶の準備。
体力測定の補助。頭と体を使った(宝探しゲーム)の付き添い。
体力測定の補助。筋トレ教室で会場の受付。
体力測定のみ参加しました。
高崎市長寿社会課実施の認知症予防(モデル事業)町内の呼びかけ。高齢者参加時の同行。参加者と一緒に学ぶ。
他の健康体操等を行っているが高齢者にはきついと思う。
地域ごとの健康サロン
地域でサロンを開催し「ふれあいサロン」として高齢者や一人暮らしの人と交流している。
地域で自主活動グループができるようにPR活動をしています。
地域でのサロンで運動指導
地域のいきいきクラブに便乗している。地域のサポーターは3人なので民生委員に頼っているのが現状。
地域の介護サポーターとしては見習いです。
地域の筋トレ教室
地域の人々と運動を一緒にはじめた。
地域の一人暮らしの方への話し相手。病院の車いす。受付予約。案内。
地域のミニデイサービスを月1回お手伝いしている。高齢者の集まりで歌ったり、ゲームしたり、ダンベル体操したり、おしゃべりしたり、その場でお茶を出すことが一番の仕事(ちょっと違うかな?)と思う。
地域包括支援センター主催の介護予防教室への協力。地域のふれあいサロンでの、介護予防サポーター研修での知識の活用。
地域包括支援センターで立ちあげた元気塾のお手伝い

地域包括支援センターによる「介護予防教室」に参加。社協による「ふれあいサロン」に参加。
地域包括支援センターの計画のなかで、なかよし教室、にこにこ教室などのお手伝いをしています。いきいき教室、さわやかなのびのび体操。
地区活動にむけての話し合い。筋力アップ講義と実習を先生に依頼。他町の活動見学。
地区の筋力トレーニング。藤岡市ミニデイサービス。
地区の立場と同じ立場で続けております。
長寿会やふれあいきいきサロン
長寿センターで行っているひらめき寺子塾にサポーターとして参加しています。
町内で行うサロン等に参加し、回数を増やしたい。
月1回行われるミニデイサービスのみ。
デイサービスのお手伝い。「いきいきサロン」での介護予防講座。
デイサービスの回想法グループに参加しています。
転倒予防のために体操(筋トレ)。茶話会的な集い。料理実習や口腔ケア等。
当番(斑を作り)5名位で筋肉トレーニング体操や協力、他お手伝い。
独自の介護(寝たきり)予防体操をリーダーの一人として楽しく行っています。(富岡市としても2008年4月より本格的に始動します)
なし
認知症の方を対象とした予防教室。
認知症の講演を聞いた。
認知症予防事業で参加者との交流を持っている。
認知症予防で回想法のコリーダーとして手伝い。
話しかけ、運動、筋トレ等の手伝いをさせていただいています。
ビデオ見ながら筋トレ運動。
人と話し相手
ひとりぐらしの方への声かけ
ひらめき寺子塾(顔面体操、指体操、マス計算、自己紹介等)いきいき運動教室(筋トレ、ストレッチ等)
ピンシャン元気体操をグループでしている。
包括支援事業・自立支援事業でやらせて頂いてます。
包括支援センターへ来る高齢者と筋力トレーニングや話し相手になったり困っていることがあればすぐ手をかしてあげられる体制が出来たこと(手助け)等。
ボケ防止教室の手伝い。
保健センターにて毎週火曜日10時～11時30分。木曜日10時～11時30分
まだ何もしていない。
まだ始まったばかりでサポーターの人達で会議したり、他の町へ研修に行き、自分たちの所で筋力アップ体操をやっています。
町の介護予防事業の指定日に13時～16時。利用者様の出迎え・見送り、お茶の用意、安全の見守り、コミュニケーション、一緒に運動等。
町の福祉センターに高齢者に週1日(5～7回)集まっていたき(町で募集)それにサポーターとして参加し、お手伝いをしています。体の体操、頭の体操、心の体操など一緒になって参加しています。
町の包括支援センター活動。げんきあっぷ塾。きらり塾。その他。
ミニデイサービスの手伝い。ADL体操の普及。
村に設置されている「包括センター」が行う、「なかよし教室」「にこにこ教室」「いきいき教室」等、老人を対象にした教室のお手伝い。(自分も老人ですが、健康なので進んで時間があるときは手伝いたいです。)

指の運動、皆で歌を歌いもっぱら体操。
リハビリの送迎。
レクリエーションダンスをしたり、さわやかなびのび体操をした。
レクリエーションダンスをしていて、指導者研修に参加したので、65歳以上の方にやさしいダンスを教える活動です。サポーターは中級までとりましたが、ダンスの指導がサポーターといえるかどうか、月1回の割で参加している。
老人会の筋トレ活動に出席しおやつ作りに協力しております。
老人クラブ役員会、地区老人クラブ、研修旅行の時、活動する。
老人施設で日本舞踊を踊って慰安をしている(年2回)
老人の教室に参加(地域包括支援センター主催)
私の場合は月1回の町内の寿ふれあいの中で筋トレや脳トレを75歳の方にできる範囲で活動しています。

28) 「あなたの介護予防サポーター活動に対する気持ちはどれですか」

	回答数	パーセント
現状通り活動していきたい	157	60.4
活動する場を自ら広げ活動していきたい	69	26.5
その他	20	7.7
無回答	14	5.4
合計	260	100.0

<活動する場を自ら広げ活動していきたい+その他>

お手伝いのほしい方は連絡できるようなシステム
介護予防サポーター仲間がたくさんできて自分たちで活動の場を広げたい。
活躍する場を自ら広げていきたいが集めるのに大変になってくると思う。(送迎に関して)
市町村部間のバックアップが大事。
自分も高齢者ですから参加して下さる方たちと同じように自分のためにもなると思っています。
地域の活動に広げている。(自主的に)筋トレ体操(毎週)認知症予防(カラオケ・手芸)栄養改善(時々)

<現状通り活動していきたい+その他>

今のところ自分でできる事を行い、無理はいけないと思いますので。
今回(平成19年12月)から民生委員の活動をすることになったので、現状維持が精一杯の状況。
自分でできる程度活動してみたいです。
自分は人の上に立つ性格ではないので人について一緒にやっていきたいです。
自分も脳梗塞、脳出血を患ったので無理は出来ない。
スタートしたばかりなので。
町の包括支援センター活動に参加したい。
私は前に出られる性格でないので人の後についていくのが好きなので自分から広げられないのです。

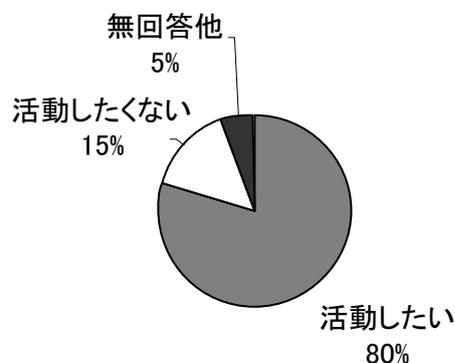
<その他のみ>

邑楽町の場合サポーターの方が民生委員の方々なので一般からの参加は私一人なので場違いの感じがいたします。でも一生懸命取り組みたい気持ちはあります。
介護予防サポーターとしての勉強がたりないのでどう活動を広げて良いのかわからない。
活動範囲がどんな所にあるのかわからない。介護サポーターの活動が一般のなかにどれだけの価値があるのか？
活動を広げたい気持ちは充分あるが全体的にする場所がない。私も高齢なので企画に加わり、指導は専門家の方をお願いできたら良いと思う。
現在は親の介護があるので、勉強して役立てないと思います。親の介護が終われば活動する場を広げ活動していきたい。
これからもっと勉強して今の活動を充実させてゆきたい。
時間のあるときに活動したい。
仕事についているのでサポーターという意識もプラスさせて、老人の援助に役立てたい。
仕事の関係でしばらく活動できませんができるところは協力していきたい。
仕事の休みのとき、予定が空いた時には参加させて頂きたい。
対話のボランティアをしたいと考えています。
できれば参加していきたい。
農業をしているので1ヶ月に1回ぐらいであれば参加できるかも。
一人での活動も出来るように支援して欲しい。
自ら開拓するのは難しいです。やりたい気持ちはありますがきっかけをつかむのが大変。
自ら広げていきたいと思うがどれほどの力量もありませんので市からの要望で手伝い等を依頼されたら協力したいと思います。
ミニデイサービス会場を選べない。地区会場(近くの会場)は民生委員が優先のようです。交通手段困難。やりがいがない。
民生委員さんとの補佐的な役割がいいのではないかと思ったりする。地域の中で民生委員の仕事量が多くなってきた。最近では子供達の問題が多いとの事。
要請があれば自分の都合のつく時は協力したい

設問25で「2いいえ」(活動していない)と回答された方にお尋ねします。

29) 「あなたの介護予防サポーターの活動に対する気持ちはどれですか」

	回答数	パーセント
活動したい	311	79.7
活動したくない	58	14.9
その他	3	0.8
無回答	18	4.6
合計	390	100.0



「「1活動したい」と答えた方（活動したいが活動していない方）は、その理由をお聞かせ下さい（複数回答可）」

	回答数	パーセント
参加できる市町村の事業がない	137	44.1
仕事があり暇がない	94	30.2
他の用事や趣味で暇がない	44	14.1
事故が起こった時が怖い	41	13.2
気力や体力がもたない	21	6.8
活動に必要な交通手段がない	21	6.8

n=311

<その他>

家族の介護で、今のところ活動できない。(7件)
活動があることを知らない。(6)
活動のしかたがわからない。(3)
声かけが欲しい。(3)
時間が合わない(3)
11月まで他のボランティアがあり、時間がなかったため。
4/1(平成20年)をもって発足。
家から出ない人達を集めることは大変である。
いきいきサロンらしきものはあるらしいが依頼されないとなかなか入ってゆけない。
今、仕事の中で利用している。
今、ボランティアを3ヶ所、兄の介護が月3~4日ある為。
今現在、介護の最中なので、自分もとても疲れているので今は出来ない。
いますぐには活動できる状態ではないのでその時がきたら・・・。
今のところ来春頃から地域の人を対象に活動を始めるよていになっている。まだ準備段階です。
お話が来たときはお手伝いをしているが事業はわからない。
介護サポーターの集会はありましたがまだ具体的に動き出さない。
活動に対してはホームヘルパーとして、自分の出来る事で介護予防サポーターをしています。
活動の機会が少ない。
活動の場がない。
活動の場がわからない。
活動方法の仕組みをもっと教えて欲しい。
家庭の状況にもよると思います。
上諏訪町内で活動したいがチャンスがない。
きっかけを作るのがとても難しいから。
グループ内で活動。月1~2回。訪問して台所掃除などしている(有償)
現在、妊娠中でしばらくは活動できない為。
これから活動場所が立ち上がる予定
これから少しずつ一緒に研修を受けた方と勉強会を持ち、活動に結びつくように試行錯誤で続けたいと

思います。
自営でもあり、時間調整が難しく、子育てボランティアをしているので。
事業所では10時～15時まで参加するように言われたが(9時30分に伺ったところ、朝8時30分からいつくるかいつくるか待っていたのにもうだいたい仕事が終わってしまった。キュリーのサラダと洗い物が残っているので行うように言われた。)事業所とデイの実施場所での連絡がきちんとできてなかったのか一日気分がすぐれず、サポーター活動をする気力がなくなってしまった。
仕事をもっているが、やりくりして活動日を選ぶとその日に限って別の用事ができてしまう。
市町村からの広報があまり無いのでは。近所の老人等には声かけ等はやっています。
市町村の事業が中途半端でやる気をなくした。
実習不足の気がする。
自分がやりたいボランティアとは違い、筋トレのみになっているから(ADL体操のみ)
自分から積極的に活動するのは難しい。経済的に裏付けがないと大変そう。
自分の健康のことも考えて毎日スポーツ(水泳)に通っている。しかし、多少の暇はあります。
自分の力量不足が問題。
上級講習がまだです。
上級講習の受講を希望。場の重要さを考えている。
地域(自宅近辺)での活動状況を知らない。
地域で支援をしている場でサポーターとして活動したい。
地域での取り組みがない。
地区としてまだ出来ないが自分なりに出来ることをしている。
デイサービスに行ったが立って見ているだけでいいと言われサポーターとしての活動にならなかった。
年をとってしまったので。
どのような事をしたら良いか考え中
何か先が見えてない。きちんとルールができれば自分のできる範囲で無理せず参加はしてみたい。
人に教える技術がない。一度習った位だと自信がない。何人か一緒だと良い。
ボランティアではなく、多少の手当でもあれば気持ちが違う。
まず町内からと思っているが。
まだサポーターになったばかりなのでこれから活動したい。
民生児童委員のため、いきいきサロン等で出る事が多いため。
もう少し知識が身につかないと自分に自信がない。
私は車の運転ができないので市内での活動ができればと思っています。

「2活動したくない」と答えた方(活動したくなくて活動していない方)は、その理由をお聞かせ下さい(複数回答可)」

	回答数	パーセント
気力や体力がもたない	16	27.6
他の用事や趣味で暇がない	15	25.9
仕事があり暇がない	14	24.1
事故が起こった時が怖い	12	20.7
活動に必要な交通手段がない	9	15.5
やりがいがない	6	10.3

n = 58

<その他>

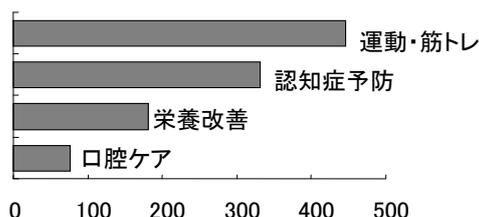
体力に自信がない。(例)腰・足が悪い。大腿骨骨折しているので歩くことは自由ですが力が不足知る。(2件)
意気込みがなくなった。時間を割いて研修に参加した意味が全くない。町から参加するきっかけが欲しかった。(ミーティングでレポートをだしている)
今は家族の介護を中心の生活。
介護と仕事をしているので。
研修内容をもう少し自分のものにしてからでないと活動できない。
研修を受けた時は、沢山の人数で活気があったがいざとなると集まる人がいない。
高齢者が自らが参加するという形は良いと思います。私自身が対象年齢になったらぜひ参加したいです。
仕事がある事と年寄りを全部ではないが看ているので。
自信がもてないから。
自分の知識がないから。
対象者の本当のニーズを考えていない。行政の一方的な考えを押しつけている。
連れ合いが病気悪化のため、中断、その後一人生活になり気力が薄れている。
同居の親が高齢の為、特別に介護をしているわけではないが、少し手がかかったり、長い時間一人にさせてもおけないので、活動の暇がない。
内容が不明のため。
年齢的にする方よりされる方であることと動機が自分のために出来るだけ人の世話にならずに受講したことを生かそうと思ったから。
人に声をかけたり指導していくのが向いてないから。
他のスポーツをしている為、必要ないと感じたから。
廻りの状況など必要になればする。
民生委員としてサロンで活用しています。現状維持でこれ以上活動はできません。とても役立っています。
民生委員の任期が終了したため。

以下の設問は介護予防サポーター活動を行いたい人にお尋ねするものです。活動したくない人はここで終了です。

30) 「介護予防サポーターとしてどの領域で活動したいですか (複数回答可)」

	回答数	パーセント
運動・筋トレ	446	80.1
認知症予防	332	59.6
栄養改善	182	32.7
口腔ケア	76	13.6

n = 557



<その他>

レクリエーション(4件)
話し相手(4)
できる事の全て(3)
ミニデイサービス(2)
地域づくり(2)
わからない
どんな事をするのか(専門的な事)わからない。
コミュニケーション
スーパーでの買い物。運転。送迎。見守り。声かけ。
その人、その人の条件を考えた介護予防サポーター活動を行う。
メンタル面でのサポート。心身共に健康でいて欲しいから。
会話・音楽・ゲーム
園芸
音楽療法
介護の面でボランティアとして必要としてくれる所
介護予防教室等を企画し共に参加したい。
外に向けての本人の参加を
健康に関する各週活動。
見守り、声かけを含む癒し。
交流
行事、イベント。
笑いのある、楽しい場所づくり。
振り込め詐欺予防、住宅改修詐欺予防
身近にいる老人に声かけやお茶飲み等。
領域にこだわらず園芸療法、芸術療法などを取り入れるのも良いのでは。
話し相手、相談相手。
介護の人の話し相手。

31) 「介護予防サポーター活動をどのように行いたいですか（複数回答可）」

	回答数	パーセント
市町村や地域包括支援センターの事業に参加したい	468	83.7
仲間同士で自主的な活動として行いたい	224	40.1
個人で自主的な活動として行いたい	39	7.0

n=559

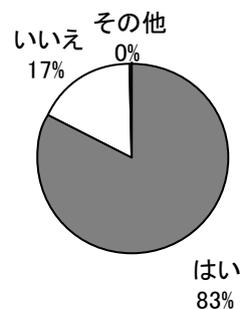
<その他>

サロンなどで。(3件)
ふれあいサロンのなかで。(2)
どう活動していいのかわからない。(2)
民生委員の協力として
同じ行政区(自治会)内で
町の保健推進員と一緒に
地域の公民館
地域での活動
専門分野の方々を中心として行いたい。
身近に高齢者が多くいますので自分の周囲から役にたつことがあればやっていきたいと思います。
市町村の仲立ちになり、将来的には仲間同志へ。
今地域でひらめき元気教室を6ヶ月間12回行っていますが12月で終了ですが続けていく予定です。
区長初め町内会の役割として、問題があったら包括支援センターが窓口になると安心。
区長の依頼により行う。
近くの公民館を会場に活動できたらと思う。
ミニデイサービス
ヘルパーとして働いているのでそのうちにでも利用者に広めたいと思う。
デイサービスなどの場に参加して活動していきたい。
クライアントや患者、個別にサービス提供したい。

32) 「独居高齢者等に訪問して声掛けしたいですか」

	回答数	パーセント
はい	436	82.6
いいえ	90	17.0
その他	2	0.3

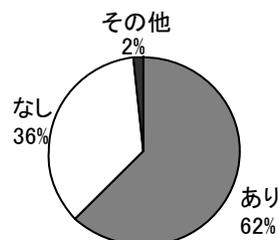
n=528



33) 「仲間と自主グループを作り、活動する意欲がありますか」

	回答数	パーセント
あり	313	62.1
なし	182	36.1
その他	9	1.8

n=504



34) 「自主グループの活動にはどのような支援が必要と考えますか（複数回答可）」

	回答数	パーセント
市町村職員の支援	313	62.2
専門職の支援	283	56.3
研修の機会	265	52.7
グループ間の連絡・情報交換	212	42.1
金銭面	178	35.4

n=503

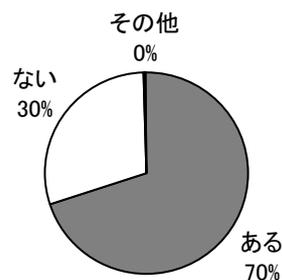
<その他>

記述なく選択のみ(3件)
40歳未満の者でも介護予防サポーター活動に協力したい者がいれば(いるので)サポーター研修が受けられるようにしてほしい。
ある程度の報酬(大金でなくてもある程度の報酬が発生することによって責任やモチベーションが上がる。
ボランティア保険の加入
何かおきたときの対処法とかの支援
活動する場を設定してほしい
活動の場の提供
公会堂等を管理する地区の役員の理解。
今はわかりません。
市町村の介護サポーターに対する資格。この事業に対し世間に認めてもらう認可がほしい。
車の運転が出来ないから。
場所
全て必要だと思う。
全部希望だが重荷すぎ続かないと思う。
地域の協力
認知症の人とトラブルが発生した場合の対処方法。
保健師に健康状態のチェックを希望します。
保険の加入

35) 「今後の活動に対して不安がありますか」

	回答数	パーセント
ある	355	69.6
ない	154	30.2
その他	1	0.2

n=510



「「1はい」とお答えの人は、どんな不安ですか（複数回答可）」

	回答数	パーセント
サービスを受ける人との人間関係	184	52.0
事故	164	46.3
時間がとれない	107	30.2
仲間同士の間人間関係	88	24.9
グループ内での考え方の相違	75	21.2

n=355

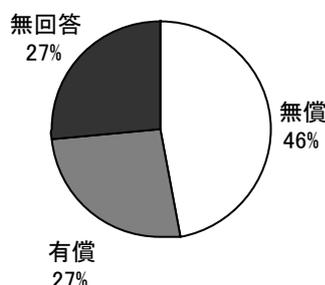
<その他>

安全な場所がない。
意欲はあっても自分が健常でないため。
活動内容や場所がわからないため。
活動の支援がしてもらえるのか。
健康問題
現在無償で行っている必要経費の調達困難。研修講師。
講習だけで実際には活動はゼロのため。
個人的にできるかどうか。
サービスを受ける人達自身の仲間関係(人を嫌うなど)
自信がありませんが回数(場)をふめばできるかな。
自身の予防サポーターとしての実力の程度が心配。
市町村が中心になって行うのには参加できるが仲間同志の活動は嫌です。
市町村の介護に対する認識
自発的な気持ちが維持できるかどうか。
自分が高齢のため。
自分自身の体力
自分の健康に自信がない。
自分も高齢になること。
制度改正等による活動の縮小策。
専門的な研修取得の不安。
中心になる人になりたくない。(実践方法がわからないから。)
当事業所のボランティアと違い、活動(地域内)してみないと何とも解らない。
どうやってかわれば良いのかわからない。
どのぐらいの人が理解してくれるか。
どんな仕事をするのか理解できていないので自信がない。
何がその方のためになるか。
慣れていないから。
年齢的。
始まったばかりなので手探り状態です。
人をどの様にして集めるか。

勉強不足
孫(1番小さい子)1年生の帰るまで
私自身習ったことで良いのかいまいち自信がもてない。

36) 「介護予防サポーターは有償・無償のどちらがよろしいですか」

	回答数	パーセント
有償	185	26.6
無償	326	46.8
無回答	185	26.6
合計	696	100.0



<有償の理由>

ガソリン代くらい。(7件)
交通費くらい。(7件)
責任感がでる。(3件)
10人以上集まった時などそのつどサポーターの人がジュースや他のものを出すことはやはり長くやっていくのに、少々負担になると思います。
相手の方の考えもあるがこちらから一方的にあたえるという事になると、引いてしまう人が出るのではないかと、してもらおうというのは、今の年配の方は遠慮がある。ならば安く設定しておけば、変な遠慮はなくなるかな？
ある程度であれば、励みになると思います。
ある程度の責任と長続きするには有償のほうが良いと思う。
いくら介護とはいえ何するにしても先にたつものがなければ駄目。
意識のもちかたが多少違うと思う。
今、いろんな生活用品値上がりにつき、無償では動きにくい。
受ける人が気兼ねをしない最低限の賃金。
動くのには、多少お金もかかるので。
お金ではなく、商品券やポイントなどがつくると良い。
お互いに遠慮したくないから心の負担を無くしたい。
お弁当代程度、自分でも他のボランティアには出しているから。
お礼をいただくより時間いくらの方がお互いにいいのでは？
ガソリン代位の少額程度があれば少しの苦もがまん出来ると思う。そして長く続けられると思う。
ガソリン代や昼食位の寸志程度希望します。
活動内はボランティア保険。交通、食事は自己責任、自己負担。
体が自由にならないときタクシーを呼んだりするから。
完全なるボランティアでは継続は無理かも。ひとつの仕事としてとらえたいです。
基本的に無償でよいと思いますが、今私が参加している所では昼食をデイを受ける方に出しているのでボランティアの昼食ぐらいはいただけたら修了までいられるから。どこかの県の話ですが介護予防サポーターとして活動した人には後に自分の介護費として認定してくれるとか？そんな事も耳にしまし

た。
気楽にサポーターの活動できるから。無償だと手抜きする人もいるから。
近所の方へは無償で良いでしょうが遠いところとかへはガソリン代位は良いのではと思います。
グループ単位で(仲間のコミュニケーションのため)
車が動くこと、全く無償はありえない。
車ですので多少のガソリン代。
車での移動となるので
現在は自分自身が勉強しながら成長していく状態です。まだまだ有償には程遠いですが、いずれは色々な面で多少の経費を必要になると思います。(有償のラインを決めるのは大変と思いますが)。
現在も有償だから。
研修をして時間を決めて出るのでから多少の交通費プラス $\alpha$ は今の時期必要だと思う。
交通手段の高騰。
交通費(相乗りで行く場合に車主にどの様にすれば良いか)介護は無償で良い。
交通費、茶菓子代等がかかるから。
交通費。お弁当代(?)
交通費だけいただければなお良いと思う。
交通費程度の費用か、お茶菓子代程度の提供があれば実践しやすいので。
交通費等はほしい。
交通費など。多少の報酬は欲しい。かかりますので。
交通費やお茶1本位なら出してもいいと思う。月に何回も出るならもう少し必要と思う。
交通費や時間給(多くなくてもいい)を出していただけると活動する時間も増えていく。又、長く続けられると思う。
交通費や必要な金は自分の持ち出しではなく保証した方がしたほうが長続きすると思う。
個人で介護予防サポーターとして活動する場合パンフレット作成や連絡等に資金が必要である。(コピー代。集会所使用料)
サポーター活動に力をいれ、専門職の支援を受け、介護予防の取り組みの主旨で実施するのであれば有償と考える。ボランティア(自分の空いた時間のみ参加であれば)無償と考える。
サポーターとして動くからには多少の交通費ぐらいは出たほうが働き安いのではと思います。
サポーターとして専門に活動する場合はある程度有償が良い。
時間と交通費をかけてその場所まで行くので有償がよい。有償だと約束をきちんと守る。
自主活動ではなく地域の健康づくりのための活動だから。
自主グループで活動する人達には支援が必要だと思ったので。
自主グループとして活動するのであれば必要であると思う。
実費位は必要。(交通費他)
実費程度。
実費程度。ポイント制等にして自分・家族が受ける際の負担軽減。
実費のみだけでも。
実費負担は当然。
自分達も勉強しなければならないし、それには仕事を休みお金を出して研修を受ける必要性。
自分に自信をもちたいです。
自分に責任をもつ。
自分の家庭の仕事以外のこと、時間をつぶすことになると思うから。
自分もすぐお世話になるとは思いますが無償よりは少しでもお金はちゃんと出したほうが良いと思います。気を遣うのは大変ですから。

上級の資格をとり、意欲的に活動して成果のある方は有償でもいいのかなと思いますし、それによって責任と生きがいになるのでは負担にならない金額で良いのでは。
消耗品代やガソリン代など(自分の活動に対し)
少しのお金でもやりがいがあると思う。
すべてではありませんが必要もあると思います。
すべて無償では持続きしない。責任感も薄らぐと思う。
責任が出て今まで以上勉強し、知識を得て活動するのではないのでしょうか。
責任感・途中で離脱しない。
責任感が強くなると思います。
責任のあることだから自信がもてるかな。
責任のある仕事だから
責任の持ち方が違ってくる。
責任をもつようになるので有償にしたほうが良い。
それなりの責任感を持つから
対価を得ることで責任感が生じるから。
多少、交通費程度は支給した方が良いと思う。
多少なりともいただく事により仕事という感覚もあり、いろいろな面で責任感をもって行動できる。
多少なりともお金が出るので。
多少の援助がないと活動が長続きしないと思う。何か行動を起こそうとする時、無償では何も出来ないと思う。
たとえ少額でも無償だと長続きしない。
地域包括支援センターなどで行うときは有償が大小額どちらでもいいと思いますが必要だと思います。サポーターとしてのプライドをもちたいと思うからです。仲間同士や独居高齢者訪問などでは無償で良いと思います。会場とか時間帯とかいろいろ大変だと思いますが個別訪問ならということです。
茶菓子、時には食事の材料に必要。年金生活で収入がない。
低額で良いが1時間の設定を決める。
どちらでも良いがどちらかと言えば有償は責任が生じるから。
どんな少しでも励みになる。
どんなに少しでも有償だと責任感が強くなるのではないのでしょうか？
長く続けていくには有償の方が良い。無償だと途中でやめてしまうかも。
長く続ける為にはいくらかの有償がよいと思う。
長く続けるには受ける方も気兼ねなく、又サポーターも励みになる。
長続きするためには必要と思う。お金でなくて良い。
何でもですが行事する事により、筋力アップ体操した時も中間でお茶・菓子などが出ます。そのお金どこが出してくれるんですか。
なんでも無償ではやる人が少なくなります。交通費や昼代の補助等。
何でも無償ボランティアでなく良いと思う。
人と接することは年寄りにとって何より栄養になります。多少の負担は当たり前です。
プロとしての意識をもてるから。
ポイント制等にし、万が一介護が必要になった時のために集めて使用するのも良いのでは。もしくは低くても有償の方がやりがい責任感などにつながるのでは。
ボランティアが基本ですが少しでも収入があればうれしいです。
ボランティア活動ですが市からの要請で行っていることでもあり活動費の名目で多少の謝礼があってもいいと思います。

ボランティアが理想でも長く続けるには有償にしたほうが良いと思う。
ボランティアであることは基本ですが全くの無償では長続きしないと思う。移動するのにも交通費がかかるし、その程度は有償であっても良いと思う。
ボランティアであるので有償はおかしいのですが無償より有償のほうがいくらかでもやりがいがあるのではないのでしょうか？
ボランティアでも多少のお金は必要と思うから。
ボランティアとはいえ、多少の手当てでは良いと思います。
ボランティアとは無償ですが基本ですが、多少でも良いが活動費がないとやっていけない。長続きしないと思います。(お茶、菓子代や材料費等の持ち出しあり)
本当のところどちらがよいかやってみないと判らないです。
本来の仕事を休んだりした場合に必要なと思う。今は昼休みに活動(約1時間)しているから良いがそれ以外は仕事を休むしかない。又は休むなら無償で良いと考えている。
万が一を考えた場合等。有償
まんざら無償というより受ける側でもそのほうがよいのでは。気持ち程度の無償(サービス)は無理です。
無償だと責任があいまいになることもあるのでお弁当位の有償の方が良いと思う。
無償だと責任の感じ方が違うのではないか
無償だと私達ボランティアの役員になってやっていますが2年間位やると皆次の人にやってもらうという人が多いので。もっと奥深く専門職の支援も受け、しっかり覚えて私自身でなく、もっと若い人をサポーターになっていただき、有償で生徒さんもお金を払って1週間に1回位しないと筋トレ等は預金ができないため。
無償で何時間も拘束されているのは辛い。それなりにお金をかけて勉強しているので。
無償では相互に安易に妥協的になりやすい。人材を養成して継続して行うためには有償が望ましい。責任ある活動をするためにもそれなりの体制が必要。
無償ではだんだんモチベーションも下がり、責任も下がり、継続性がなくなるのでは・・・。最後は他の仕事が優先になってしまう。
無償でも良いのですが気持ち程度で。
無償よりも少しでもあったほうが良いと思います。
無責任になりたくないため。
やはり長い目でみると必要になる。例 時間、運動、食事など必ず必要となる。
やる気が出る。責任感がもてる。
有償であれば張り合いがあると思います。しかし内容にもよると思います。
有償でやると色々な面で役にたつ事がより多くできると思います。
有償にしたほうが持続できるのではないかと思う。
有償の方がやりがいがあり、サポーターの仲間も増えるのではないかと思います。
有償のほうが責任あるように感じる。
有償ボランティアの方が責任をもつ可能性があるから。
用具の器具。材料等かかるので経費が欲しい。
利用する側としては少々お金を払ったほうが気が楽だと思います。
僅かであっても気持ち的に張りが出る。責任ある行動に通じる。自分たち(個人の集まり)のみであれば気が向かなければ中止したり、と弊害も出る可能性大だと思います。

<無償の理由>

ボランティアですので。(22件)
ボランティア活動で良いと思います。(12)
自分のため(8)
あくまでボランティア精神で。(5)
気軽に受けられるから(4)
気楽に考えられるので。(4)
ボランティアでしたい。(4)
市町村に予算がないでしょうから。(3)
あくまでもボランティア活動です。(2)
お互い様だから。(2)
交通費(ガソリン代)ぐらいは欲しいと思います。(2)
自分から進んで行うべきもの(2)
自分の都合で参加するため。(2)
専門職ではないから。(2)
無償としたが場合によってです。
あくまでサポーターであるという事。
あくまで人のために尽くす気持ちなので。
あくまでボランティアが良い。お互い様の精神で。
あくまでボランティアの活動のほう気軽に参加できると思って。
あくまでもボランティアとして活動する為、保険は自治体にお願いして。
あくまでもボランティアなので。
一方的でなく自分をも含めてリハビリになる。
今の自分では、まだ勉強不足なので有償では負担に感じてしまう。
今の段階では本のお手伝いしかお役にたてないと思っている。
お金を出すのでは介護の意味がないと思う。
お金をとってやるのなら会社や事業所がやればいい。
思いやりであるから。
介護支援貯蓄カード制(何と表現したら良いかわからない)にならないか。自分が介護受給者になったとき使えるような。
介護予防サポーターはボランティアの気持ちで行うべきと考えるから。
介護予防サポーターをしていて、人の笑顔に満足しているから無償でも良いと思います。
基本的にはボランティアだと思ってます・・が。
気持ちでするもの。
気を遣わせたくないしやりやすい。
金銭がからむと責任がかかるから
金銭的トラブルが発生する可能性あり。介護予防内容の利用者の理解度。
現在のお手伝いでしたら、無償で良いと思います。迎えて見守って、お茶を出してお帰りを見守る。このお手伝いです。13時～15時30分まで。
現在の活動では有償では申し訳ない。
現在はそれ程苦痛ではない。
公費節減のため。

公民館等で仲間同士筋トレ等の場合
高齢化社会を互助精神で生きたい。
高齢者の笑顔がいちばん。自分も勉強の場と思っている。
心からボランティア活動をしたい人が集まれるから
この活動は奉仕であるから。
サポーター自身によっても異なると思う。私の場合、現在仕事をしていない状態なので。(職場を休んでまでやる場合は分からない。)
サポーターには少額でも交通費の支給。受講者もたとえ100円でも支払うことにより毎回出席するのではと考えます。
サロンに対しての助成金をもらっているから。
参加時間を将来、介護料の軽減にしてもらいたい。
支援の内容によって、ばらつきがあるので、有償にすれば、無駄づかいが生じるおそれがある。
事故が起こったときは責任が重くなる。
自主グループ活動の時は有償が良いと思う。
実際に活動していないのでわからない。
実施している人達もやがて受ける立場になるのでお互い様というため
自分が自由に参加したい。(都合がつく日)
自分自身にも良い事ですので。
自分自身の健康と考えているので有償となると色々負担になるから。
自分自身のため、気持をこめてほしいから。
自分自身のためになる部分が大きいと思うから。
自分自身の勉強ですから。
自分で選んだのだからボランティアだと思っています。
自分でできるから始めていくので、交通費・食費は行く場所によると思います。
自分に力がない。気楽な仲間意識が良い。
自分の空き時間に対応できれば。
自分の親のような気持ちで接したいから
自分の健康に自信が無く長く続かないから。
自分の健康も維持できるし、皆とのふれ合いが楽しいから。
自分の時間のとれる時、人のためにはげまし、共に健康目指せば良いです。
自分の為でもある。自分を向上させるのには普通お金を払って学ぶのですから無償の愛こそボランティアと思っている。
自分のできる所をする気なので代金まで頂く気はまったくありません。
自分の出来る範囲でやらせていただいています。
自分もいっしょに勉強できるから。
自分もサポーターして頂きたい時もあるので。
自分も年をとって行くので、元気の時はお人の為につくしていきたい。
社会的にきちんとした資格ではないので。
人生の先輩にはいろいろ教わるから。
少しでも地域の活動が出来ただけでも幸せに思う。生きがいによる。
専門職でないからボランティアでと思う。
専門知識が足りない為、有償は無理と考えます。
それを生活の糧とする気持ちはない。お金のために動くというのはボランティアではないような気がする。

たくさんの人に参加して頂きたいから。
ただし出席者にジュース1本位の支援をして(地区の予算内で)いただければと思うのですが。
ただし長期の拘束は困る。
短時間で無理なく行えば良い。
地域で行うには交通費もかからないから。
地域内のことなので。
地域のお年寄りがとても喜んでくださっています。有償にすれば活動する人も増えるでしょう。
地域の人のため、自分、家族のためになれば良いと思います。
地域のボランティアで
月2回位なので無償でいいと思います。
都合が悪いとき行けない事があるので
できる時にできる事をすれば良いと思うので無償で良い。
当然ボランティアの考え方。
独居老人又は介護必要する弱者ですから出来る人が手助けするのは当たり前。
年代的にそこそこの経済力があるので。
普及の為には無償が良い。
プレッシャーがかかるのが嫌。自分の参加できるときしたい。
ポイント制
ボランティアが基本と考えます。
ボランティア活動に対して無償で行って下さい。
ボランティア活動の一つと考えているので有償にするには技術その他が不足している。
ボランティア活動は無償が原則で有償にするのではなくて、ポイント制などを導入し、自分が要介護になった時の支援をうける機会を増やすなどの方法が良いのではないか。
ボランティア精神が大切、また専門職の指導のもと、お手伝い程度が良い。それ以上になると責任が重すぎると思う。
ボランティアで高齢者との交流目的
ボランティアで負担にならない程度。
ボランティアというのは無償に決まっていると思う。自分の為になると思うからです。
ボランティアとしてお手伝い。
ボランティアとしてお役に立つことで向き合う気持ちが違うように思いますし、学ぶものが多いことに感謝してますので無償でも良いと思います。
ボランティアとして活動したい。3年前に母親が他界し、介護が終わったこと。一人息子が独立し私の家から10分くらいのところで家族4人で生活している。41年6ヶ月勤務した会社を健康で定年退職出来た私は夫婦2人で生活も安定し、地域の為に残された時間をボランティアとして貢献出来たらと思います。
ボランティアとして考えている。自分の都合に合わせてられる。
ボランティアとしての活動で自分のできる範囲での登録だから。
ボランティアの域を出ると負担が大きくなる。
ボランティアの意味がない。
ボランティアのほうが行動しやすい。
ボランティアは最初から無償と考えていました。
ボランティアは無償が良い。
無償が自由に参加できる。
無償でも人との関係をもつことで自身の勉強(知識・知恵)が身につくかな?と思う。

無償でも良いが、会場使用がかかる時は負担してほしい。
無償でもよいが、責任ある行動がグループでとれるか、経験、活動してみないと不明。
無償でやれる人が集まり、行ったほうが調和がとれる。
もし有償にすると専門的な知識や技術を完全に習得しなければならぬとそれなりの自覚をもって活動しなければいけないと思います。気軽に活動できません。
やってやるわけではなく、一緒に集まって知識を共有したい。
有償だとボランティアにならないと思う。
有償で活動するためには、かなりの介護予防の専門知識等が必要と考えられるため。
有償ではしばられてしまう。
有償ではボランティアの意味がない。
有償ではもっと研鑽が必要
有償といえる程自信がない。
有償となるとやはり利用される方は考えてしまい、活動する機会が少なくなると思われます。無償なら介護する人、される人、お互いに気持ちが良いと思います。
有償によって自身の活動に高めようとする意識が生まれる。
有償の場合大きな責任が感じられますが多少の有償は望みたいです。
よくわかりませんがボランティア的に考えているので。
若い人の参加を考えると有償もあって良いと思います。
私達のグループに来てほしいと思った時、お礼ができない。
私の場合仕事をして訪問しているため。

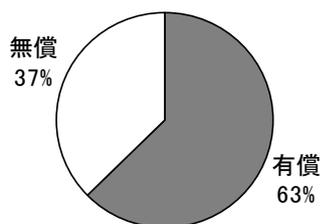
#### <その他の記述>

わからない(4件)
どちらともいえない。(3)
サポートの内容による。(2)
まったく無しでは長続きしないと思う。
ボランティアで行うなら無償。介護予防サポーターで市の運営に協力するのなら有償。
どちらとも言いがたいが継続しつづけるにはどちらか。
どちらでも良い。ボランティアと思っている。
どちらでも良いと思う。有償であればありがたい。
どちらが良いか解らない。有償だと責任が重くなるし無償だといいかげんになりそう。
施設訪問は無償。近くの公会堂、公民館などで体操指導など行うときは有償で。
今後の活動によると思います。
交通機関が少ない場所での自家用車の参加を。
金額しだい
基本的には無償が良いと思うが資料の作成等の料金ぐらいいは捻出できればと思う。

37) 「交通費は有償・無償のどちらが良いですか」

	回答数	パーセント
有償	325	62.9
無償	192	37.1

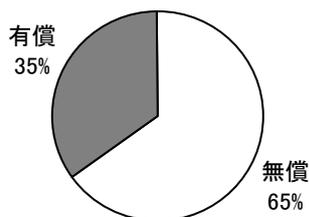
n=517



38) 「食費は有償・無償のどちらが良いですか」

	回答数	パーセント
有償	179	35.0
無償	333	65.0

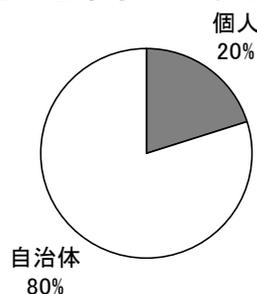
n=512



39) 「ボランティア保険は個人あるいは自治体負担のどちらがよろしいですか」

	回答数	パーセント
個人	104	20.1
自治体	414	79.9

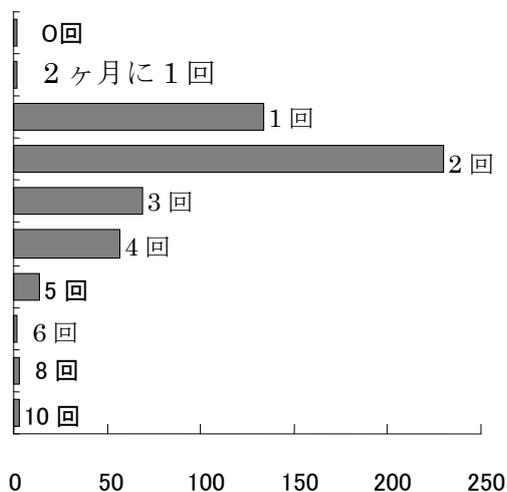
n=518



40) 「介護予防サポーターの活動頻度は1ヶ月に何回程度を希望していますか」

回数	回答数	パーセント
0	2	0.4
0.5	2	0.4
1	134	26.0
2	230	44.6
3	69	13.4
4	57	11.0
5	14	2.7
6	2	0.4
8	3	0.6
10	3	0.6

n=516



41) 「市町村のなかで介護予防サポーターを生かすにはどのようにすれば良いと考えていますか」

<p>(個人では活動しにくいので)場を提供したら良いと思う。</p>
<p>(地域)市の方で予防サポーター教室開催のあることを地域の皆さんに知らせていただくのが良いと思います。サポーター自身も近所の皆さんには声は掛けたいと思います。ですが、大変難しい質問です。地域サロンの時に少し時間をもらい、軽い運動、お話等はできますが、日中に出てこない外出嫌いの人が足腰弱くなっている方が多いです。一番必要とする方には難しいですが健康な方に対して予防にはなると思います。数回の研修を受けただけで資格のない私達がどこまで踏み込んで指導をして良いのか・私の勉強不足を感じます。予防サポーターが希望領域を決め、項目別に順次、クリアーをして出来た項目から少しずつ活動に入れたら良いと思います。クリアーの程度も専門の方に見ていただく事ができれば自信につながるのではないのでしょうか。話がまとまらなくて理解しにくいと思いますがお許し下さい。</p>
<p>「元気高齢者(サポーター)が地域の「老人」との交流、情報収集を行い、区長・地区役員と一緒に「市」の支援を受けながら、「地域ぐるみ」体制が確立できれば理想的と思う。</p>
<p>60歳以上を対象に市町村を通し、会等を把握し、区長、婦人会、長寿会、等に介護予防サポーターを紹介をしていただき、地域に活躍し、喜んで頂ける予防サポーターでありたい。これを通し、高齢化社会に寝たきり老人をなくしていきたい。みんな健康な老いを迎えたい。</p>
<p>あまり広い範囲でなくお年寄りが歩いていける程度の場所で回数も多いほうが良いと思います。</p>
<p>ある程度、意欲のある人達が研修を受けたのだから、市町村で半年に一度位、全員を集めてどのような活動をしていったら良いか意見を聞いたほうが良いと思います。研修を受けたことさえ忘れてしまう程度で、包括支援センターの方々が模索しているばかりでなく大勢の意見を求めたほうが良いと思います。</p>
<p>アンケートの答えはあくまでも今の気持ちでの回答です。まだはじめてないのでわかりません。長い月日になってくると交通費等も参加の回数によっては有償のほうが良いときもあるかとは思いますが。</p>
<p>安全な場の提供(集う場の安全)。専門的な又は行政との連絡がスムーズにとれること。対象となる人の紹介。生かす場は「自分の住んでいる地域」などの限定をせず、自由に選べること。男性の積極的な参加も体力的な面では必要と思います。</p>
<p>いきいき「サロン」を中心に出前講座をする。</p>
<p>生き生きサロン等でピンシヤン元気体操とか脳トレもしもしかめさんよの指の運動を皆と一緒にやりたい。</p>
<p>いきいきサロンを月1回開催しています。お年寄りが楽しんで集まってくれます。講師を呼んで楽しむ事も良いですが毎回リハビリ体操を取り入れられれば今以上健康にとは思いませんが現状維持できれば本人にとっても良い事と思います。お年寄りにはリハビリには一生懸命取り組みます。でも腰痛になってから直すのは大変です。ならない前の予防の大切さを感じます。</p>
<p>生きがい対応型デイサービスを月1度でなく、各地区月2度ぐらい計画して頂ければ独居老人の方も皆さんに会う機会も増え、私達も活動することも増えて良いのではないのでしょうか。皆さんは集まっておしゃべりしたいと思っているようです。</p>
<p>一覧表を作成して、複数の小班を編成にして、早目に連絡をいただく。得意分野を協力していただければ、協力しやすいと思います。</p>
<p>いつも同じではなく、プログラムや内容にも変化をもたせ、達成感をもたせていくことも大切だと思う。</p>
<p>今お年寄りの方達を集め(町内)でいきいきサロンを行っています。その時に介護予防サポーターの方が来て、講義をしてくれます。その為各町内でいきいきサロンの様な会をつくり、その様な所で活躍すればいいのではないのでしょうか。社会福祉の方がすすめております。</p>

今のところよくわかりません。が、介護予防サポーターという言葉が知られていないこともあるように思います
今はわかりません。
今まで一度も活動がありませんのでわかりません。
今まで通りで良い。
意欲をもてる、高齢の方のすばらしい力を発見できる、高齢の方に教えて頂く事がたくさんあるなど嬉しく接する事ができることがあると良い。(その様な方ばかりではない事のほうが多いかもしれませんが。)
大きいイベントでは地域の特色が出し辛い。小さな集団を数多く作り、それぞれに応じた。日数、人数内容の融通ができると長続きするのではないかと思う。サポーター高齢者が自ら意欲的に参加できるようなグループ作りが望ましいが難しい課題も多い。
大きな研修会より身近な小さな輪をひろげてゆきたい。
行っている事を広報にのせ、参加をもとめる。
お年寄りの啓蒙活動を行うこと。
介護が必要とする人の市町村の保健師さんとか専門職の人とか介護予防サポーターの人々とグループ間の人達が見送り制で老人、介護の人達を見る。
介護サポーター活動の場を身近な町内に求めることが必要です。町内の行事(例 さわやか元気教室)に応援させていただく方法がよいと思います。そのための仲立ちを市町村(行政)の関係者をお願いしたいと思います。(市から区長会へ)地域の連携が希薄になっている今日いかに人を集めるかが大きな課題です。この点の工夫も必要だと思います。
介護サポーターとして勉強させていただき、自分の生きがいとして出来る限りボランティアとして出させて頂いておりますが、実際、どこへ出向いたら良いかわかりませんので活動の支持が欲しいです。一度、サポーターとして活動している人達との会合が欲しいです。
介護サポーターの質の向上。研修と実践が伴うことが必要。役立つには経験の積み重ねが必要。
介護支援センター等の関係機関と共に活動、研修から始めたら如何でしょうか。
介護施設から参加した人も研修の中におられたと思いますが純粹にボランティア精神でサポーターとして活動したくても、施設は営利目的で研修を利用しているのではないかと思う事もありました。私自身も、施設長から無駄に動くなと命令され、ケアマネージャーの勉強をしたり、色々の所に顔を出し、常に施設が儲かるように考え行動しろと言われ、また色々な不正な事も積極的に行えと指導され、結局人間不信になり退職してしまいました。介護予防サポーターの先生方の熱心な指導に対し感動しております。本当にありがとうございました。
介護ということはとかく重くとられやすい。予防サポーターという意味を広く若い人にも浸透できれば良いと思う。
介護の状態にならない事が大切だと思うので各地区での予防の呼びかけをまずやっていけたらと思います。
介護予防があると言う事を知らない人が沢山いると思うので皆さんに知ってもらい、積極的に参加してもらいたいです。
介護予防サポーターが活動できる日を選べるシステム。気持ちはあっても時間とかが決まっているとなかなか活動に移れない。自分の時間がある時に自由に活動できると良い。
介護予防サポーター同士の交流を深め、体験、意見、交換等を随時行い、市町村職員、指導者も一緒に良い方向を考えていくことが良いと思う。
介護予防サポーターとして、実際にどのようなことを行うかがはっきりしないので、上記の(設問36~40)の質問には答えられませんが、介護予防、認知症予防のために「何かしましょう！」という呼びかけ人ぐらいならできそうです。

介護予防サポーターとして自主的に活動することは、難しいので、市町村での介護予防教室・講座等への協力機会を増やすことで学び、自身の今後の活動に生かすことが必要と考えられます。
介護予防サポーターにはこんな活動の仕方があるなどの広報活動、PRが必要と思われます。
介護予防サポーターのPRがもっと必要だと思う。
介護予防サポーターのいない健康身心共に豊かな人々を願う生き様でありたい。
介護予防サポーターの研修だけでなく、働く場所(どんな手助けするか)を知らせることが大切だと思う。私の場合研修を終了しただけで終わっている。その後、全く活動していない。どう活動していいかわからないです。
介護予防サポーターの資格を取得した方は市町村でサロン等で活動すれば高齢者とのコミュニケーション、会話などができ、地域のつながりが良くなると思います。
介護予防サポーターの組織化を図り専門職による指導。
介護予防サポーターの人数を増やし協力のもと、区長を中心にした近隣者によるチームケアづくりや在宅支援、区長主導で動ける人は集会議場で楽しく運動や茶話会を定期的実践する。特定高齢者の個別レポート。ウォーキングのできる片側歩道の準備をして近隣者で毎日30分ぐらい歩く。助け合いができるように近隣班に再編成する。
介護予防サポーターの人数を増して一人にあまり負担(時間など)がかからないようにしてほしい。特に山間部などは人数が少ないので。
介護予防サポーターの人達が地域ごとに話し合っ活動していければ良いと思います。
介護予防サポーターはあくまでボランティアとしては、出張できる専門職をもっと増やし、サポーター自身をもっと長い目で育てて欲しい。
介護予防サポーターは何かしらの意欲があつてサポーター研修を受けている人達でしょうから。もっときめ細やかな連絡を取るなど、(自分のできるボランティアのアイデアを募る等)して、もっと自治体は積極的にサポーターと関わるべきです。そうしないと受講はしたけれど、その先はなしというもったいない状況は打破できないと思います。
介護予防サポーターをグループを組織し、市町村の指導方針で行う。
介護予防事業への案内をまめにすること。サポーターの役割の明確化。サポーターの仕事を増やすことができる事はやってもらうようにする。
介護予防について、市町村や包括支援センターに電話の問い合わせがあるぐらい、『介護予防とは何か』をもっと知らせて欲しい。
各行政区単位でそのような教室を開けるような雰囲気醸成して欲しい。
各公民館等で活動してもらおう。
各自の重荷にならない程度の活動頻度で長く続けられるのがよい。
各地域ごと(知っている者同志が多い方が良いと思います。)
各地域ごとに研修をしてもらいたい。
各地域又は地区で介護予防の講習会を開き一人一人ができるだけ最後まで自立した生活ができるように自覚してもらうことが大事だと思います。その上で、自然にさまざまな交流が始められるのではないのでしょうか?その為には行政の手助けは是非とも必要かと思ひます。
各地区公民館に介護予防サポーターの名簿を作成し、配布して置く。各高齢者の集会等で依頼又は要請があり次第、積極的に参加活動する。
各地区の公会堂単位で地域の交流を重視した活動の中で介護予防の運動をする。
各地区の老人会長に依頼したり、声をかけ合い2人1組で移動できたら良いと思う。私の地区では介護必要としている人は少しいるだけでその少人数のひとデイサービスへ行っている。私も年寄りをかかえているので余り活動できる自信がないです。
各地区を小さな単位として会議所位の所で今まで民生委員としてミニデイサービスをしてきましたが、

近所のお年寄りを集めてお茶飲みをかねて運動・栄養面いろいろな病気の予防等歌を歌ったりして喜んでお年寄りの方が集まって時を過ごせる所がほしいと思います。年をとった方は遠く公民館等へでかけることはできません。地区の区長さんと連携ができて地域の中に協力できるとうれしいです。
各町内会によって違うと思うが公民館を使うと良い。いつも同じメンバーの利用者が多いと思うのでサポーターが中心となって声をかけると利用していない人が多く出てこれる様になるので大変良いのではないか。区長が反対している町内はこれから先になって困ってくるので、計画には何でも素直に返事をしてくれる区長になるように市町村はよびかけてもらいたい。昔からこうだったはやめにして、若い人、新メンバーの話している事に耳を貸すぐらいのことを今日からみんなで行っていき、明るいまちづくりをしませんか。御指導ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。
各町内ごとの小さな集まりから始めたら良いと思います。
各部落の公民館など利用して親近感を深めたい。
各町の公民館を軸に民生委員、保健推進委員、婦人会などと連携をとって進めていく必要がある。まずその場へ出てきてもらう行動が必要だと思う。元気なうちからデイサービスなど気軽に行ってみる。誰でも一度は体験すると自分の覚悟ができる。
活動する場所を作って欲しい。
活動内容や研修の有無や場所等、個人や広報等で早めにわかれば参加が用意になると思います。研修修了後も連絡もないので公報誌みたいな者でも連絡していただければ良いと思います。
活動の積極性PRによる住民参加率の向上。
活動の様子等を市政だよりなどにのせてすべての不特定多数の高齢者が目にできるようにする。サポーターが勤めていたりする場合、月曜日だと出席できないこともあるので、色々な曜日に活動日を分ける工夫をする。
軌道にのるまで行政に手を借りたい。自分と家族が元気でなければいけない。
基本的には自発的に行動することが理想ですが、やはりある組織体でリーダー的な存在を発揮してもらわないと、各個人での活動では限界もありうる。
行政が市民に声かけをして、人数を集めて体操をはじめていく、しだいに市民の間に楽しさ等がわかっていけば人数も増えて、予防サポーターの意味があると思う。現代市民の間に予防の必要性をもっと訴えていかないと難しいと思う。行政としての盛り上がりあまりないのはさみしい限りです。(富岡市の場合、行政があまりに積極的でないように思います。サポーターになったとしてもはたして活動できるのかな？と思います。
行政区の組単位に数人のサポーターを配置(できれば区民の方が良いと思うが)して徒歩で行ける範囲の公会堂などを利用して介護予防に関することを学んだり、運動したりする事業をしていけば良いと思う。
行政主導によるサポーター間の連携強化。
行政で計画を立て。サポーターを派遣する方法。
行政と一緒に活動することがよいと思います。
行政等と地域の連携
行政との連携
行政の方の支援が必要。プライバシー等の問題。実施場所提供。
行政の下請けにしない。
行政は自分自身で汗を流すべき。汗を出しすぎてどうしても手が足りない時にサポーターを使うべき。何でも丸投げの傾向があるので要注意。
行政役員の協力が必要です。
行政や地域医療等包括的にサポーターが活動しやすいシステムの立ち上げが必要。研修だけでは不安が多い。実践に回数を多くとる。自信＝活動意欲がでる。

行政や地域の役員の方々一体とした方法が良いと思います。
筋トレ教室は介護予防にとって大事なことであり、地域住民の要求であると思いますが私達の地域ではサポーターが2名しかおらず、一カ所しか実施できていません。地域間の格差をなくすようバランスのとれたサポーターの養成が必要だと思います。又、ミニデイサービスのあり方、その中でのサポーターの役割など明確にし、具体的な研修も必要だと思います。
筋トレは介護予防にいいのは解ってますが高齢者に話して参加を勧めるけど難しい。年齢を下げた親子で参加すれば一緒に出かけられるかなと思います。
近隣とのふれあいの中で助け合いの精神。
区長さんが回覧板で参加者募集し各地域の公民館又はふれあい館で指導者一人来ていただき、私達はサポーターとして活動したいと思います。
区長さんに考えてもらいたい。
区長の中に民生委員、介護サポーター、ボランティア(4~5名)含めること。
グループ間の連絡で村からなら皆さんも聞いてくれると思う。上からが良いと思う。
グループ作りとサポーターの活動方法などとりまとめてほしい。活動したいがどうやってすれば良いか解らない人が多いと思います。
県が積極的に市町村にしかける。高齢者はきつい体操やストレッチは不向き。浅川先生の「鬼石モデル」が最適だと思う。他に何種類かの体操があるようだが。提案 行・学連携の形で全県下、浅川先生の「鬼石モデル」に統一して、「群馬モデル」にネーミングを変更して普及を計ったらどうでしょうか。
元気のお年寄りを集めていろいろと話したい。
健康指導とのリンク。教委にあるスポーツクラブとのリンク。
健康相談等、あるいは地域の集会施設(歩いていける)で、茶会など自主的に行い、その中に取り入れる。それぞれが負担のかからないように一歩一歩進めていく。
現在、活動しているサポーターは研修を受けた中のごくわずかであり、仕事その他で事業に協力できない人はたくさんいます。そういった人達のためにも、年数回のフォローアップ教室を実施し、益々サポーターの知識や技術を向上させてもらいたい。その事によりサポーターの質も高められ、いつでも実践できる様な体制づくりができると思う。
現在サロンの時、行っている。サロン回数が少ないので介護予防を目的として集まりをつくりたい。
現在はあまり介護について理解がないようで広報を利用し特に65歳以上の人に勧めていくように自分のためにもなります。
県市町村の連携(バラバラにやっている感あり)。グループを作って協力体制を勧めて欲しい。(研修したもったいない)
研修が終わった時、これからどうしたらいいかどのように活動するのか何も話がなかった。その後の研修で何も活動していないがどうしたらいいか質問してみたが、市の職員もわからないようだった。他人に対する介護予防サポーターはあまり必要とされていない。自分に対する介護予防という視点で55~60歳位を目安に考える機会を作ったらどうでしょうか。
研修修了者のネットワークをしっかりとしたほうが・・・と思います。残念ながら私自身はフルタイムで仕事をしているので60代には行ってからでないと参加できません。
研修で終わりではなく、月に一度位、都合のつくサポーターを集めて研修の復習をする。
研修に参加すると言う人を継続させて勉強をさせたり、地域でボランティアをできる人のネットワークを作ったり、現在ボランティアなさっている方の発表の場を作ってもらったり。
研修を受けた方(やる気のある方)を行政の方から呼びかけて皆で意見を出し、話し合っって方向を決める。地域の経験者にリーダーになってもらいサポーターの方々の指導をしていただく。
研修を受けた人達に声かけをして参加をしてもらいたい。サポーターの交通手段とか自身の時間帯など話し合うことを希望します。

研修を受けた人に月1回位でも良いから再度皆様と話し合う機会をもった方が良い。どこで、だれが、サポーターの人の手助けをして欲しいか全く分からないので。
研修を受けて上級までいった人が何人もいるが、会議をすると役員は下の(中級)の人に押しつける。先頭に立ってリーダーシップをとってくださる気持ちが本当にあるのかないのか？年下の人達におんぶにだっこでは何のためのサポーター？と仲間意識をもてない。
研修を受けて特に口腔ケアなどは40代、50代から歯の大切さ、みがき方などを指導する必要があると感じました。60、70になってからでは遅すぎると。小・中学校では歯の大切さについて最近はずいぶん教えられますが中年になるとすっかり忘れていきます。ぜひ中年になった歳から(介護予防になる前に)アドバイスをしていくことが良いと。
研修を受けても参加しなければ忘れてしまいます。何でも良いから参加していけるといいです。
研修をした人への声かけなどをしていただきたいと思います。
研修をせっかく受けさせていただいても行動をおこす場所がない。生き生きサロンでも10~20分しか時間がもらえなく苦しいです。市町村の呼びかけで体力測定などをしてその後(引き続き)介護予防サポーター活動してもらおう。又、定期的に体力測定も行いたい。
こういう所でこういう事をやっていますという情報公開。
交通手段が車なので集まるのが容易ではないと思う。そういう地域内では私は運転して出向くことが出来ても多くに人に集まって頂くのは困難と思うので何か要請があればお手伝いするという形になると思う。
広報などでの介護予防サポーターのとりくみや地域にあるサロンの紹介。気軽に参加できるという事をもっと広めて欲しい。
広報などによる呼びかけで参加者を募集して活動していけば良い。
広報によって地域ごとに計画をたてる。気軽に楽しくが一番そこから少しゆっくりとまわりの人の人間関係を作り、そこから始める。介護施設などにボランティアとして色々なことを見学することも良いのでは。そこから又あらたに予防に対する必要性が理解できる。60~70歳の元気の人々によりいっそう予防に対する認識の勉強をする形を違う方向性からも伝えることも寝たきり老人をつくらないことにもなり、家族ひとりひとりにも、意識改革になることも指導することも大事ではないかと思えます。私は介護生活25年そこからの失敗、後悔もつと知っていれば、早く医者に行っていれば・・・だからこそ予防から病的の早期発見を見いだせば元気でいられる。私の経験も皆さんに伝え、介護をした人からも分かち合うことから人と人が支える社会になってほしいです。
広報や回覧板で介護予防サポーターの存在をわかっていただく。どのような活動をしているのかも知ってもらおう。多人数ではなく、部落ごとの少人数で行い、交流をはかれる場をつくる。
公民館や老人ホームやデイサービスを行っている場所への出席を。
交流、情報交換の場を増やす。
高齢者中心のデイサービスに出向く。
声をかけても参加する方は少なく、また山間部では会場に出向く足がないためどのように考えると、難しくわかりません。
声をかけられた時はなるべく参加してもっと自分自身に力をつける事だと思う。何と言っても実際に人と人の中で体験する事が大切な事で自分の力にもなると思う。
心からと思う。
個人情報等のこともあるので行政(包括センター)主導が活動が根付くまで必要でしょう。
個人情報保護などと行政は言っていないで介護予防を必要とする人の情報を公開し、サポーターが積極的にかかわる様にするのが第一。次に近所づきあいのような感覚でお互いに接する様にする。そして結果を性急に求めず、地味な努力をすることだと思う。
個人だとなかなか動くことがむずかしいと思いますのでやはり市町村でなげかける事により、何かが変

<p>わるのでは？センターなどを作りそこに登録し、会議などを密にし自分の担当などを決め、責任をもってやる。</p>
<p>個人的ではなく、自治体が割りふる。</p>
<p>個人で参加できる場所等を知らせるものがあれば自分で選び消極的であるけれど参加して活動の場が広がると思います。</p>
<p>個人でなく組織で活動したらよいと思います。(民生児童委員、ボランティアの会等)</p>
<p>これから始めるのでいろいろ考え中ですが、一人暮らしで閉じこもりの人を部落の集会場に集まってもらいお茶会、又はゲーム等で遊んで又、参加したいという気持ちになる様に考えます。</p>
<p>今後、高齢者が多くなるので寝たきりにならないように自分の身体は自分で守るように国も考えているのではないのでしょうか。</p>
<p>最初は地域のいきいきサロン等で区長さんをはじめ役員の方ではじめ、私の所では2ヶ月に1回やって、だんだんと回数を増やしていく。筋トレ、サロン等と別にしないと30分位しか時間がないと思うので又、私が思うには高齢者の方にはサポーターさんで良いと思いますが70歳以下の人にはお金を払ってでも筋トレ、体操、脳トレをやりたい方がたくさんいますのでそちらの方法も市の方で施設を無料で貸して先生にはお金を払い、生徒さんもお金を払ってやったほうが国のためになるのでは、医療費が少なくなると思います。(例えば、太極拳、筋トレ、フォークダンス、フラダンス、社交ダンス、たんべえ等の指導者に体操以外のことを研修させて、市のほうも宣伝を行い、一人でも多くの人に楽しみながら体操をやると認知予防にもなると思います。今までそういう愛好会に入って認知になる方はあまり聞いてません。</p>
<p>サポーターが活動できる時間の範囲に無理のないことが大切だと思う。費用等で無理のないこと。</p>
<p>サポーター間の連絡。情報。市町村職員の支援。</p>
<p>サポーター研修を受講した人の中から、活動したい人を登録し、町村等が行う事業に参加できる人を募ったり、グループ(自主)で活動している方達の情報を提供することで現在活動したくてもできていない人も参加するきっかけになるのではないのでしょうか。</p>
<p>サポーター自身の参加意欲と知識の向上(高齢化の現状と考えます。)</p>
<p>サポーター自身も色々勉強してゆきたいと考えているので、勉強会の開催を多く行って欲しい。</p>
<p>サポーター中級研修に参加して対象者 65～70 歳程度が適当と思った。老人会の呼びかけで集まったメンバーで研修が行われたがサポーターというよりサポートされる立場の人が多かった。内容はよく説明も上手であったが我々参加者では同じ様なことをやるのはむづかしいだろう。いかにこの内容を周知させてゆくかその対象者を集め、研修の場をもつかが課題であろう。このアンケートでは的が絞れないように思います。</p>
<p>サポーター同士の集まりを設ける。地域へサポーターを広く紹介して欲しい。</p>
<p>サポーター同志の交流、研修会。</p>
<p>サポーター同志のネットワークを作って個人では出来ないことをやっていく。定期的な会合を持ち、活動の情報を伝える。何かやりたくてもマニュアルを作成してほしい。</p>
<p>サポーター同志の連携。</p>
<p>サポーターとしての資格を与える。</p>
<p>サポーターとしての地位の確立のため。勉強会が必要では。</p>
<p>サポーターとしての養成。指導者としての自覚と思います。(40)短期間の場合と長時間続ける場合があります。</p>
<p>サポーターの意義、人数、地域(各地区ごと)の人数等一般住民の方に知ってもらおうPRが絶対必要である。例えば市町村の区単位で誰がサポーターなのか、どんな事をやっているのか知りえるPRが必要だと思います。</p>
<p>サポーターの研修を修了しても個人で活動するのは難しいと思います。やはり初めは自治体主導で横</p>

のつながりを作ってもらって輪を広げていったらと思います。
サポーターはあくまでもサポーターです。プロにお願いして皆さんをサポートするので良いと思う。市町村の職員が積極的にメニューをくんでそれについていく程度しかできない。
サポーターを集め、具体的な活動を紹介し、案内する。
サポーターを集めて研修を行い、体験や要望これからの活動のあり方を市側からも聞いて欲しい。
サロン形式。どなたでも希望あれば集まること可能なサロン。家族の方に送迎、又は行政の援助(グルリンバス等)決まった時間午前9時～午後5時・6時、土曜は9時～13時。
サロンには出てこれない高齢者もいるので「訪問」させていただく形にしたらいいのではないのでしょうか？
参加した人達との横のつながりが必要だと思います。
参加者の募集を。計画をサポーターとたてること。交通の便の悪さを。
参加する方々の過去の経験(職業を生かせる)で行えて、できることなら販売につながり、収益が分配されるようなことなら参加者も楽しみながら出来ると思います。
参加する機会の提供。同じ地域の人との交流(サポーター同志を集める)
参加できる場。人の集まりの中で、介護予防サポーターの役割がうまく利用できれば。(介護予防をしようという人が多数いて集まってくれば)
参加の時間と可能な限り作り、積極的に参加して勉強していく。
市(町村)は財政・人員の制限のせいか実際に予防の成果をあげることよりも「やったということにする」ほうに重点を置いているように思われる。そのためにボランティアの意欲を生かそうとはしていない。市はボランティアを対等の協力者として考えず、事業や活動を市が決めてボランティアを無償の下働きと考えているようだ。企画・立案の段階から意思疎通をはかるべきだ。予防の成果をあげるためには残念ながら市町村の自主性に任せられない。ボランティアからの働きかけと、国や県からの財政面も含めての強い指導が必要だ。
支援センター等の行事のお手伝い位が良いと思います。そこでいろいろな事がよくわかったら自主的にグループ活動すれば良いのでは。
支援と研修によりグループの確立により行動に移ることが出来る。
事業所内のボランティア、ボランティア協議会での関わり等々、日中は現場で、夜は会議に追われ自らも76歳の身で楽しく元気に皆さんと遊ばせてもらっています。現場状況が異なると見当が付きませんが、今の活動を生かしつつ、地域のなかで、役立つことができれば幸せだと思う。隣組の8・5割が老人のみです。
事業としての骨組みをきちんと作ってやるべきと思う。自主グループでやっていくのは無理だと思う。
事業の拡大とPR活動
自主グループ作り。
自主グループで活動というのは様々な面で問題があると思います。市町村で計画した事に対して補助をするのが良いと思います。
自主的が良いと思うがそれを何々老人ホーム？などボランティア会に参加していると予定表が届くので協力ができます。仲間同士は本当に良いと思うが不安です。市町村で行っている所を楽しくお手伝いが私は一番です。出来ることは進んで参加したいです。
自主的な活動は出来ないが、提示された中で、自分が出来るものがあれば活動したいと思っている人が(特に私のような年配のものには)まわりもいるので、その辺を考えていただきたいです。
自身の研修も必要ですが機会があればだんだん自信もついて来るかと思っています。場を多く踏むしかないと思います。
施設、場所が少ないので。他市のグループとの交流。
事前に、当日でも始まる前に実施する内容を教えていただきその中でどのようなサポートができるか主

なことだけでも指示していただくと良いと思います。
自然に集会が出来るようになればいいと思います。
自治体が動き地域特に公民館、又集会所が利用出来たらと思います。
自治体が主体となってやらなければ当村では老人が多すぎて自分にはわからない。
自治体主導で。
自治体とタイアップすること。近所の方々と集まって行う。
市町ごとにグループ(名簿)を作っていたかないとどなたが入っているのかわからない。グループができた中で話し合いを行い、どんな方針でいかがわかるのではないのですか。
市町村、他の自治体の協力なしでは続かないと思う。(長く続けないと意味がない)
市町村がサポーター活動ができる場所を設定し、おおいに研修した方々をひっぱりだすように声掛けとそれぞれのサポーターが経験を重ねることにより自らの地域で活躍できるように指導して欲しい。
市町村が中心となり、サポーターを待っている人の情報を発信してもらいたい。サポーターの住んでいる地域と望んでいる人の地域ができれば同じ所が良いと思う。自転車でもすぐにかかけられる位の人達のサポートが良いと思う。
市町村が中心になりサポーターのリーダーさんを何人か作り、リーダーさんを中心に連絡を取り合い動くようにするのはどうでしょうか？
市町村がもっとPRして皆さんに知っていただくことが必要かなと考えています。
市町村がリーダーシップをとりボランティア団体は補完的(積極的)にして病気・ケガを未然防止を全市(全国)に発信してゆくことが大事だと思います。(医療費・介護費の削減に寄与)
市町村指導の教室に出席しながら、その要領を知ることができる。それを参考に自分らしさを加え、参加者に接する。
市町村職員、グループ間の連絡、情報交換等の機会。
市町村職員、専門職の方たちの指導で、地域ごとにグループを作り、計画をたててもらって、サポーターの人達が活動していけたらと思う。(協力する内容等も具体的に)
市町村で行う事業には広報やお知らせ版で知らせれば活動出来る日には参加したいと思いますのでぜひお願いします。
市町村で介護予防サポーターにお手伝いしてもらいたい仕事内容を示していただき、サポーターが自分の出来ることを引き受けて市町村の指導のもとで活動を進めていけると良いと思います。
市町村で積極的に働きかけていただかないと。ボランティアなので無理強いはいできないとつきはなされてもどのように動いて良いかわからない。
市町村で認定し、自分の居住している地域で活動してみる。
市町村でのイベントに参加。行事に支援したい。
市町村による施設の提供と椅子及びテレビ(ビデオデッキ)等が課題。
市町村の介護予防に対する目標がはっきりしないと、サポーターだけに勉強させても、受ける側と家族の理解を求める意見、無理なく楽しみに働きかける工夫が必要だと思う。両方が楽しめる方法いい案があったら教えて下さい？自分も1年弱で70歳を迎えるについて他人事ではありません。
市町村の事業を多くしていただき、活動を広げていけたら良いと思います。ただ仕事をもっている人も多いので毎週は少し辛いときもあります。
市町村の職員が中心になって心がけてほしい。
市町村の職員の方の努力だと思います。
市町村の中で、定期的に介護予防サポーターの研修を行い、介護予防の知識、その知識を地域の人々に知ってもらう為の活動の方法を伝授してもらうのが良いと思う。介護予防の知識だけではあってもそれを実際にどう地域の人々に伝えていくか、どのように活動していけばいいのかわからないと思うので最初は市町村主導のもとに活動を行い、要領がつかめてきたら、介護予防サポーターの自主的な活

動に移行していくのはどうでしょうか。
市町村の中で軽度の人であれば話し相手になったり、サポーターとしての知識もいかせるんじゃないでしょうか？
市町村の福祉関係の方々をお願いしてこれからの事業計画を各家に配布をしてもらう。
市町村の皆さんがサポーター活動に関心をどれだけもっているか？どれだけの人が知っているかが大切だと思います。
市町村は自治体が組織的に機会を増やし一人でも多くの人に参加を呼びかけること。
市町村や地域包括支援センターなどによる研修退き会を行い、市町村など地域ごとに介護予防サポーターの班(グループ)を作って、グループ間の情報交換をする。行政等担当課(係)は自主グループを作るように働きかけて活動を活発化させる。
実践するだけである。
指導する人がいて心のつながりがほしいです。ボランティアに言っても何かと残されている感じがします。
市の方からいただいた活動の仕方等を見ると、老人会、婦人会の活動と同じことが多く、独自の方向を見つけるのが難しい。
自分が住んでいる地域を中心に自分と相手がわかり合い気心が知れるように。活動のはじめは二人一組で行うとかすれば活動するのに心強いと思うが・・・。
自分たちの存在を知ってもらい各教室に参加して回数を重ねるしかないと思う。
自分でできることを見つけ、自治体の協力を得て行えば良い。
自分でもよくわかっていないので、これからだと思います。
自分の地区の老人会等の交流をもち、常に地区の状況を把握しておくこと。
自分も70歳なので今は？
自分も楽しみ、一緒にやろうとする気持ちと地域に広げようとする気持ちがあれば良いと思います。
市民に介護予防サポーター制度の内容や存在を理解してもらうため広報する。(新しい制度だからほとんどの人は知らない)特に身近な民生委員や区長、長寿会等介護予防サポーターの存在が身近でないと役立たない。介護予防サポーターの位置づけ。(福祉、保険、医療、生活か)
上級研修について市広報等で周知し、研修参加者の申し込みなど教えて欲しい。
上級サポーターにはどの様にしてなれるのか研修会で訪ねても答えがなかった。申し込み方とか何時その研修があるのか詳しく広報とかでも良いから知らせて欲しい。
上級サポーターは研修をしていないので受講したいです。
小単位(高崎市では)町の区長(民生委員)を中心として定期的に集会活動をして介護予防の必要性を地域の人に理解してもらい、実践する必要があると思う。その中で若い人に介護予防サポーターについて理解してもらい講習会に参加してもらいたい。介護予防サポーターは全領域で協力することはむずかしい。(例えば体力の必要なもの等)企画と協力、助力はできるかやはりしっかりと専門の指導者の参加と指導が必要だと思います。
少人数でも、楽しい気持ちで仲間づくりとして出来たらいいと思う。介護する人、される人ではなく、地域活動として集まる場所での交流という形がいいと思う。
初級、中級と学んだ事が現在、筋トレは1年以上しているので特にこれといった事がないが。介護と名が付くと学んだことが一つも生かされていない。口腔ケアにしても老健などでは必要かもしれないが一般の人達には、そういう物をあたえていただかないと役に立たない。もっとみんなが学んだことを実施出来る場を作ったらどうか。
知り合いでサポーター修了の人がいません。市町村でサポーター修了生が集まれるような設定をしていただければだんだん仲間もでき、活動につながっていくと思います。一人では一歩引いてしまいます。

すでに伊勢崎市では実施していると思いますが包括支援センターで登録制をとっている。これは良い方法だと思います。
スポーツトレーナーを各地区に1名任命して、たとえばグランドゴルフ、カーリング、ピーチバレー、ボーリング等のコーチを指導(養成)して1年中誰でも簡単に参加できる場所を作る。(現在の施設の利用)たとえば文化センター隣の体育館、勤労者体育館、(安中・原市)安中高校の体育館、室教室。安中公民館は使用者が多くてこれ以上の利用不能。
スムーズに実施できるまでは市町村の支援が必要。
誠実で行動力のあるリーダーシップがいること。
せつかく介護予防サポーター研修をしていただいたので、もっと行政、福祉、医療、地域との連携をする。
センターの方から介護の必要ある事柄を示してもらいその中から自分達のできる範囲内で行動をする。
専門家との連携をとり、各施設での研修及びボランティアを行っていく。
専門職の講座はすばらしいが、その後のボランティアがなかなか始動が難しく、活動にむずびつかない。
送迎をみてあげれば参加者は多いと思います。
相互扶助のルール。(ボランティア時間の登録カード)65歳以上の元気な人はたくさんいます。意欲もありますが出番がない。しかし、先のことは心配してます。要介護になったとき。介護ボランティアには様々な支援があるのでしょうか、その情報がわかりません。知らせて下さい。また、そんな制度ができればと望んでいる人がいっぱいいます。まず制度を作ってからサポーターの研修をしてください。今回も男性を含めて、多数の方が研修を受けられましたが、出番がない、役不足を訴えられている方がいました。その方達は結局サポーター登録はされませんでした。
組織の連携。グループのネットワーク化。
その地区地区、個人個人違いますのでその点を考えながら出来ればいいと思います。
体操や筋トレ等では転倒や骨折等のリスクも考慮しておかなければなりません。自主グループの活動では、責任も重く、対応も難しいと思います。あくまでも市町村が主体でサポーターがお手伝いするという形がベストであると考えます。
誰でも参加しやすい地域の(集会場)で行うと良いのでは。隣どうして声をかけあって歩いていける距離も考える。
男性の参加事業を考えてゆきたいと思う。地域の交流を起こす事が必要であり、日常生活と同時的な問題としてゆく事が必要と思う。
地域
地域ごとに集会所に高齢者が集まれば筋トレなどし、もっぱら楽しく過ごせ、手伝いもしやすい。
地域住民の主体で実施されていくこと。区の行事と組み込まれていてその区のサポーターが区の住民にボランティアを行う。
地域住民や区長に介護予防サポーターの存在を知ってもらいサポーターに活動を依頼できる体制を作してほしい。
地域単位で一人暮らし又は高齢者と公民館等公共の場へ集合してもらいサポートする。まずは自分、家人と共に家庭で行いたい。
地域で介護サポーターが活動できるよう立ち上がる迄は行政の指導が必要。高齢者が対象のため地域区分は細かくすべきで大勢の方が参加できるように。
地域で活動できれば良いと思います。
地域でグループ等を作って、活動をした方が良い。
地域で声をかけあい、なるべく多くの人達又、気軽に出かけられるサービスが出来たらと思います。介

<p>護予防を受ける人が歩いて行けるような場所で開けたらと思います。</p>
<p>地域での活動。情報交換。</p>
<p>地域での情報収集、関わり方、方針を決めて、ここまではサポート出来る、これ以上はできないというように。</p>
<p>地域で見守り、声かけ、栄養改善、高齢者の二人暮らし、一人暮らしの人ばかりの隣近所の世帯の中、60歳代の私達が若い人です。でも皆さん声かけや話し合い(お茶飲み会)等で楽しく元気に過ごしております。友達と一緒に家庭訪問して話し合い、又、お年よりから教えていただくこともあると思われまます。淋しくなく元気で長生きしてほしいです。</p>
<p>地域のいきいきサロン等へ出てゆく自治会、民生委員等で行っているの、行政の職員のほうからこういう人もいますからと紹介してもらわないと出て行けない。</p>
<p>地域の方にもっと知って欲しい。</p>
<p>地域の区長さん、民生委員さんと自治体が情報交換をして気軽にサポーター(ボランティア)を利用できると良いと思います。それにはたくさんの人に介護予防サポーターの研修を受けて欲しいです。</p>
<p>地域の高齢者に各すぐ公民館、公会堂などに集まっていたら、体操や料理やコミュニケーション作りをする呼びかけを広報、チラシなどで行政の名でしてほしい。(個人では集めにくい)10分かけて中央の施設へ筋トレに出かけられる高齢者は意欲があり、元気で他にも活動している人達。そうではなく、家から出かけない高齢者を外へ連れ出すために手助けをしてほしい。</p>
<p>地域の集会所を利用してお茶飲み感覚で集まっていたら活動を始めればと思います。</p>
<p>地域の専門職の方々の情報を得て活動していきたい。</p>
<p>地域の集いを利用し進んで活動する。</p>
<p>地域の仲間と協力しあって行い、時々専門職の支援をお願いして参加者の意識を高めていきたい。</p>
<p>地域の人々が安心して介護予防に参加し、その人数が多くなればサポーターも力が発揮出来ると思います。</p>
<p>地域の人達に活動をもっと知ってもらい参加してほしい。</p>
<p>地域の人との交流を先に理解してもらおう。</p>
<p>地域の人々に介護予防について理解して知ってもらうことが大切だと思う。</p>
<p>地域の役員の方と例えば民生委員さんとかに相談して頂いて良いアイデアを出し合っていけたら良いと思います。</p>
<p>地域別に集まれる場所。遠すぎない距離。</p>
<p>地域包括支援センターが先立ち声掛けしていただければ、ある程度の予算を町(市町村)からいただき、備品や講師料にあてられたら良い。</p>
<p>地区内の集会所を利用して、地区内のサポーターがあたって、活動ができるのが理想だと思います。</p>
<p>地区の各役員(区長、長寿会、婦人会、更生保護、民生委員)さん方の協力をいただき一人でも多くの人に参加していただくことだと思います。</p>
<p>地区の民生委員さん等相談し、活動すれば良いと思います。</p>
<p>知名度をあげる。小さい範囲での活動も大切。</p>
<p>中級、上級まで研修を続ける人が少ない。最初はたくさんのもだんだん少なくなってしまう。研修期間(日数)が少ないのももう少し時間をかけて勉強したいと思う。(まだまだ未熟で指導の立場にたつと自信がない)</p>
<p>長寿会の婦人部を活用することが良いのではないか。</p>
<p>町内区長さんに介護予防についてよく知ってもらいたい。町内に介護予防サポーターの方がいること自体も知らないのでは?地域住民、みんなで気持ちよく介護予防できるようにしてほしい。</p>
<p>町内とのコミュニケーション。</p>
<p>町内のサポーターとまず話し合っ少しづつ歩み出したいと思っているがまだわからない。</p>

町内の役員の方やボランティアの方達と一体となって取り組めたらいいと思います。
町内の老人会と協力しながら活動したり、又市の広報や各地区の公民館だより等で介護予防サポーターの存在を皆さんに知っていただくなどが良いと思います。今のところは大多数の人が「介護予防サポーター」という言葉も存在も知らないと思います。
直接参加させてもらった事はないが補助員ではまだサポーターとはいえないと話しを聞いた事があり、私もし参加したならそう思います。
月1回程度の研修など行い、介護予防サポーターの方と地区ごとに集め、グループを作り、2人一組で毎月2～3日位一人暮らしの方の訪問したりして、いろいろな話し相手や悩み事や困ったことなど聞いたり、相談にのるなどしてあげることが大切な事だと思います。
定期的に会合をもつ。
定期的に講習を行い、全体の質を落とさないようにしながら、実践の場を設ける。市町村が初めは中心となり事業を開催。広報を使い、サポーターを求める人に周知する。
定期的にメンバーに声をかけ、研修などを行い。まずコミュニケーションをとっていく。
ときどき講習会があると良い。
どこの地区にも、敬老会という会があるのでこの会に呼びかけをして、各集会場に集まってもらってお茶会から始めて、簡単なゲーム、料理教室などお年寄りがなれるまで楽しむことが良いと思う。
独居老人のうつ病を発症している人達に早急に対応して欲しい。体の不自由な人達の助けも必要。なかなか自主的に活動するのは難しいと思われるので市町村が機会等を作っていただき、その活動を維持できたらと思います。
なかなか難しいと思う。
仲間同志の連絡を密に。介護予防サポーターがある事と活動している事を広報か何かで。
仲間とのコミュニケーション
仲間を増やすこと。そのため、サポーター育成のための講座を毎年必ず開催し、人的資源を豊かにすること。地域単位の自治会で「サポーター」として認知してもらえよう、市町村の助言が欲しい。
日曜日とか休日を利用できれば出席したい。
日本の高齢者社会のためにこれからは大切な事業と思います。技術的な事ややりたい介護を社会全体で支える仕組みで交流をもって広がるように計画してゆくことが大切だと思います。
人間関係を良好にする様に心がけること。
はじまったばかりでわからない。これから話し合っていくつもりです。
初めて筋トレ教室に参加してみて教室に参加する方々は、とても前向きな人生を歩んでおられる先輩達でした。家から出ない方々をどうサポーターにしていくかが課題かなと感じました。
はじめのうちは町が計画して、介護予防サポーターについての知識が一般に知れわたったほうが、活動しやすいと思います。
場所にもよるがサービスを受ける人の交通の便を考えないと出席する人は少なくなる。
場所はこまめに決めて大勢の方に参加していただくようにする。この辺りでは各組合に集会場がありますので最大限に使って、市の職員と協力して地域で上級研修修了者と一丸となって行く。地域にいなから他の地域から応援していただく。
一人が全部こなすのではなく、個々に得意な面を生かして活躍するのが良い。
人を集めることが大変です。(農村は)老人会等に声をかけることも良いと思います。民生委員さんと協力して地区の人達の様子を聞き、協力できることはお話しすることも良いと思います。
病気や障害を抱え、外出援助がないと会場へ行けない人も、人々の支援により介護予防サポーター活動に参加して役割をもてるようになり、コミュニケーションと勉強できるようにすること。
フォローアップ研修をたまに行い資質の維持、向上をはかり、サポーター同志のネットワークが作れるようにする。

福祉施設に月に一度だけでも良いので社協の方と訪問し、コミュニケーションやお掃除、傾聴、ボランティア、歌などをし、地域に根付いてほしいと思う。いつかは自分も人の世話になる時がくるのだから、体が動くうちにお手伝いをしたい。今元気な高齢者の方に(ボランティアの力)頑張って子供達にも、老いることを教え、助け合わなければ成らないことも、お金以外の大切な物を教えていきたい。町の体育指導員をしているが親子で高齢者のことを考える機会を与えて欲しい。

婦人会という団体に参加しており踊りなどで老人ホームなどへの慰問をしています。または近所にお年寄りなどがいますので、声かけからまずははじめて、活動する仲間が集まれば一緒に公民館などでみんなとおしゃべりしたり、体操したり、何かやっていければなあと思っています。自分の義母も80歳となり、足が悪く外出しなくなりましたので誘いながら外に連れ出そうと思います。

ふれあいサロン・いきいきサロンの中で10分間取り入れる。色々な講演会の中(公民館主催)で数分取り入れる。

平成18年11月初級・平成19年2月中級を受け、受講内容をすっかり忘れ、今回改めて読みなおしました。(上級で筋トレ、体力測定のお手伝い)そんなことから良い案が浮かびませんが、各体操教室生を積極的に市は利用すると良いと思います。

包括支援事業の実習や教室などに参加させていただき、自分のできる活動を見極めて活動するきっかけを作る。地域の特定デイサービスに出向き、自分が活動できるきっかけを作る。現在包括支援事業をお手伝いさせて頂いていますが地域の人達にとっても大切な事だと感じています。上級の講習会は用事があり、参加できませんでしたが機会があったら受けてみたいと思います。講習会の参加により包括支援事業に参加させていただき、皆様に喜ばれ、私自身にも勉強になっています。

包括支援センターでだれでも続けてできる行事を計画してほしい。

包括支援センターの職員のほうが人手不足している活動の時に、サポーターの必要があれば案内(要請の)等もらえれば、時間的に都合がつけば、活動し、少しでも人の役に立てると思います。

包括センター等にてスケジュールを組んでもらう。

発足しました。

毎月例会をもち、運動的なことをする。

まず会話の輪を広げる。誰でも参加できる茶話会等から始め健康は自分でつくる気持ちになる心がけを実行するを広げたい。

まず広報などでサポーターの受講生を広く作り、多くの人に研修に参加してもらって「介護予防サポーター」の存在を身近なものにしてもらわなくては。私は民生委員をしていて「参加して来い」といわれ行ったわけでした。

まず声かけ。独居老人等への訪問やひきこもり防止。地域社会への参加をうながす等のことから始めたほうが良いのでは。またそうした方の把握、もれないように調査が必要である。実際そうした方を引き出すことのほうがむずかしいのでは。。

まず第一にサポーター同志の集まりを持ち横のつながりを作って欲しい。

まず地域からと小規模で進めていく。回覧板等で介護予防サポーターのPR。

まず地域の人に介護予防サポーターの存在を知ってもらう事が大事。サポーターが必要な活動の情報が解りやすいと良い。

まずは近所の高齢者の散歩の時の声かけ。姿が幾日か見えなくなったら訪問し話しをし、筋トレ、口腔ケアを指導したいと思う。

まずは個々の生活圏から(ご近所・老人会)など気にとめて人間関係を築いてから少しずつ始めたら良いと思う。

まずは市町村、地域包括支援センターの協力をいただいて、活動出来る場を作っていただきたいと思っています。少しでも多くの方が介護予防がどの様なものか自分自身にとっても大事であるかを知ってもらうことが第一と思います。

まずは市町村が支援して情報との交換の場をつくったり、また研修をしていろいろな知識を得たい。
まずは地域の交流が必要だと思います。仲間同志の連絡。
まずは地域密着。(気心を知っている人達)で活動はじめてみてはいかがと思う。
まずはどんな人がサポーターを必要とし、手伝う事も内容などを情報が必要です。
まだサポーターの事を知らない人が多いと思う。町等から、こういう仕事(ボランティア)があるという事を知らせてほしい。個人的には独りである人への話し相手からでもやってみたいと思うがおせっかいだと思われるかも。上級サポーターの講習の連絡はなかった。あれば参加したかった。
まだ日が浅いので何とも言えません。
まだ発足準備中なのでわかりませんが行政職員との支援。
町全体でやるのではなく、地域でやっていくのが良いと思います。
町での声かけやできる仕事などの呼びかけなど研修を受けたまま何をどうすれば良いかわからない。
町でも実際は、歓迎されていないように思う。プライバシーの関係もあるでしょうから。職員でやっている中へ素人が入り込めない感あります。前に個人の申し込みで断られてた事があるので。
町のほうから町民に介護サポーターのことを知らせてほしい。
身近な方々に声をかけ、小さな輪をつなげてゆく。皆様にでてきていただく方法。
身近な人と交流をもつこと。
自ら積極的に行うにはまだ浸透していない。今の所は市町村の支援などを利用してリーダー的な人を先頭に行った方が良いと思う。
皆で楽しく体操したり、話しをしたり、お茶を飲んだり楽しい時間が良い。
ミニデイサービスなどのお手伝いなどもよろしいのではないのでしょうか。
みんながサポーターになることによって町や村が元気になるのではないか。
村職員の支援。
村職員の支援があれば活動しやすいと思います。(介護予防サポーター活動をどこまでやったら良いか)
無理のないようにするのが一番だと思います。
役所が少しは我々のことを思って活発に働きをするように。情報が全然無い。どうすれば良いかわからない。
やはり受けた人達を集める場所やこういう事がありますとお知らせをいただかないとそのままに、受けてはみたものの、という感じになり活動をおこすまでに至らないように思われます。次のステップになれるように将来自分たちが老いていく時に頼りになれるようにお願いしたいです。
やはり個人に限界があるので町で何か事業を広めてくれれば参加したいと思います。
有効にできる時間を無駄なく使え、すべての面で負担にならないようならば良いと思います。
世のため、人のため、自分のためと思っています。自分が住んでいる地域の方に還元するのが一番良いのではないのでしょうか。私はホームヘルパー2級の資格を持っていますが、職業としては出来ないと思います。
予防だけでなくホームヘルパー的な実習や実技の講習も合わせてあると、自信をもって活動が増すと思います。名札サイズのサポーター証があると、持ち歩くことができ、活動するのに証明になると思います。
予防を受けたい人へのPRない。職員のやる気。
来年度にむかって今のところ介護サポーターの活動の準備中です。
リーダー的な人が来てよく話し合ってからが良いと思います。
リーダーを選び、その人に従って何事も行えば良いと思います。
老人会、民生委員、町内会などの理解が必要。
老人会等の協力。

老人会の皆さんと一緒に講義を受けましたが年齢の近い皆さんは自我がとても強く、なかなか協調するのは大変な事と感じました。年齢、性別を上手に組み合わせサポーター同志が協力し合える状態を作り上げないと無理と感じます。各行政センター単位で運動・講習と通年にわたりいつでも参加できる場所を提供し、そのうちにうまくサポーターを配置して地域の皆さんと一緒に参加していく中で大勢の皆さんが介護予防に必要性を感じてもらえる活動になるのが良いと思います。

若い人にやってもらいたい。70歳ぐらいまで。

私現在71歳ですが健康で薬も飲んでいません。病院で25年以上看護助手として働いていたので少しはお手伝いできますので近所で一人である人達を病院につれていったり、いずれ自分もお世話になるかもしれないのでボランティアと思ってやっていますのでこれからも続けていきますので強いてサポーター活動としていなくても良いと思います。

私達の村ではボランティアを新規に立ち上げる事は大変だと思う。行政・包括支援センター等によっての事業等にお手伝いできる様にしてほしい。今の包括支援センターの仕事が見えない。皆様の力を早くかけてください。

私達の村は50%以上の方が65歳以上の老人ということが現実と成りつつあります。私もその一人ですがなんとしても元気でいつまでも長生きと想っていても先のことはわかりません。自分の元気で人の世話が出来る限りしたいと考えております。特に一人になって誰も家族のいない方には声をかけております。みんなで自分の所にある物などをもち合って食事などと考えております。

私達役員で考えて決定すること以外に仲間同志の話し合いが大切だと思います。ようやく体制ができたばかりですが、今まで研修したことを自分自身しっかり身につけて又市の職員との協力を得て活動していきたいと思います。

私の町では民生委員の方が独居老人に対する戸別訪問や定期的な楽しむ会合を開く等、誇りと責任感をもって積極的に活躍しております。そこへ介護予防サポーターは入り込む余地はないように思われます。その辺の調整を市町村がうまくしていただければ、サポーターとしての活動も出来るのではないかと思います。

私は77歳で車にも乗れます。今は元気ですがまわりには一人暮らしの人が増えています。そのような人達は話し相手が欲しいのです。知らない人でも良いから1か月に一度位訪ねたらよいとおもっているものです。私も一人暮らしです。失礼しました。

私は研修を受けて初めて知ったくらいです。知らない人が多いと思うので広報等で活動できる事が皆にわかってもらえたらと思います。

私は最初の会議に何回か参加させてもらったが、話しがまとまらず、同じこと(話)のくり返しだった。のち、イヤになってでなくなったがその後どうなったかは知らないが、ある程度町が決めてサポーターと共にやり、ルールが出来たら、サポーターにまかすとかのほうがいいのではないかとまた私がこうしたらと口だしたらイヤがられたので。

わからない(6件)

特に考えておりません。(2)

## ＜介護予防サポーターアンケートのまとめと考察＞

介護予防サポーターの基本属性は、60歳代を中心に50～70歳代が9割近くを占め、83%が女性であった。57%は介護経験があり、67%はボランティア経験があった。毎日働いている方は23%で日によって働く方と合わせて約半数を占めた。介護予防サポーター研修への参加理由を自分あるいは人のためのどちらかで選択してもらうと、70%が自分のために参加していた。中級研修の受講を決めたときには71%が介護予防サポーターとして活動する考えがあった。参加理由は自らの健康保持、将来の生活準備、家族や地域の人々に役立つためであった。

初・中級研修については、84%の参加者が「満足」「やや満足」との受け止めだった。初級は7割、中級は6割の参加者が研修内容を理解できていた。そして、58%の人が中級研修で学んだことを自らの生活で実践していた。中級研修でさらに学びたい項目としては、認知症予防と運動・筋トレ、地域づくりが挙げられ、3割以上の人が選択している。そして、もっと内容・時間を増やした研修を望む声が多い。学んだ知識が活動に「とても役立つ」と「やや役立つ」が6割弱を占めた。「役立たない」という評価の理由の多くは、活動していないことや、活動の場がないことであった。

上級研修に参加したのは中級研修修了者の20%である。そのなかの62%が「満足」と「やや満足」の受け止めだった。しかし、「研修にただ参加しているだけ」、「サポートしているだけ」という記述もあり、上級研修に対する物足りなさを感じとれる。

現在、介護予防サポーターとして活動している人は中級研修修了者の37%であった。活動していない人は56%いるが、そのうちの8割は活動したいと思っており、活動できない要因は、活動したいが市町村に活動の場がないことであった。

活動している人の多くは月2～3回の頻度であり、現状どおり活動していきたい人が60%である。現在活動をしておらず、今後も活動したくない人は「気力や体力がもたない」「暇がない」を理由としてあげていた。介護予防サポーターとして活動したい領域は「運動・筋トレ」が80%おり、皆と一緒にいけるところが良さと考えられる。70%の介護予防サポーターが今後の活動に不安を抱えており、84%の介護予防サポーターが市町村や地域包括の事業に参加したいと考えていた。不安を抱えつつも参加意欲は高い。

報酬は無償で良いが、交通費は負担してもらいたいという意見が多かった。そしてボランティア保険は80%が自治体に負担してもらいたいと答えた。報酬を抜きにして地域に役立つことを生きがいにしたいと考える方が多い。

介護予防サポーターは介護予防に対して関心が非常に強い。手伝いだけでなく、サポーター活動を楽しみながら自分の存在意義を見いだしたい希望がある。アンケートの記述では介護予防の学びたい項目が20以上あがっている。今回のアンケート結果を元に、各地域で介護予防サポーター同士が話し合いをもてば、活動のアイデアがたくさん出てくるだろう。それを地域で介護予防事業に結びつける力量が市町村に求められる。

活動意欲の高い介護予防サポーターが県内で多数誕生している。このマンパワーをいかに育て、活用するかは、市町村の技量にかかっている。しかし、介護予防サポーターも受け身で指示を待つばかりでなく、積極的に自分達から市町村に働きかけて自主活動拠点を形成し、継続した活動に結びつけて頂きたい。



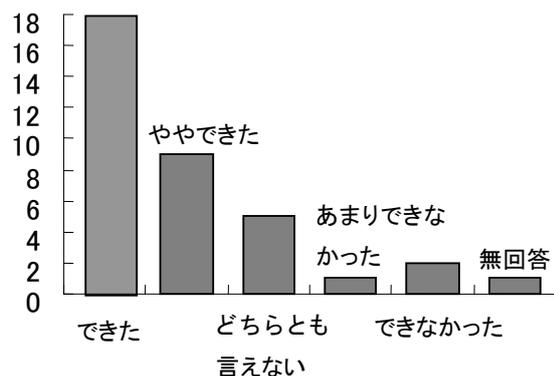


介護予防の推進、啓発にはボランティアの役割が大きいから
介護予防の必要性を感じ、知識や技術を身につけた住民人口の裾が広がるから、役立つと考えるが、速効性の結果を出すのは難しい
共助の具体策と思うから
行政が行えない所をボランティア組織として活動してもらえる
行政には協力的であるが自らが主体となってサポーター活動を展開することが難しいと思われる。行政が「主」サポーターが「従」から脱却できないと続かない
高齢社会において、住民同士の支え合いは必須だと思うので
サポーターの研修だけで地域で介護予防を広めるためには無理がある。(地域性や現在の家族構成等を考えた対応はできないと思われる。)
サポーターの人数が少なく、活動が開始されていないため
サポーターは地域ボランティアとして重要であるとともに利用者の良き理解者になると考えるからです
実際に地域やイベント等で活躍しています
受講者が地域で広めるのはもちろん、各種ボランティア活動に積極的に参加する機会(タイミング)を作ることが出来る
職員の少ない包括にとって、介護予防教室のスタッフとして手助けをしてもらった
すぐには自主的な活動を行うことができなくても、身近なところで隣人に研修の話をしてくれるのも成果のひとつと思われるし、研修修了者が、サポーターとしての自覚というか意識を持ってきている
すでに地域の「いきいきサロン」等のボランティア活動に協力していただいている方は、サポーター研修で学んだものを活動にいかしてもらえる。介護予防の必要性を周知、地域活動に取り入れてもらう
専門職が難しい話をするよりも、身近な人の小さなアドバイスが心に残る場合もあると思う。町のスタッフが不足している場合にも事業や知識の普及に協力が得られる
地域で介護予防事業を継続する事が重要であり、育成は欠かせないため
平成18・19年の2年間養成にご協力頂きました。参加人数は多いのですが、町の事業への協力や自主的な活動まではなかなか結びつかない
保健師とサポーターが連携することでより地域に密着した活動を展開できると思うし、そうしたい。介護予防についての意識が高い人を増やすことで地域の健康度を高めたい
ボランティアとして町内のミニデイサービスや介護予防教室へ参加する中で、研修で得た知識を生かすことができる
まずは家から外へという事では誘いだしてくれる
来年度以降、活動を予定している

## 1. 平成18年度介護予防サポーター 初・中級研修の実施について

1) 「平成18年度は市町村の意向に沿った初・中級研修ができましたか」

	回答数	パーセント
できた	18	50.0
ややできた	9	25.0
どちらとも言えない	5	13.9
あまりできなかった	1	2.8
できなかった	2	5.6
無回答	1	2.8
合計	36	100.0

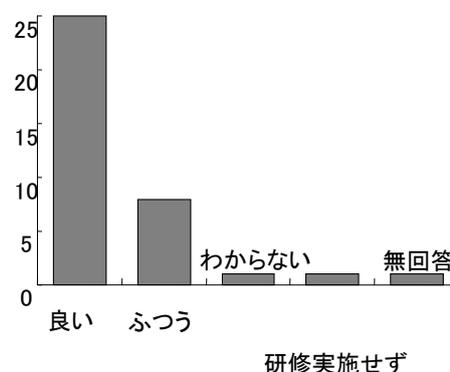


「あまりできなかったまたはできなかったを選んだ方はどのような点が意向に沿わなかったですか」

介護予防事業の担当が明確になく、包括支援センターは介護予防プラン作成に追われ、着手できなかった
まずケアマネに予防の知識をと思い研修を受けてもらったが介護予防支援計画書にはあまり反映されていない。JA福祉センターにミニデイを委託。そこでは10の筋力トレーニング、口腔ケア等、ヘルパーケアマネが実施している。(平成19年度から17カ所×2/月)
実施する側のスタッフが不足しており実施できませんでした

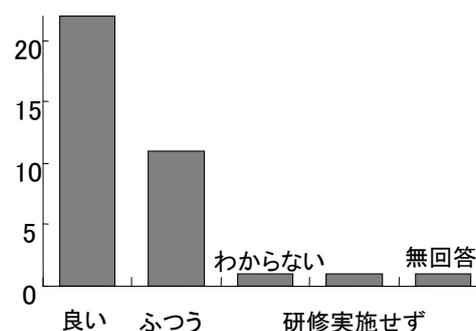
2) 「平成18年度の初・中級研修で広域支援センターとの連携はどうでしたか」

	回答数	パーセント
良い	25	69.4
ふつう	8	22.2
わからない	1	2.8
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



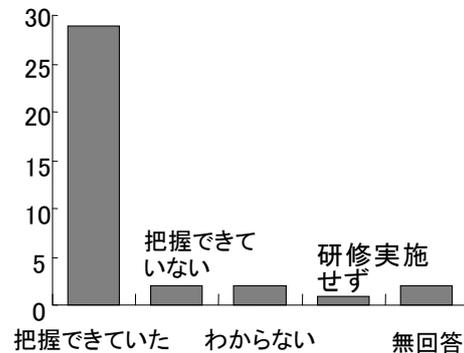
3) 「平成18年度の初・中級研修で広域支援センターとの役割分担はどうでしたか」

	回答数	パーセント
良い	22	61.1
ふつう	11	30.6
わからない	1	2.8
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



4) 「市町村がどのような介護予防サポーターを育てたいかという意向を、広域支援センターは把握できていましたか」

	回答数	パーセント
把握できていた	29	80.6
把握できていない	2	5.6
わからない	2	5.6
研修実施せず	1	2.8
無回答	2	5.6
合計	36	100.0

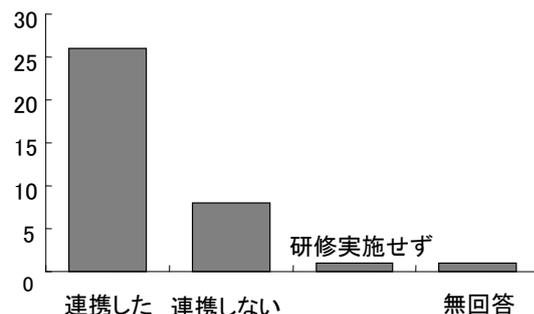


5) 「広域支援センターと連携するうえで課題がありましたらお書き下さい」

桐生地域は広域支援センターがみどり市も担当しているのでみどり市と連携が上手く行くと、内容の濃いものになるがなかなか難しい
草津町では平成18・19年と2年間フォローアップ教室にもご協力を頂いた。今後もフォローアップにご協力頂きたい
県のサポーター養成に対するスタンスが推し測りづらく次年度の方向性が決められない
広域支援センターの職員が「地域」を十分に把握できていない様な気がする。 支援センターのスタッフの通常業務が多忙で綿密な打ち合わせができない
広域支援センターも業務の忙しいなか苦勞してくださる様子がうかがえ、お願いしづらい
市として「研修を実施する」ことに精一杯で、サポーターの活用等について検討が充分できていなかった
初年度だったため、どちらもイメージしづらく、意志が伝わりにくかった
利根沼田地域は面積が広いため、会場の設定等に配慮が必要となる
病院の仕事が優先されてしまうため、日程調整や細かい打ち合わせが難しい
平成18年度は5町、平成19年度は1市5町村住民を対象に館林市内の会場で実施したため、当町からの参加者が1ヶ台にとどまった。受講者の交通の便に配慮し、町内もしくは隣り合った町位の範囲で1回分を実施したい

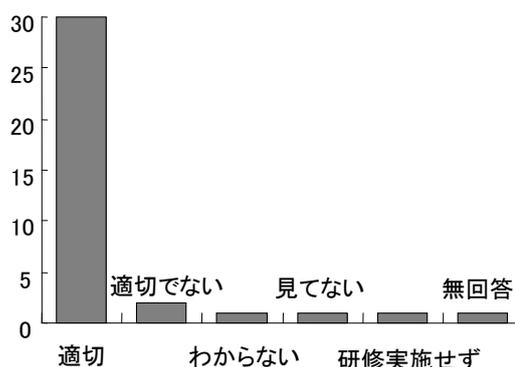
6) 「介護予防サポーター初・中級研修について隣接市町村と連携していますか」

	回答数	パーセント
連携した	26	72.2
連携しない	8	22.2
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



- 7) 「初・中級研修で使用した教材（県支援センターが作成したもの）は適切と考えますか」

	回答数	パーセント
適切	30	83.3
適切でない	2	5.6
わからない	1	2.8
見てない	1	2.8
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



- 8) 「初・中級研修の教材で改善すべきところがありましたら具体的にお書き下さい」

一般の人がわからないような言葉を使う。内容を簡潔に。文字は少なく、必ず理解してほしいポイントとそうでない所が受講者にわかるように。
運動に関しての関心が高かった。活動する上で有効なツールになると思う。自信をもって住民に広げて頂きたいので、時間を増やして欲しい。
栄養改善:6つの基礎食品に食事バランスガイドを追加したらどうか。
県で作成した資料を各講師が独自に手直しし、講義を行っていた。
広域支援センターのスタッフでなくても、この教材を使用し、初級・中級研修を実施できるようにしてほしい。
叩き台としてはいいが、慣れてきたら各市町村の創意工夫にある程度任せるべき。実践的でないため。

- 9) 「初級の研修内容で改善すべき点がありましたら具体的にお書き下さい」

受講のアンケートの中から、専門職から直接話が聞けて良かったという意見が多かった。内容が盛りだくさんという意見もありました。4日間という期間の中で、サポーターとして何かをするには自信がないという方もありました
初級と中級の内容が重複しているので内容の変更をする
初級はよい
ボランティアとしての基本的な心構え、役割などの内容を加えて欲しい
まず、サポーターの役割を明確に認識できるような説明をするべき。一般の人にはわかりづらい盛りだくさんすぎて参加者がやや疲れた様子

- 10) 「中級の研修内容で改善すべき点がありましたら具体的にお書き下さい」

初級の内容とダブる部分があったので初級はガイドラインのみ。中級は実技中心と色分けをはっきりした方がいい。
--

先駆的な市町村の状況を内容に入れて参加者の意識を高めて頂きたい。
叩き台としてはいいが、慣れてきたら各市町村の創意工夫にある程度任せるべき。 実践的でないため。
中級は初級の内容を更に高めた内容で、より具体的なものが望ましい。
日数を増しても、併せて認知症サポーターの養成を行えると良い。
ボランティアとしての基本的な心構え、役割などの内容を加えて欲しい。
盛りだくさんで専門家でも大変と思いました。

11) 「平成18年度は受講生をどのようにして集めましたか（複数回答可）」

	回答数	パーセント
公募した	24	66.7
団体に声掛けした	21	58.3
特定の地区から募った	2	5.6

n=36

その他

個別に連絡	2
3地区の長寿会を選出	1
地区ごとに指定した人数を民生委員に推薦依頼	1

12) 「介護予防サポーター初・中級研修の案内記事を広報誌等に掲載しましたか」

	回答数	パーセント
広報誌にだした	23	63.9
広報誌にださない	11	30.6
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0

市町村の広報誌へ掲載	回答数	パーセント
した	21	58.3
しない	13	36.1
研修実施せず	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0

※ 雑誌には掲載していない。公民館報へ載せた市町村が1箇所あり

13) 「平成18年度の初・中級研修案内ちらしはどこに配りましたか（複数回答可）」

配布先	回答数	パーセント
老人クラブ	11	30.6
社会福祉協議会	9	25.0
ボランティア	8	22.2
地域包括支援センター	6	16.7
筋トレグループ	5	13.9
在宅介護支援センター	5	13.9
町内の回覧板	3	8.3
公民館	2	5.6
ヘルパー業者	2	5.6
福祉施設	2	5.6
趣味の会	1	2.8

n=36

※ 学校、スポーツクラブ、福祉機器業者、民間企業、診療所、病院、放送局にはチラシを配っていない。  
研修チラシを作っていない市町村は2箇所あり

配布先(その他)
全戸配付(2件)
民生児童委員協議会(2)
民生委員
民生委員等各種役員
民生委員に推薦依頼し、選出してもらった。
海洋センター
各種教室の参加者
居宅介護支援事業所・保健センター
市窓口、広域支援センター
地域づくり推進委員会
ヘルスマイト。保健推進員
団体・個人宅配布
町の団体(母子保健推進員・食生活改善推進員・民生委員等)
認知症サポーター養成講座等のイベント会場
研修実施せず
無回答(19)

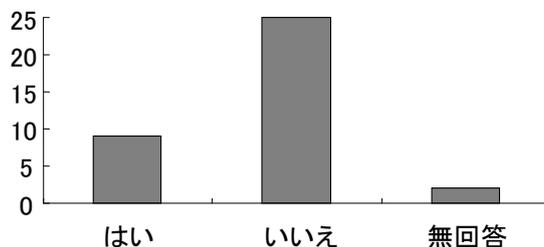
n=36

2. 平成18年度介護予防サポーター中級研修修了者に対する上級研修について

注 上級研修は中級研修修了者に通常、15時間程度の介護予防事業に携わることで認定しています。

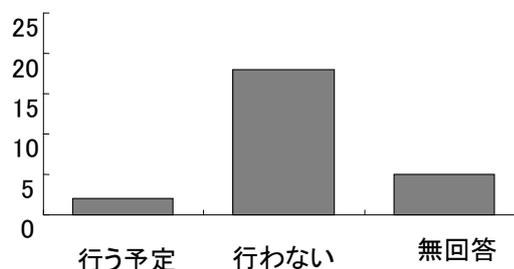
14) 「平成18年度の中級修了者に対して、現時点までに上級研修を行いましたか」

	回答数	パーセント
はい	9	25.0
いいえ	25	69.4
無回答	2	5.6
合計	36	100.0



「「いいえ」の市町村は、平成19年度中に上級研修を行う予定ですか」

	回答数	パーセント
行う予定	2	8.0
行わない	18	72.0
無回答	5	20.0
合計	25	100.0



※平成19年度末までに11市町村が上級研修を行う

「上級研修が遅れている、またはできない理由をお書き下さい」

介護予防事業の実施はされているが、これに併せた上級研修への取り組みは遅れている
現在のところ考えていない
研修実施せず
県より上級プログラムの明示があるとの事で静観していたが全く説明、連絡なし。そのため細かい規定等作成できず実施できていない。(規定15時間との事だが、30時間ではなかったか?)認定後の活躍の場の設定が進んでいない。
サポーターの人数が多すぎる。事業に携わるとはどの程度なのかなど(指導者?)市町村の指導力がないというか何をしたらいいのかわからない
実施方法が不明
上級研修の課程がわからず、何をもって上級修了とするか決めかねたため。今年度初めて中級研修を実施したため。
上級研修のはっきりとしたカリキュラムがわからず、開催するまでに至らなかった。
初級・中級の修了者が10人未満と数が少ないため。中級までの知識・技術を活用して活動してもらいたいため。
他町村を勉強させていただきます。
中級サポーターが介護予防事業にボランティアとして定着するか、又、どの様な活動が出来るのか見極めたかったから

平成 18 年度初・中級受講者のフォロー事業で手いっぱい
平成 20 年度に、筋トレ(鬼石モデル)の研修を実施予定
まだ中級修了者が少ない。プログラムが考えられない(メニュー案)があれば教えていただきたい。
マニュアルの提示を待っていました
未定の為が2市町村あり

上級研修をこれまでに実施した市町村は以下にお答え下さい。

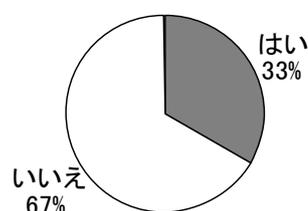
- 15) 「上級サポーター育成カリキュラムについてお尋ねします。どこでどんな事業(内容)に何時間程度関わっているのか具体的に記入して下さい。そして上級サポーターを育成するうえで、どの事業に力を入れているか記入をお願いします」

市町村	事業の種類	時間等	場所	総時間
前橋市	市通所型介護予防事業への参加	6	市内会場(7)	21
	オリエンテーション・スキルアップ研修	10	大胡地区農村環境改善センター	
	県介護予防イベントへの参加	5	県庁	
沼田市	合同筋トレ、筋トレ体力測定会(3, 7, 11月)	9	市保健福祉センター	12 プラス
	シニア体力アップステーション事業 いきいき筋トレ大会	未記入	市保健福祉センター	
	ワークショップ(地域別話し合い)	3	市保健福祉センター	
川場村	体力測定の実習 健康運動指導士を講師に一般 高齢者の介護予防教室で行う、体力測定の方法 を実習し高齢者と関わる上での注意事項を学ぶ	3	川場村保健センター	13
	介護予防教室へボランティアとして参加する。 一般高齢者介護予防教室 ①各地区集会所で行う「はつらつ教室」 ②保健センターで行う「にこにこ教室」への参加	4から8	川場村各地区集会所 川場村保健センター	
	グループ討議 川場村でやってみたい介護予防 事業という題で話し合い、グループごとに発表し、 全体で総括	2	川場村保健センター	
吉井町	特定高齢者施策 通所型介護予防教室	2	保健センター	6
	一般高齢者 通所型介護予防教室	2	保健センター	
	一般高齢者施策 地域介護予防教室	2	公民館	
六合村	特定高齢者通所型介護予防事業	12	保健センター	36
	いきいきサロン	24	各公民館	
藤岡市	筋力トレーニング	1	公会堂等	3
	ミニデイサービス	2	公会堂等	
邑楽町	筋力トレーニングを初級から上級まで説明及び実 践介護予防についての話	2	保健センター	2 プラス
	特定高齢者教室にサポーターとして参加(日程の あった人、平成19年10月~平成19年 12月)	未記入	保健センター	
草津町	一般高齢者施策「高齢者サロン」	週2回	草津町総合保健福祉センター	週2回
富岡市	包括で主催する各種教室や老人クラブの筋トレに スタッフとして参加する	6	集会場 公民館など	6

<b>力を入れている事業</b>
介護予防を目的した事業すべて(2件)
いきいきサロン
高齢者サロン(2回/W)実施
筋カトレーニング、ミニデイサービス
合同筋トレ、筋トレ体力測定会、シニア体力アップステーション事業、いきいき筋トレ大会で経験を積んだ上で、ワークショップに進むが、上級終了後のサポーターの自主的な活動を促すという点に置いてはワークショップで自分達に何が出来るか考えることが重要と考える。
介護予防教室へボランティアとして参加する。
一般高齢者 地域介護予防教室

16) 「上級研修の修了証を発行していますか？」

	回答数	パーセント
はい	3	33.3
いいえ	6	66.7
合計	9	100.0



「はいの場合、発行者は」 →市長を予定している、町長、村長の1件ずつ

「いいえの場合、理由は」

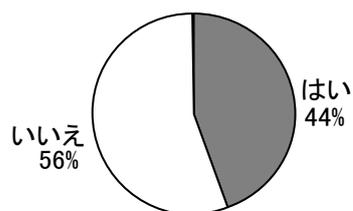
事業が修了していないため
上級研修としての位置づけがあいまいなため
上級との位置付けではなく実践編研修として実施中。今後検討。(Tシャツ作成)
特定高齢者教室にサポーターとして参加していただいた人に上級研修修了証の発行を考えているため
まだそのレベルまで達していないと思われるため。また、必ず発行するものとは思っていなかったため
ワークショップが未実施のため、実施後は名札タイプの修了証を発行したい

17) 「平成18年度の中級研修は何人で、そのうち何人がこれまでに上級研修を修了しましたか」

市町村名	中級修了者	平成18年度 上級修了者	平成19年度 上級修了者	上級修了者÷中級 パーセント
沼田市	81	0	49	60.4
前橋市	52	0	38	73.1
藤岡市	43		33	76.7
草津町	33	9	1	30.3
邑楽町	20		10	50.0
六合村	20	0	3	15.0
川場村	19		11	57.9
吉井町	17	15	研修中	88.2
富岡市	58	0	54	93.1

18) 「上級研修の運営は順調ですか」

	回答数	パーセント
はい	4	44.4
いいえ	5	55.6
合計	9	100.0



「いいえ（理由を記入）」

介護予防サポーターの役割が思っていたものとは違っていた…と途中で辞退する人もあり、行政と同じ認識ですめることは難しいと感じた

研修内容に不安がある

上級研修として位置づけていない

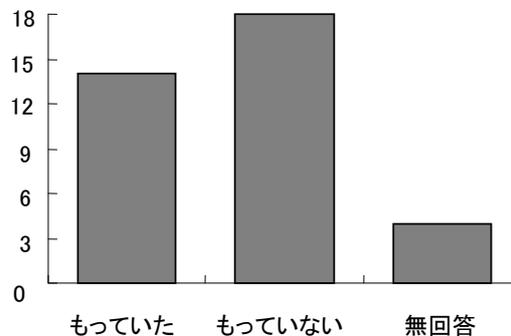
上級研修は日中の事業であり、また時間が長いので参加できない人が多い

全市町村がお答え下さい

### 3. 介護予防サポーター活用の現状について

19) 「1年前に介護予防サポーターをどのように育てれば良いかイメージをもっていましたか」

	回答数	パーセント
もっていた	14	38.9
もっていない	18	50.0
無回答	4	11.1
合計	36	100.0



20) 「平成18年度に育てた介護予防サポーター登録者のうち介護予防サポーターとして活動しているのは何人ですか」

※ 次ページ表参照

21) 「貴市町村では介護予防サポーターを何人育成すれば良いと考えていますか」

※ 次ページ表参照

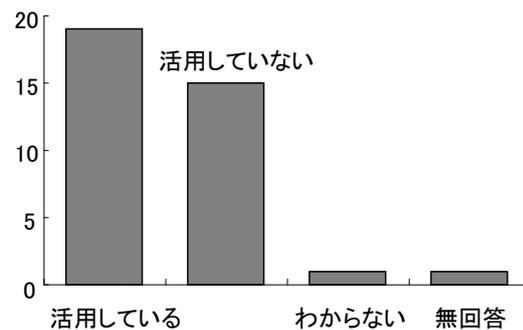
市町村名	中級 活動 中 人数	中級 不 活動 人数	中級 登録 人数	中級 活動 割合	上級 活動 中 人数	上級 不 活動 人数	上級 登録 人数	上級 活動 割合	中級何人 育成 すれば？	上級何人 育成 すれば？
下仁田町	研修 不可	研修 不可	研修 不可	研修 不可	研修 不可	研修 不可	研修 不可	研修 不可	30	10
太田市			33	不明			0	0%	わからない	わからない
みなかみ町		1	1	不明					わからない	わからない
富岡市	0			不明	0					
高崎市	不明	不明	不明	不明	0	0	0	0%	町内に 2~3人	町内に 1~2人
吉井町	15	2	17	88%	15	0	15	100%	わからない	わからない
沼田市	71	10	81	88%	0	0	0	0%	わからない	わからない
上野村	7	2	9	78%					30	15
藤岡市	33	10	43	77%					200	100
吉岡町	35	11	46	76%					わからない	わからない
甘楽町	3	1	4	75%					わからない	わからない
長野原町	30	17	47	64%	0	0		0%	わからない	わからない
川場村	11	8	19	58%					わからない	わからない
邑楽町	10	10	20	50%					わからない	わからない
桐生市	36	37	73	49%					50	
板倉町	4	5	9	44%					わからない	わからない
伊勢崎市	23	32	55	42%					わからない	わからない
みどり市	21	37	58	36%					300	100
草津町	9	24	33	27%	9	24	33	27%	80	40
高山村	10	43	53	19%						
千代田町	5	27	32	16%					わからない	わからない
六合村	3	17	20	15%					わからない	わからない
嬭恋村	1	10	11	9%					わからない	わからない
安中市	4	49	53	8%					わからない	わからない
大泉町	0	0	0	0%					わからない	わからない
神流町	0	14	14	0%					わからない	わからない
南牧村	0	22	22	0%	0	0	0	0%	22	22
前橋市	0	86	86	0%	38	48	38	44%	1000	420
榛東村			0	0%			0	0%	わからない	わからない
昭和村									4	
渋川市									わからない	わからない
玉村町									わからない	わからない
中之条町									わからない	わからない
東吾妻町									わからない	わからない
富士見村			0	0			0	0	わからない	わからない
明和町										

中級	市町村数
1000	1
300	1
200	1
80	1
50	1
30	2
22	1
4	1
町内に2～3人	1
わからない	23
無回答	3
合計	36

上級	市町村数
420	1
100	1
100	1
40	1
22	1
15	1
10	1
町内に1～2人	1
わからない	23
無回答	5
合計	36

22) 「平成18年度に登録された介護予防サポーターを活用していますか」

	回答数	パーセント
活用している	19	52.8
活用していない	15	41.7
わからない	1	2.8
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



介護予防サポーターをどのような事業に活用していますか」

一般高齢者対象の生きがい対応型サービスへ行ってもらい、実施に対して利用者のサポートをしてもらっている。平成19年度の介護予防サポーター研修のグループワークに参加してもらって現在の活動状況及び活動する上での課題を話してもらった
おたっしや会(地域支援事業)に活用
介護予防教室(特定高齢者対象)へのボランティア参加。ミニデイ教室参加
介護予防教室のスタッフ(打ち合わせの参加、受付、事業の参加、片づけ手伝い)
回想法サークル・特定高齢者介護予防教室
筋トレ教室、地域高齢者サロン
筋カトレーニング、ミニデイサービス
公民館での介護予防教室
高齢者筋カトレーニング、シルバー大学院
市一般高齢者施策。市の事業やイベントの参加。居住地域内での自主グループ等

上級コースの課程として合同筋トレ、筋トレ体力測定会、シニア体力アップステーション事業、いきいき筋トレ大会など市が主催する介護予防事業に参加、ボランティアとして協力。シニア体力アップステーション事業は12月から自主サークル事業へ移行したが、引き続き、サポーターに協力要請があり、21人が協力している
地区でサロンを実施するため、現在、会議勉強会を月に1回開催。特定高齢者通所事業に参加している。
直営事業のサポート。平成19年度はノルマにかさず、できる範囲の活動を依頼。個々の自主性に任せた
特定高齢者教室に参加していただく。包括支援センターで計画した教室を周知してもらう。
特定高齢者通所型介護予防事業
特定高齢者通所型介護予防事業、いきいきサロン
まずは、介護予防教室のボランティアとして手伝いをしてもらいながら、徐々に自主的な活動ができるように支援していきたい
来年度より、各地区の公民館を主な活動場所として、転倒骨折予防教室のお手伝いをしてもらう。(講師は在宅介護支援センター)

介護予防サポーターはどのように役だっていますか（具体的に）」

「元気高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を基本方針としており、お金をかけずに、介護予防をすることに役立っている
イベントでの県民への啓発。サポーター研修の運営補助。活動発表。自主グループの運営、支援
介護予防教室等介護予防のPR活動として役立っている
介護予防事業に参加することで自ら介護予防の必要性について意識を高められること
介護予防事業は男性参加者が少なく、男性サポーターにフォローしてもらった。盛り上げ役になってもらった
介護予防の重要性の理解と実践につながった
教室開催時の受付や準備、後片づけ等のお手伝い
教室で高齢者の相手や、受付や補助的なものをしていただいています
近所で集まれる場所を求めていた人達(高齢者)が多い地区で開催できることになり閉じこもり予防の一環となる
筋トレ教室でのリーダー的存在、他の参加者への(血圧測定などの)介助、重錘の持ち運び。地域高齢者サロンにおけるボランティア(お茶入れやゲームなどの際の準備、片づけ等)
筋力トレーニングでは、指導者として活躍。ミニデイサービスでは、主担当者の補助として、世話役を担っている
参加者のサポート、体操の実施時の声かけなど
事業実施に当たり、会場準備・後片づけ、体力測定の測定員等側面からのサポート
自主グループによる直営事業の自主的継続開催。自主グループによる地域住民の啓蒙活動。サロンでの活躍
自主的に参加し、参加者が協力して運営が円滑に実施できた
地域の高齢者に介護予防教室を紹介して、参加の声かけをしてくれた。介護予防教室へボランティアとして参加し、スタッフの手伝いをしてもらったり、一緒に活動しながら、皆と同じようにできないでいる高齢者をサポートしてくれている
認定者53人中2人ほど、介護予防教室等を企画(講師等については包括に相談)し、地域高齢者の介

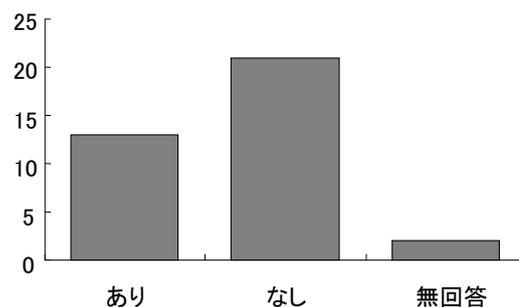
介護予防の普及啓発をしてくれている
まだ役立っているという実感はない。
慢性的な職員不足のフォロー、高齢者との親密なコミュニケーション

「介護予防サポーターを活用できない理由は何ですか」

介護予防サポーターの思いが町事業とはちがっているため、独自の活動をしているため。
介護予防事業は実施しているが、介護予防サポーターの活用への取り組みは遅れている。(実施方法の検討等)
活用について十分な検討対応ができないため。
研修を実施していないので修了者がいない。
社協の「ふれあいきいきサロン」を立ち上げている人も大勢いるが、予防事業を直営で行う場面が少なく、活躍の場が確保できていない面もある。
地域の中で自信をもって活動できるようにフォロー事業を実施中のため。
登録なし
人数も少なく、サポーターが活動できるサービスが少ない為。
平成18年度は、社会福祉協議会で支援しているふれあい、いきいきサロンのボランティアさんにサポーターとなっていただいた。各地区のサロン活動では、各自、活動していただいているが他の事業では特に活動していただけてはいない。
平成18年度は育成していないため
平成18年度はボランティアとケアマネ・ヘルパーが受講。いきいきサロンなどで活躍しています。平成19年度はミニデイで平成19年度受講者とケアマネ・ヘルパーが体操・口腔ケアなど行っています。
平成19年度上級研修を受けてもらい、平成20年度から各地区で行う体操教室で活動してもらう予定
平成19年度にスキルアップ研修を行い具体的な活動について検討していく予定。
養成人数が少ないため。活動してもらう行事を想定できないため。

23) 「サポーターからこんな活動をしたいという申し出や希望がありますか」

	回答数	パーセント
あり	13	36.1
なし	21	58.3
無回答	2	5.6
合計	36	100.0



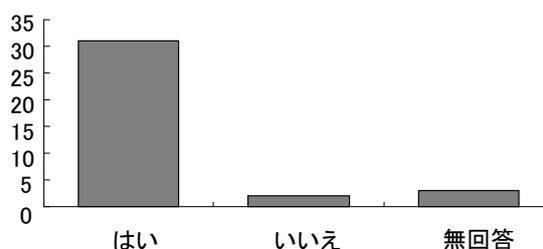
「どんな活動をしたいと希望していますか」

各地区で高齢者サロン(筋力アップ体操が主の)
高齢者の話し相手。認知症の介護をしている家族の話し相手。

サロンの立ち上げ。地域でのボランティア
自分達の住む身近な地区の集会所で、閉じこもりがちな高齢者を誘い出してサロンのような気軽に出ていける集まりならば自分達にもできそうとの意見がでている。
自分の地域の人をあつめ、サロン的な活動をしたい。
自分の得意分野を生かした集まりをつくりたい。(園芸の会など)自分の地区で筋力トレーニングを始めたい。運動教室のお手伝いがしたい。
スキルアップ研修
地区の公民館等に集まり、体操や料理を実施し、自分自身の健康を高め、地域に広めたい。
昼食サービスをしたい。血圧計測。行政からの保健についての講話など。
閉じこもり高齢者の社会参加の支援
一人暮らしの家や閉じこもりの家を訪問したいという希望があった。
もっと地区活動をしたい。
養成研修の中でのグループワークの中で、町への事業への協力等の意見あり。

24) 「自主グループに育てたいと考えていますか」

	回答数	パーセント
はい	31	86.1
いいえ	2	5.6
無回答	3	8.3
合計	36	100.0



「はいの場合、育てるならどのような支援が必要と考えますか」

活動できる場への情報提供。定期的に知識を高めるための講演会等研修会を開催する。又、状況を聞く
活動内容の提案、情報提供、フォローアップ研修の実施
活動内容を明確に説明すること
企画や運営に関する研修。介護予防の研修(これは繰り返し)。 地域関係者等への周知、協力依頼。相談(窓口)体制。
グループのリーダーとなる人材の発掘・育成
継続した勉強会で知識や技術をしっかり身につけることが大切に思う。なかなかリーダーとして活躍することは難しい
検討中
最初は行政から働きかけ、組織化し、その後自主的に活動してもらう。
サポーター自身の介護予防を行いながら、地域にも貢献できる様な学習の継続。活動機会をつくり、協力参加を要請する。他市町村のサポーターとの交流により活動意欲の向上
サポーターだけに負担がかからないように地域リーダー者(区長、長寿会長、民生委員等)の協力体制もとる

サポーターの存在を地区の民生委員や区の役員等にPR、サポーター同志の交流が 続くように情報提供する
事業の一つとして地域支援事業の中に位置づける予算化。報酬費などの検討、団体としての組織化の検討
自主グループ立ち上げ時の相談・アドバイスなど。基本的にも上級を修了したら、行政の手を離れて各地域の特性に合わせて独自の活動を展開して欲しい
自主的な活動を継続していくための意識づけ
上司は育てたいと言っていますが、グループリーダーを決めてグループとしてやっていけるかと考えると…。いいえです
消耗品の提供、備品の貸与、場所の確保等
スキルアップ研修や活動に対する助言など
そこまで考えつかない。どの様な支援があれば育つのか分からず困っています。自主グループとして活動していけそうな所は活動的な人も多く、要望も多いので行政は入りやすい。一方活動に温度差があり、発言しない人のいる地区は開催まで至らない
組織づくりのノウハウを伝える。活動の場所を提供する。活動を支援する助言者を提供する。
他地区の事例の紹介。スキルアップ研修。(実践的な内容・・・運動方法などの指導)
地域でのネットワークづくりの方法、社会資源のつなげ方、などのノウハウの支援が必要と考える
地域包括支援センターの実施する事業等への協力を依頼するにあたり、定期的な学習の場を設ける
物的支援、財政支援、技術的支援、事務局としての後方支援
リーダーの育成とグループとして活動する為の事務局的な支援

25) 「貴市町村では、介護予防サポーター活動を広く周知し、地域での受け皿を広げるためどのような広報活動を行っていますか」

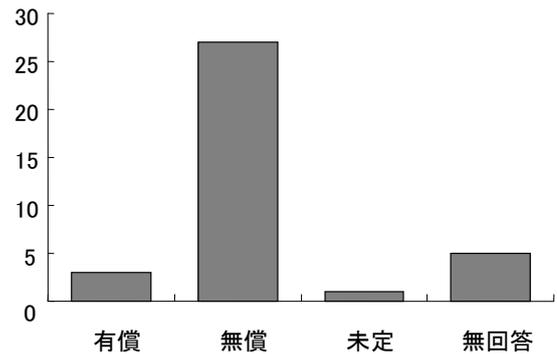
ケーブルテレビで介護予防サポーター養成研修の様子を流し、村民に知ってもらう。広報誌に研修参加者募集を載せる際、サポーター活動の趣旨も説明する。文章にする
ボランティア育成研修
介護予防サポーターサークル発足記念事業として「地域に拓げる筋トレの輪」と題し浅川先生の講演会を予定
筋トレ活動やボランティア活動への参加を促したい
現在は行っていないが、上級修了に合わせて検討していきたい
広報(町報紙へ掲載)。口コミ
広報に特集をのせてもらうよう検討中
広報誌で事業報告、ボランティア証の発行
広報誌等で養成講座の開催を通知している
今後民生委員等にPR予定
自主グループ立ち上げの広報を行い、興味を示した人や活動しはじめた人にサポーター研修受講を勧める。他の研修会などでチラシを配付。サポーターがTシャツを着て活動をPR
町の広報で周知
町の広報にサポーター活動を紹介。サポーター独自で定期的なサロン開催をはじめた所なので、来年、上毛新聞を呼んで 記事にしてもらおうと思っています
募集時しか周知していない。

本人の意向確認後、平成18年、19年サポーター養成を地区ごとに区長へ通知。中級サポーターには、修了証をもち、地区の区長、民生委員へのあいさつを依頼
中級研修以降、行っていない
行っていない(10件)
無回答(10)

n = 36

26) 「現在、ボランティアへの報酬は」

	回答数	パーセント
有償	3	8.3
無償	27	75.0
未定	1	2.8
無回答	5	13.9
合計	36	100.0



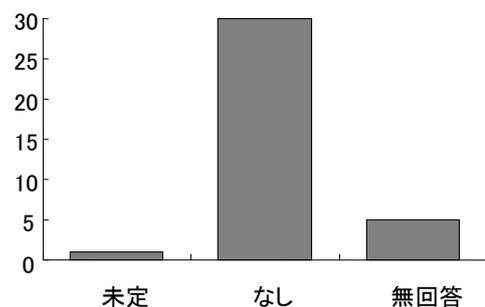
「有償の場合はその額をお書き下さい」

市町村名	報酬単位	報酬金額
藤岡市	月給	1,000
	日給	800
草津町	日給(2時間半)	2,000
高山村	1回参加	200

36市町村中、3市町村が有償である(8.3%)

27) 「食費の支給」

	回答数	パーセント
未定	1	2.8
なし	30	83.3
無回答	5	13.9
合計	36	100.0

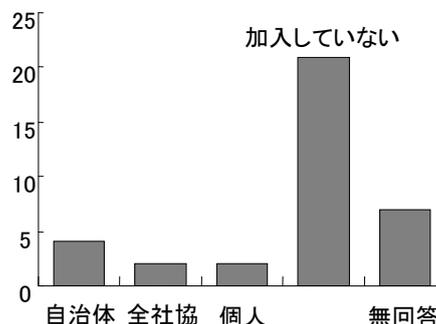


※ 1市町村のみ「場合によって」支給している

28) 「交通費の支給」 →どこの市町村も行っていない

29) 「ボランティア保険の加入状況について記入をお願いします」

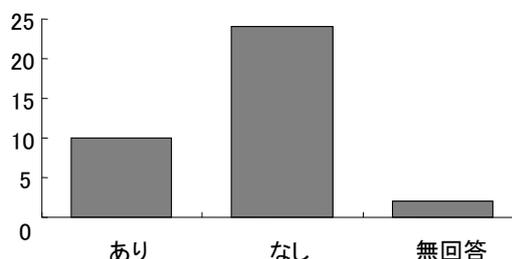
	回答数	パーセント
加入 自治体	4	11.1
全社協	2	5.6
個人	2	5.6
加入していない	21	58.3
無回答	7	19.4
合計	36	100.0



保険の補償額	回答数	パーセント
被保険者 入院7000円、通院4500円	3	37.5
無回答	5	62.5
合計	8	100.0

30) 「介護予防サポーターを中心としたサロン活動を実施していますか」

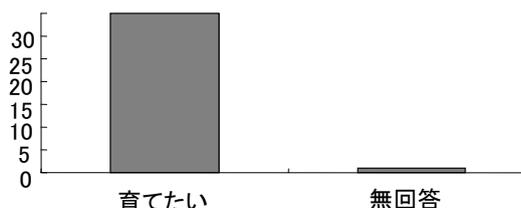
	回答数	パーセント
あり	10	27.8
なし	24	66.7
無回答	2	5.6
合計	36	100.0



サロンの管理が社協のため詳細は不明
ピンシャ元気体操
会場の設営、参加者のサポート
筋トレ(鬼石モデル)を中心とした介護予防を予定
軽体操を中心におしゃべりなどを行う
高齢者サロンとして2回/週
社協のいきいきサロン
地区公民館で隔週(火曜)に筋力アップ体操、レクリエーションを行います
昼食やおやつを談話しながらいただく
町内各地区において、高齢者を集めてサロンを開催。平成18年度はふれあいいきいきサロンのボランティアさんにサポーターとなっていた
民生委員が中心となりサポーターは協力する形をとっている
無回答(25件)

31) 「今後、介護予防サポーターを育てていく考えはありますか」

	回答数	パーセント
育てたい	35	97.2
無回答	1	2.8
合計	36	100.0



介護予防サポーターを育てたい理由
すでに各地区で実施されている「いきいきサロン」等での活動に介護予防知識を活用していただける。今後特定高齢者の介護予防プログラム終了後のサポートをお願いできたらと考慮中
ボランティアも高齢化しているため若いサポーターを育てたい
より住民に近いところで多くのサポーターの方に活動していただきたい。増加する高齢者に対応するには、もっと多くのサポーターと理解者、協力者が必要である
より多くの人に介護予防の知識や技術を身につけてもらいたいため
育てるというのではなく、広く周知していくことが、優先であると思っています
介護予防サポーターが各地域に根付いて、介護予防の地域づくりが推進されることにより、住民と行政の協働の実践の場として、介護予防以外の波及効果も期待できる
介護予防サポーターとしての活動がその人自身の介護予防策になると思うから。具体的な活動を通じて介護予防の理念が周知されると考えるから
介護予防に関する知識をもったボランティアの存在は今後の介護予防事業展開に大きな助けとなると考えます
介護予防の実施に有効と思われるため
各地区のサロンを中心となって伝える様にしたい
筋力トレーニング、ミニデイサービスを全地区に拡充していくためには、サポーターがさらに必要と思われるため
現状を考えると数を増やすよりも、定期的に研修など支援を続け、町の事業協力を図りたい。地域支援事業の中での位置づけを明確にしていきたい
広域支援センターを存続してもらい、サポーター養成や町の介護予防事業への協力をお願いしたい
行政が行う介護予防教室のサポートをしてもらいたいし、住民の身近な場所でのサロンの活動で介護予防を普及できたらと思う
行政が行う教室での体操と地域住民主体で行う体操教室(サロン)は参加する人の気持ち、取り組み態度・姿勢が違うと思いました。行政主体だと「呼ばれたから来た」、住民主体だと「体操したくて、皆に会いたくて来た」といった感じに・・・。「介護にならないよう、元気で楽しく体操しよう」という気持ちを持って活動してくれる住民がいると言うことは、私達にとってとても心強い存在ということがサロンを始めて分かりました
行政の取り組みには限界がある。地域住民主体の活動の中心になってもらいたい
高齢化も進み、地域で高齢者を見守って行く事が必要になってきた。そのため多くの人にサポーターとなってもらい、知識を身につけ、地域で高齢者を支えてほしい
高齢者が自立して尊厳を保ちながら安心して暮らせる地域社会を創るには、元気高齢者が最大の人材であり、元気高齢者が「真の自立支援」「介護予防」「安心して暮らせる地域づくり」を理解し、

活動の中心となり、介護予防に取り組むことは重要なので
事業等で活用
自分の介護予防を含めて地域全体に広めてほしい。団塊の世代が リタイアし、長年培った経験やノウハウを介護予防活動などの地域での活動に生かし、元気な高齢者をつくり、介護や医療費の軽減を図りたい
住民の意識が変わると思うので
住民主導型の介護予防事業を広めていきたいため
人数が少ないため、一人に負担がかかり、活動が始まらないため地域に複数のサポーターが必要と考えている
地域で高齢者を元気にして欲しいので、そのためには何が必要か、勉強する場があってもいいと思います
平成18年度に実施できなかったのが平成19年度に実施中です
平成20年度から本格的に介護予防サポーターが活動できる場を提供していくため
誘い出すには仲間が一番と思う
無回答

「「1 育てたい」と答えた方は、今後の予算や運営をどのように考えていますか」

	回答数	パーセント
現行通り県に予算を組んでもらい広支センターと協力しながら実施	27	75.0
市町村独自で予算を組んでも実施	4	11.1
桜美林大学と共催で実施	1	2.8
町で予算を組んで実施するにしても広域リハを存続してもらい、講師派遣等を依頼したい。	1	2.8
無回答	3	8.3
合計	36	100.0

32) 「介護予防サポーター活動に関わるうえで、市町村担当職員のかかえる課題がありましたらお願いします」の回答

4月から月1回勉強会、会議を行い、活動内容を検討していきましたが（どこかにも書きましたが）地区により温度差があり、会議なども活動している地区ばかりが主体となってしまうような内容になってきて しまっています。発言や要望の多い地区には入りやすいが、それ以外の地区や人数の少ない地区はどの様に接してよいか悩んでいます。良い案教えて下さい
サポーターの一部の方の「やる気」は感じるがそれを上手に活動に結びつけることができない
サポーターの養成をどのように行えば良いか手探り状態。アンケートの 内容を教えて下さい
スタッフの不足

どのラインで上級修了とするのか。修了した人を今後はどのように活動してもらおうか。初めてのことであり、すべて手探り状態。ボランティアを基本とするので、どの程度お願いしてよいか。自主的にやってもらえるか、お願いする立場なので言いにくい
介護保険事務(資格管理や認定作業等)と兼任のため、サポーター養成に一定の時間や人数を振り当てる事ができない。養成には他団体のマンパワーの協力をもらったり、サポーター自身に自立して活動してもらえるようかかわりたい
介護予防サポーターの方の活躍する場をあまり提供できない
介護予防の内容は幅広いが専門的に考えると普及しづらいですし、かといってあまり簡単に行っても質が低下するのではないかという恐れがあるので、普及の仕方が難しいと思う
介護予防担当がはっきりしないままの平成18年度のスタートで介護予防サポーター養成は平成18・19年度認識しないまま過ぎてしまいました。包括支援センター業務の中ではまだまだ介護予防プラン作成や既成事業に追われ、新事業に手をつける余裕がない状態です
活動の場の提供と拡大
活用したいがスキルアップの研修をなかなか行えない。サポーター養成研修が自分のための研修になっていて、ボランティア活動までなかなか結びつかない人もいます。活動の場の提供ができない
関わりをもつのは主が保健師。一人ではどうにもならない
継続性の確保
現在実施中のため、今後は出て来るかもしれませんが、まだ未知の状態です
広域支援センターとの連携が成功につながっている。(役割分担がしっかりできている)今後も予算と人的支援をお願いします。これが足りない
今後、サポーターが増える程、事務量も増え、管理も難しくなってくると 思います。報酬についての判断が難しいので、ある程度の目安を県で示していただけるとありがたいです
自主的な活動ができるようになるには行政が関わっていかなくてはならないと思うが、「やらされている」のではなく、自分達の自主的な活動としての意識を持ってもらうにはどうしたら良いか
自分の知識を得るために研修を目的にしている方が多く、ボランティア 活動を目的にしている人は少ない
受講者に温度差がある。現況サロンと共存しサポーターが地域に根をはれるようにするにはどうしたらよいか。協議会の立ち上げに関する県の協力体制。上級課程の明示がない。早急に提示してほしい
小規模村では担当職員が1~2名という状態なので広域支援センターと協力していきたいがそのメンバーの中で実際働ける人材が限られている。日頃、それぞれ自分の仕事を持ちながら、サポーター養成に関わるのに負担もあるのではないかと
他の業務におわれ、介護予防サポーターの育成・活用への十分な検討対応ができない
担当部署が複数にわたるため連絡調整に時間がかかる。サポーターに活動してほしいのだが、地区組織を育てた経験が少なく、どこから手をつけたらよいのかとまどっている
男性ボランティアや若年層ボランティアの開拓
認知度が低いためか、平成19年度は研修の応募者が激減してしまったので、もっと広く周知できるように方法を検討したい。今後サポーターがどの程度まで自主的に活動できるかが未知数であるが、できるだけモチベーションを維持できる方策を検討したい
養成研修が終わって自主活動へ進めるにはある程度、企画・立案・予算面で行政が介入しないと難しい。有償化も定着する一つの手段。特定高齢者の元気アップスクールでは体力測定などご協力を頂き助かっている
無回答(11件)

## ＜市町村介護予防サポーター育成担当者アンケートのまとめと考察＞

群馬県内 38 市町村中 36 市町村から回答を得た。市町村の介護予防サポーター育成担当者によると、初・中級研修を任せている広域支援センターとの連携や役割分担が「良い」と答えている市町村は 60%であった。市町村からみると、80%の広域支援センターが介護予防サポーター育成に対する市町村の意向を把握できていた。平成 18 年度の初・中級研修は 50%が市町村の意向に沿った研修が行えた。初・中級研修に使用した教材は 83%が適切と受け止めており、介護予防サポーター制度は介護予防の推進に「やや役立つ」と回答をした育成担当者が多かった。

研修の問題点として初級は内容が盛りだくさんすぎる、研修内容は介護予防のガイドラインのみとし、ボランティアとしての心構えや役割も盛り込んで欲しいという意見があった。中級の改善点は実技を主体とし、認知症サポーターの養成も考慮して欲しいという提言があった。

上級研修は平成 19 年度までに 11 市町村で行われている。すでに 3 市町村が修了証の発行者を自治体の長と決めており、介護予防事業が市町村独自の活動として進められている。上級研修を行っていない市町村の中には県の指示やマニュアルが出るのを待っていたり、初・中級受講者のフォロー事業で手一杯だったり、市町村と県との間で介護予防サポーター育成についての行き違いが推察される。上級研修は介護予防事業のサポート活動が多かった。上級研修に何をとり入れるかが介護予防サポーターの方向性を決める。本来市町村の独自性をだすべき上級研修の運営が、50%近くの市町村でうまくいっていない。市町村独自のプログラムなので市町村の体制や職員の意向などに大きく左右される点が問題であろう。

育てたサポーターについて、52.8%の市町村は平成 18 年度に登録された介護予防サポーターを活用している。特定高齢者介護予防教室、筋トレ教室、サロン活動などのサポート役として活躍してもらっている。介護予防サポーター活動は、現状では費用削減、人手不足の補助、高齢者とのコミュニケーションや介護予防の PR に役立っている。先駆的な市町村では介護予防サポーターが介護予防教室の企画に参加し始めている。しかし、現状では介護予防サポーターを活用できない市町村が 42%あり、理由として活動の場がない、活動の場が作れない、既存の事業にどのように介護予防を組み入れるか検討が不足していると答えている。しかし、自主グループに育てたいと考えている市町村は 97%にのぼった。介護予防サポーターを中心としたサロン活動を実施している市町村は 10 あった。

介護予防サポーターとしての活動内容に関して、36%の市町村がサポーターから申し出や希望を受けていた。サロン活動や高齢者の話し相手、サポーターの得意分野を生かしたサークル活動、筋トレや昼食サービス、閉じこもりの支援等があげられている。

報酬に関しては、75%の市町村が介護予防サポーターには無償で活動してもらっている。ボランティア保険も自治体での加入は 4 市町村しかなく、個人での保険加入の情報提供をしていない市町村は 58%だった。

今後、介護予防サポーターを育成するにあたっては、平成 18・19 年度に各市町村で育てた介護予防サポーターの様子を参考に、市町村が介護予防サポーターをどのように活用したいか、そして介護予防サポーターがどのように活動したいか、両者の意見をすりあわせて住民主導の介護予防に取り組むことが望まれる。市町村担当職員のリーダーシップは必要であるが、住民の生活のなかでの介護予防、住民の介護予防に関する要望を探り、住民の意向に沿った住民主導の介護予防が望まれる。今までとは異なるスタンスで、各市町村に合った介護予防サポーターを育てることが大切であろう。

## Ⅶ. 介護予防従事者研修会における調査概要報告と事例発表

日 時：平成20年3月4日（火）16：00～17：00

場 所：群馬産業技術センター 多目的ホール

群馬県下の市町村より地域包括支援センター関係者等が集まった介護予防従事者研修会において、介護予防サポーター育成事業のアンケート調査結果の報告及び介護予防サポーター活用事例の報告を行い、各市町村が育成した介護予防サポーターを活用するよう促した。

### 1. 「介護予防サポーターアンケート結果の報告」

群馬大学医学部保健学科 山口 晴保 先生

市町村と中級サポーターを対象とした部分のアンケート結果概要を解説した。上級研修を実施している市町村が少ないことや、介護予防サポーターの約4割は、活動したいが活動の場がないことを報告した。

### 2. 「上級サポーター活動事例報告」

①前橋市介護高齢福祉課

北原 絹代理学療法士

②吉井町地域包括支援センター

東 千尋主任

③草津町地域包括支援センター

干川 なつみ課長補佐

④桐生市高齢福祉課

松浦 節子主任

⑤吉岡町健康福祉課

永井 勇一郎主任

介護予防サポーターを活用している市町村のうち、5市町村に具体的な活用事例を紹介してもらった。



県内の介護予防事業担当者を集めての介護予防サポーター活用事例発表の様子

# 事例 1 前橋市介護予防サポーター

前橋市役所介護高齢福祉課 理学療法士 北原 絹代  
作業療法士 荒木 祐美

前橋市では、介護予防サポーター育成を H17 年度から実施している。前橋市における介護予防サポーター育成研修の流れと実績報告、現在までの介護予防サポーターの活動、今後の課題と方針について報告する。

## I. 前橋市介護予防サポーター育成研修の流れ・実績報告

前橋市の介護予防サポーター育成研修は、初級研修、中級研修終了後、前橋市の介護予防事業の参加・見学といった実践研修を上級研修として位置づけている。実際には、通所型介護予防事業「ピンシャン！元気塾」への参加（2回）、介護予防自主グループへの参加・見学（1回）を実施し、終了後、反省会を行っている。この上級研修の意義は、初級・中級で得た知識・実技を実際の教室やサロンの中で参加者とともに体験し、参加者への接し方や運営上の工夫などを学び、サポーターとしての関わりを各自で考えることにある。この上級研修を修了し、「今後、サポーターとして活動していく」意思のある方が、前橋市介護予防サポーター（上級サポーター）として登録している。サポーター登録の際、活動を①居住地域内②前橋市内全域に分け、活動範囲を選択できる仕組みになっている。①居住地域内の活動とは、自主グループ立ち上げや既存のサロンなどでの介護予防プログラムの導入などであり、②前橋市内全域での活動は、他地域での自主グループの立ち上げ支援や介護予防イベントへの参加、介護予防関連研修会（介護予防サポーター育成研修など）の運営補助等である。現在までの介護予防サポーター登録者は、38名である（表1）。

表1. 介護予防サポーター育成実績 (名)

	H17年度	H18年度	H19年度	計
初級修了者	116	69	86	271
中級修了者	34	52	71	157
上級（登録者）	19	19	*	38

\*現在、実践研修中

## II. 介護予防サポーターとしての活動

介護予防サポーターの活動は、前述のとおり、サポーターが自主的に行う居住地域内の活動と、市が出動を要請したり、希望者を募って行う、市内全域での活動とに分けられる。

①居住地域内の活動として、H17年度芳賀地区の修了者は、「筋トレ芳賀」といった自主グループを立ち上げて月2回運動を実施している他、地域の閉じこもり予防の教室であるいきいき長生き教室の支援や、いきいきふれあいサロンの運営などを行っている。また、H18年度大胡地区の修了者は、「大胡介護予防・心の健康部会」として、月2回、運動改善や栄養改善・口腔機能向上のより実践的な方法についての習得を目指した研修を実施し、今春からの一般地域住民の受け入れに向けて準備を進めている。その他、地域の方の集まる場の提供をしたり、既存の居住地域のサロンで介護予防の体操を始めたりと、サポーターが発起人となって運営されている自主グループは、現在全市で5か所となっている。

これらの活動は、地域の実情や、サポーター・地域住民の希望に合わせ、内容や運営方法もサポーター

ーが自ら考え、実行している。市は、アドバイザー役として、内容や運営についての相談、体力測定や講話での出動などで関わっている。

②前橋市内全域の活動としては、H19年10月に県庁で行われた「華麗に加齢フェスタ」に、前橋市として出展し、前橋市の介護予防の取り組みについての広報、前橋市オリジナルの介護予防体操『ピンシャン！元気体操』の紹介、豆腐を使った団子の試食提供などを行い、県民に向けて介護予防の普及啓発を行った。また、H19年度の介護予防サポーター養成研修では、運営協力として、会場設営や受付、グループワークの進行役などの役割を担った。その他、小山市「ふれあいいきいき運営委員会」との情報交換会では、前橋市の介護予防をPRするとともに、他市の現状を知り、自分たちの活動を見直す機会を持つことが出来た。

これらの事業はすべて、市と地域リハ広域支援センターが協力して行っており、随時話し合いを行った上で、企画・実行している。

### Ⅲ. 今後の課題と方針

特定高齢者施策の参加者数が伸びず、全国的に苦戦している中、一般高齢者を対象とした一次予防をいかに広められるかが、介護予防事業の効果を大きく左右すると言える。そのためには、地域の力が不可欠となる。

前橋市では、サポーターの活動を一般高齢者施策の中に位置づけ、市が形を押し付けるのではなく、地域で必要とされていること、できることは何かを住民（サポーター）自らが考え、気付き、実行することを目標に事業を進めてきた。まずはひとつの地域にたくさんのサポーターを育てて、その地域の介護予防を充実および自立させ、介護予防のモデル地区を作ることが重要と考え、H17・18年度は地域を限定してサポーター研修受講者を募集した。その結果、モデル地区の先進例を見て、他地区でもサポーター以外の一般市民が自主グループを立ち上げ、その発起人がサポーター研修を受けるという逆の流れも生まれてきた。今後も現在の方向性を守りながら、地域の同志が少なく自主的な活動が思うようにできない、あるいは自主活動には自信がないが指示があれば動きたいというサポーターのために、市からの要請で他地区の自主グループ支援等に出動する機会を増やすなど、活動の選択肢を広げていきたい。

また、活動の幅を広げるためには、上級研修等のフォローアップが重要となる。今年度まで、上級研修は中級終了後の実践研修のみであり、その後のイベントや研修などへの出動、情報交換会等をスキルアップ研修の代替として位置づけていたが、実際に自主活動を始めると、このやり方でいいのかという不安、参加者を惹きつけるようないろいろなアクティビティを身につけたいという希望など、さまざまな意見が聞かれ、これまではそのような訴えに対し、各グループに個々に対応してきた。H20年度からは、各種の正式なスキルアップ研修を開催し、自分に必要と思われる研修を選択して受けられる形をつくるとともに、研修の受講状況や活動の状況を記録することで、個々のサポーター活動を評価できるような態勢を整えたいと考えている。

今後も、前橋市内の多くの地域が、地域住民の力でもっと元気になるように、介護予防を支える人たちの育成に力を注いでいきたい。



## 事例 2 吉井町介護予防サポーター活動報告（H18 年度）

吉井町役場 福祉課（福祉高齢係）  
吉井町地域包括支援センター

### I 吉井町における介護予防サポーター養成の目的

#### 1. 介護予防事業の地域展開

介護予防事業については、吉井町では平成 15 年度から 3 年間保健総合センターで高齢者の筋力向上トレーニング事業を実施し、129 名の参加者があった。この事業では、要介護状態となるおそれの高いハイリスク層を対象に実施し、心身状態や生活状況の維持を図ることができた。

しかし、高齢者の心身や生活は、加齢に伴い生理的に低下していくことから、継続的な介護予防事業への参加が必要となり、その結果事業を修了できず、年々参加者人数が増加してしまう状況であった。また、ハイリスク層ではないポピュレーション層へのアプローチがないため、高齢者全体に対しての介護予防の取り組みが不十分といった課題があった。

そこで、ハイリスク層の介護予防事業参加後の自主的な介護予防実践の場の設定と、ポピュレーション層に対する介護予防の展開を目指し、地域での介護予防推進に取り組んで行く必要があると考え、平成 18 年度より一般高齢者施策として地域介護予防事業「らくらく体操会」を開始した。

#### 【参考】らくらく体操会について

目的：住民が気軽に集まれる場所で交流の機会を設けることで、高齢者の身体・精神・社会生活機能を維持し、要介護状態への移行を予防する。

対象者：実態把握等により介護予防が必要と判断された人（約 15 名）

内容：ストレッチ体操・筋力トレーニング・お茶飲み（座談） 月 2 回 午後 1:30～3:00 頃

実施場所：地区公民館（H18 年度は 1 か所）

スタッフ：社協職員 2 名（吉井町社会福祉協議会へ委託）

#### 2. 介護予防サポーターの役割

高齢期の自立した生活を送るために必要な介護予防に関する知識・技術を習得し、自ら実践するだけでなく、介護予防活動を地域で展開させることができる介護予防活動リーダーの役割を担う。

具体的な目標としては、地域介護予防事業「らくらく体操」をサポーターが中心となって実施する自主的活動に発展させることとした。

### II 介護予防サポーター養成研修の状況

#### 【吉井町介護予防サポーター養成状況】

	H18 年度	H19 年度
対象者	モデル地区として「らくらく体操会」実施地区の長寿会を選定（川内北・川内南・本町中央）	4 地区の長寿会を選定（かじ町・塩川・小串・東吉井）
初級修了者(人)	25	46
中級修了者(人)	17	46
上級修了者(人)	15	(現在研修中)

初級・中級研修終了後の上級研修は、①体力測定と②町で実施している介護予防教室（3か所）の見学実習の実践的研修を行うこととした。

①体力測定は、膝伸展筋力・握力・開眼片足立ち・ファンクショナルリーチ・10m歩行速度・Time Up Go testの6項目を行い、結果をグラフにしてサポーターに返却。

②介護予防教室の見学実習は、特定高齢者施策「生活らくらくクラブ」・一般高齢者施策「生活らくらくクラブα」「らくらく体操会」の3つの教室にそれぞれ1回ずつ参加。参加者と共に体験することで、サポーターが介護予防活動のイメージをもてることを目標とした。

上級研修修了者には吉井町介護予防サポーター認定証（名刺サイズ）を交付した。

### Ⅲ 介護予防サポーターの活動状況

「らくらく体操会」をサポーターが中心となって行う自主的活動に発展させることをサポーター活動の目標としていたため、H18年度上級研修終了者はH19年7月より「らくらく体操会」に参加し、サポーターとしての活動を開始した。（5名ずつのグループに分かれて交替で参加）

まずは、教室の流れを把握することを目標とし、スタッフと一緒に教室の運営を行った。10月に中間評価のためサポーター全員を集めて運営会議を開催し、今後の活動について話し合いの機会を設けた。その中で、公民館の鍵の管理や会場の管理等サポーターができることはサポーターが行うようにしながら、サポーターが中心となって教室を運営できるように経験を積んでいきたいという方向性が出された、現在取り組んでいるところである。3月中旬に再度運営会議を行い、4月からはサポーターと参加者で教室を運営していく予定である。

### Ⅳ 今後の課題と方針

H18年度は成功例を作るためモデル地区として1地区の長寿会を選定し、H19年度は第2のモデル地区として4地区の長寿会を選定して参加者を募った。最終目標としては地域介護予防事業「らくらく体操会」を全町に広め、地域の介護予防を充実させるため、平成20年度からは一般公募を行う予定である。

サポーター養成研修に参加する前は、「行政が主体でやってくれれば手伝う」「私だって介護される側だから」と受動的であったが、研修の過程で参加者の喜ぶ顔や声を目の当たりにし、それが励みとなって少しずつ自主性が育ちつつある。H18年度養成サポーターの活動をH19年度養成サポーターが見学し、自主的に活動を計画し始めた地区も出てきている。わなげやカラオケ、レクリエーション等の活動を取り入れたらどうか等、内容の工夫に関する意見も聞かれるようになり、サポーターが自ら活動について考える姿勢も見られ始めた。一つのモデル地区の活動が、他のサポーターの興味や自主性に影響を与える効果は大きいと実感している。

活動は始まったばかりであり、今後地域に波及できるか、長期的に継続できるかが最大の課題と思われる。介護予防が地域にしっかりと根付くよう、サポーターをはじめとする地域住民と連携をとりながら支援態勢を検討していかなければならないと考えている。

## 事例3 草津町介護予防サポーターの活動

### <平成18年度>

#### 1) 介護予防サポーター養成（草津町：総合保健福祉センター）

平成18年	9月26日（火）	初級	82人（内草津	38人）
	10月 3日（火）	中級①	51人（内草津	24人）
	10月 6日（金）	中級②	52人（内草津	26人）
	10月11日（水）	中級③	53人（内草津	26人）

#### 2) 介護予防サポーター認定状況

33人

#### 3) 介護予防サポーターフォローアップ研修①②（初級・中級修了者）

平成18年11月22日（水） 参加 12人

12月18日（月） 参加 11人

講師：吾妻地域リハ広域支援センター 理学療法士

内容：ストレッチング・筋トレ運動

健康体操

#### 4) 活動状況（上級）

##### ①高齢者サロン（平成18年度 1月～3月実施）

目的： 運動機能低下を防ぐための筋力トレーニングを中心に行う。

楽しく集まり交流できる場所として、また閉じこもり・孤独化を防止するため、週1～2回の外出を習慣化する。週2回（火・木）実施。

実施回数： 23回

参加者： 実 29人（男6人・女23人）、述べ 321人

サポーター： 実 9人（男1人・女8人）、述べ 34人

担当： 介護予防サポーター、包括（保健師・主任ケアマネ）、社協職員

	スケジュール
9:30	血圧測定・健康チェック
10:00	筋力向上トレーニング
（お茶）	（×2回）
11:00	歌と踊り
	手指の体操



### <平成19年度>

#### 1) 介護予防サポーター養成（於：長野原町）

平成19年	7月19日（木）	初級
	7月25日（水）	中級①
	7月30日（月）	中級②
	8月 6日（月）	中級③

\*町から10名参加

2) 介護予防サポーター認定状況

7人

3) 介護予防サポーターフォローアップ研修①② (草津町総合保健福祉センター)

平成19年 8月28日(火) 22人

8月31日(金) 21人

講師：吾妻地域リハ広域支援センター 理学療法士

内容：筋コンディショニング

障害を持つ者へのトレーニング

トレーニングの基礎知識

疾患別メニュー編

4) 活動状況(上級)

①高齢者サロン (平成19年度 平成19年4月～平成20年1月現在)

実施回数： 81回

参加者：実 28人(男8人・女20人)、述べ 751人

サポーター：実 10人(男1人・女9人)、述べ 129人

担当：介護予防サポーター、包括(保健師・主任ケアマネ)

②高齢者サロン 出前講座(南本町地区)

平成19年6月13日 参加者 20人

サポーター 3人(内 社協2人)

③元気アップ☆スクール (特定高齢者施策一通所型介護予防事業)

平成19年 9月11日(火) 参加者 25人

サポーター 3人

平成20年11月15日(木) 参加者 19人

サポーター 4人

## 事例4 桐生市における介護予防サポーター事業への取り組み

### 1 介護予防サポーター養成研修実施状況

年度	初級	中級	計
18	113人	73人	186人
19	132人	105人	237人
計	245人	178人	423人

### 2 介護予防ボランティア団体の立ち上げ

#### (1) 桐生市地区介護予防サポーターの立ち上げ等

- ① 13地区12団体103人（公民館等を活動拠点）の立ち上げ
- ② 平成19年10月2日から19年12月14日までの間で30回開催
- ③ アドバイザー：地区在宅介護支援センター職員
- ④ 会議内容：

##### 《事業方針》

##### イ 基本方針

介護予防の必要性や、「元気高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を理解し、介護予防サポーターが活動の中心となって事業の推進を図り、それを行政が支えていくことを基本とし、そのため介護予防サポーター養成研修を実施。本市においては「元気高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を基本方針とする。

##### ロ 組織体制の整備

元気高齢者が「真の自立支援」「介護予防」「安心して暮らせる地域づくり」を理解し、活動の中心となり自らが介護予防に取り組むという理念に基づいた組織体制を整備する。

##### ハ 普及啓発活動と会員の入会促進

市広報及びホームページ、また団体等を通じて入会を呼びかけていく。

##### ニ 会員の資質の向上・ボランティア活動の推進

##### ホ 中・長期的運営計画の策定

介護予防サポーターが育ってきたら、市で実施している一般高齢者向け介護予防教室等の委託等を視野に入れていく。

##### 《事業計画》

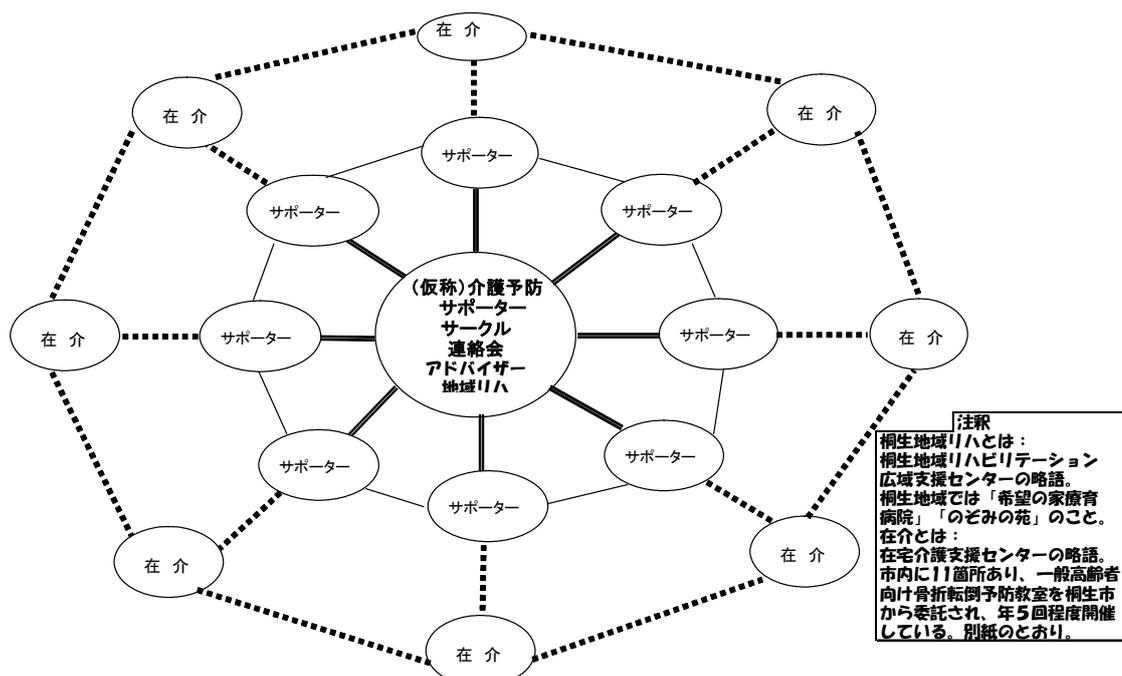
##### イ 自主的事業

##### ロ 桐生市介護予防事業への参加及び支援

#### (2) 桐生市地区介護予防サポーター連絡会の立ち上げ等

- ① 各地区介護予防サポーター会長の連絡・調整などを協議する連絡会の立ち上げ
- ② 平成19年12月25日及び20年2月12日の2回開催
- ③ アドバイザー：桐生地域リハビリテーション広域支援センター職員

(3) 桐生市地区介護予防サポーターイメージ図



3 桐生市地区介護予防サポーター連絡会総会及び介護予防講演会の開催

平成20年3月26日(水)、20年度からの介護予防サポーターの活動を開始するにあたり、介護予防サポーターが一同に会し総会を実施するとともに浅川康吉群馬大学医学部保健学科准教授による介護予防講演会(演題:地域に助けよう筋トレの輪)を開催し、介護予防サポーターの意識高揚を図る。

また、介護予防講演会は一般高齢者へは広報による周知を行うと共に、老人クラブ及び民生委員へは参加を呼びかけ、介護予防についての普及啓発を行なう。

4 平成20年度桐生市からの介護予防サポーターへの支援

- (1) ボランティア傷害保険への公費での加入
- (2) 市主催による上級研修(筋トレ教室)の開催

5 平成20年度桐生市地区介護予防サポーターの取り組み

「元気高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を基本に、介護予防サポーターが以下の市介護予防事業へ参加及び支援することにより、介護予防サポーターによる「健康づくり」「仲間づくり」「地域づくり」を目指し、ボランティア活動に取り組む。

- (1) 介護予防サポーター養成研修(上級)への参加
- (2) 介護予防サポーター養成研修(初級・中級)への支援(受付等)
- (3) 介護予防講演会への参加及び支援(受付等)
- (4) 一般高齢者向け転倒骨折予防教室・栄養改善事業・口腔ケア事業への参加及び支援

## 事例5 介護予防サポーターで元気高齢者の町づくり

### ～吉岡町における介護予防サポーターの活用事例について～

吉岡町役場 健康福祉課 福祉室 主任 永井 勇一郎

『介護予防で元気高齢者の町づくり』を実現するために・・・

吉岡町の高齢者が豊かな経験と知識を活かしながら活躍できる地域社会の創造と実現を目指し、以下の取り組みを行います。

- 一 介護予防の取り組みを推進し、元気なうちから健康でいきいきと暮らしていける地域社会をつくれます。
- 一 介護予防の必要性を認識し、地域の特性を踏まえた介護予防活動を実践します。
- 一 認知症や寝たきりを予防し、元気高齢者になることに努めます。

吉岡町では、この目標の実現のために町の介護予防事業に協力してくれるボランティアの育成を目的として、平成18年度に介護予防サポーター初級・中級養成講座を実施しました。

#### 介護予防サポーター養成講座実施状況

	初級	中級	上級	その他※1
平成18年度	99人	46人	—	7人
平成19年度	—	—	11人※2	

※1 「その他」とは、サポーター養成講座を受講していないボランティアの人数

※2 上級サポーターは、現時点（平成20年3月現在）で、認定要件を満たしている人数

#### 吉岡町介護予防サポーターの紹介

サポーターの名称	会員数（平成20年3月1日現在）				合計
	初級	中級	上級	その他	
四つ葉介護予防サポーター	6名	24名	11名	7名	48名

四つ葉介護予防サポーターは、平成19年度から本格的に活動を開始しました。

事務局を吉岡町地域包括支援センターに置き、サポーターに対して介護予防事業への協力依頼を行います。また、活動内容にサポーターの意見を広く反映させるために、隔月でミーティングを開催し、サポーター活動に関する意見交換や情報提供などを行っています。

#### 平成 19 年度介護予防サポーター活動実績

実施月	事業名称	活動内容
5月 11月	高齢者筋力トレーニング合同体力測定会	測定員（春と秋の2回）
11月	シルバー大学院① 『歩け歩け宝探し（オリエンテーリング）』	事業の運営ボランティア
3月	シルバー大学院② 『ハッスル ハッスル 運動会』	〃
隔月	サポーター・ミーティング	事業の反省や今後の活動内容についての話し合い

平成 19 年度は、活動の場を提供するだけでなく、サポーターが上級へスキルアップするための講習（上級養成講座）やフォロー研修（介護予防教室）などにも力を入れました。

#### 平成 19 年度介護予防サポーター研修実績

実施月	事業名称	内容
10月	シルバー大学院①（研修項目：認知症予防） 『認知症予防のお話とトレーニング』	一般高齢者とサポーターを対象とした介護予防教室
12月	シルバー大学院②（研修項目：栄養改善） 『食事バランスガイド』	〃
1月 2月	上級サポーター養成講座 （研修項目：感染予防、栄養、住環境、運動）	中級サポーターを対象にした上級養成カリキュラム
2月	シルバー大学院③（研修項目：口腔衛生） 『お顔の体操』	一般高齢者とサポーターを対象とした介護予防教室

#### ◆今後の活動目標について

活動1年目は、介護予防の必要性やサポーターの役割を認識してもらうことを主眼に活動を展開しました。2年目からは、特定高齢者の見守り活動や介護予防プログラムへの参加支援など、地域に密着した主体的な活動ができる自主グループへと転化させたい。

また、サポーターの紹介や活動報告を積極的に住民に周知し、地域活動で住民の理解と協力が得られるようにするとともに、関係機関及び団体との協力体制の強化を図りたい。



## Ⅷ. 資料 アンケート用紙

### 地域リハ広域支援センター 介護予防サポーター育成事業担当者アンケート

このアンケートは平成18年度に介護予防サポーターを育成するにあたり、地域リハ広域支援センターがどのような課題を抱えたかを調べ、今後の改善に役立てるためのものです。お忙しいところを誠に恐れ入りますが、回答を12月17日(月)までに同封の返信用封筒にて群馬リハネット事務局宛にお願いします。

選択は該当するものに○、記述は( )内にできるだけ簡潔に箇条書きで記入をお願いします。現場の意見が反映された回答をお願いします。

センター名 ( )

- 介護予防サポーター制度は、介護予防の推進にどの程度役立つとお考えですか  
該当する数字に○を付けてください。

8      7      6      5      4      3      2      1      0

とても  
役立つ

どちらとも  
言えない

全く役立  
たない

そう考えた理由は

( )

1) 平成18年度の介護予防サポーター育成は順調でしたか      1 はい    2 いいえ

2) 平成18年度の介護予防サポーター育成のための予算は足りていましたか

1 はい    2 いいえ

3) 介護予防サポーターの育成事業について20年度以降どのようにしたいですか

1 サポーターの育成をやめたい

具体的な理由

( )

2 サポーターの育成を続けたい

具体的な理由

( )

4) 講師は何人中何人が広域支援センターの職員でしたか

平成18年度は講師 ( ) 人中 → 広域支援センターの職員 ( ) 人

5) 広域支援センターで対応できない講師はどこにお願いしましたか

(複数回答可)

- 1 講師バンク    2 市町村    3 地域包括支援センター    4 医師会
- 5 栄養士会    6 看護協会    7 理学療法士会    8 作業療法士会
- 9 言語聴覚士会    10 歯科衛生士会    11 健康運動指導士会
- 12 地域リハ支援施設    13 歯科医師会    14 社会福祉士会
- 15 医療ソーシャルワーカー協会
- 16 その他 ( )

6) 研修教材の使いやすさはどうでしたか

- 1 良い    2 ふつう    3 悪い

7) 研修教材に改善点がありましたらお願いします (複数回答可)

- 1 資料を少なくして欲しい    2 映像を多く使って欲しい
- 3 専門用語を少なくして欲しい    4 イラストを多くして欲しい
- 5 その他 ( )

8) 介護サポーター育成事業について改善点がありましたらお願いします

( )

9) 広域支援センターの立場から見て、平成18年度に育てた介護予防サポーターを市町村はうまく活用していますか ( ) 内に市町村名を記入して下さい

- ( ) は    1 はい    2 いいえ



13) 本事業を行うにあたり、市町村との役割分担はどうですか (市町村ごとに記入)

- |   |      |   |    |   |     |   |    |
|---|------|---|----|---|-----|---|----|
| ( | 市町村) | 1 | 良い | 2 | ふつう | 3 | 悪い |
| ( | 市町村) | 1 | 良い | 2 | ふつう | 3 | 悪い |
| ( | 市町村) | 1 | 良い | 2 | ふつう | 3 | 悪い |
| ( | 市町村) | 1 | 良い | 2 | ふつう | 3 | 悪い |
| ( | 市町村) | 1 | 良い | 2 | ふつう | 3 | 悪い |

その他

[ ]

14) 市町村がどんな介護予防サポーターを育てたいかの意向を把握できていましたか

- 1 はい 2 いいえ 3 できた市町村とできない市町村があった

15) 市町村の介護予防事業に今後も協力していきたいですか

- 1 はい 2 いいえ

「1 はい」の広域支援センターは、どんな協力をしていきたいですか

- 1 初・中級研修 2 講師の仲介  
3 市町村の実施する上級研修への支援  
4 市町村の介護予防サポーター活用への支援 (フォローアップ研修など)  
5 その他 [ ]

16) 介護予防サポーターの育成に対し、市町村間に温度差がありますか

- 1 ある 2 ない 3 わからない

**温度差がある**広域支援センターでは、圏域内の市町村間の温度差をなくすために何らかの対応を行っていますか。

- 1 行っている [ ]

- 2 行っていない

ご協力ありがとうございました

## 平成 18 年度介護予防サポーター中級研修修了者アンケート

介護予防サポーター中級研修まで修了した方に現在抱えている課題等をお伺いし、サポーター研修や活動の改善に役立てます。お忙しいところを恐縮ですが設問にご回答の上 1 月 20 日（木）までに同封の返信用封筒にて無記名で返送願います。

選択は該当する項目に○印を、記述は（ ）内にできるだけ簡潔に願います。

- 1) 住んでいる市町村はどこですか（ ）
- 2) あなたの年齢を伺います  
1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70代 7 80代
- 3) 性別は 1 男 2 女
- 4) あなたの、家族への介護状況について伺います  
1 現在介護をしている 2 かつて介護経験がある 3 介護経験なし
- 5) 今の健康状態はいかがですか  
1 とても良い 2 やや良い 3 ふつう 4 やや悪い 5 悪い
- 6) 介護予防サポーター以外のボランティア活動をしたことはありますか  
1 はい 2 いいえ
- 7) 群馬県NPO・ボランティア推進課の「体験ボランティア※」に参加したことがありますか 1 はい 2 いいえ  
※体験ボランティアとは、県民の市民活動への理解と意識を高めるために行われているもので、高校生以上のNPO・ボランティア活動に関心のある方が5日以上ボランティアを体験する制度です。
- 8) 現在の就労状況を伺います。  
1 毎日働いている 2 日によって働いている  
3 専業主婦・主夫 4 働いていない
- 9) なぜ介護予防サポーターに参加しようと思いましたが、どちらか一つ選び、参加しようとした第一の理由を〔 〕の中に記入して下さい。

- 1 自分のため 2 他人のため

〔 〕

- 10) 中級研修の受講を決めたとき、介護予防サポーター（ボランティア）として活動する考えはありましたか
- 1 あった 2 なかった

初・中級介護予防サポーター研修についてお聞きします。

- 11) 初・中級研修での講師の教え方はどうでしたか
- 1 とても満足 2 やや満足 3 やや不満 4 とても不満
- 12) 初級研修は理解できる内容でしたか
- 1 はい 2 ふつう 3 いいえ
- 13) 中級研修は理解できる内容でしたか
- 1 はい 2 ふつう 3 いいえ
- 14) 中級研修の実施期間（3日間）はどうでしたか
- 1 短い 2 適切 3 長い
- 15) 中級研修で学んだこと（運動・口腔ケア・栄養改善・認知症予防など）を自ら実践していますか
- 1 はい 2 どちらともいえない 2 いいえ
- 16) 中級研修でもっと学びたい内容を選んでください。
- （その他を選んだ方は〔 〕に記入）
- 1 介護予防総論 2 運動・筋トレ 3 口腔ケア
- 4 認知症予防 5 栄養改善 6 地域づくり
- 7 その他 [ ]
- 17) 中級研修で改善して欲しいところがありましたら提案をお願いします。

- 18) 介護予防サポーターになることを周囲の人に勧めたいですか
- 1 すすめたい 2 どちらともいえない 3 すすめたくない

理由 ( )

19) 学んだ知識がサポーター活動に役立っていますか

- 1 とても役立つ (設問20へ)      2 やや役立つ (設問20へ)  
3 あまり役立たない (理由選択へ)      4 ほとんど役立たない (理由選択へ)

「3あまり役立たない、4ほとんど役立たない」の項目を選んだ方は、その理由を選んで下さい。該当する項目がなければその他に記入をお願いします。(複数回答可)

- 1 サポーター活動をしていないから  
2 サポーターの活動の機会が少ないから  
3 サポーター活動には初・中級研修で学んだ知識を生かせる場がない  
4 サポーター活動に役立つより自分に役だった実感が強いから  
5 学んだ知識を役立てるという目標をもっていないから  
6 その他 ( )

介護予防上級サポーターについて、全員にお聞きします。

上級は、市町村の介護予防事業に15時間程度参加する上級研修の受講により、市町村が認定します(研修内容は市町村ごとに異なります)。

20) 上級サポーター研修に参加しましたか

- 1 参加した(次の設問へ)      2 参加しなかった(設問24へ)  
3 わからない(設問24へ)

上級研修に参加した方のみご回答下さい。

21) 上級研修の満足度について、数字に○を付けてください。

- 5 とても満足    4 やや満足    3 どちらでもない    2 やや不満    1 かなり不満

22) 上級サポーター研修では何をもっと体験してみたいですか。(複数回答可)

- 1 筋トレ教室参加者の会場での案内と声掛けの体験
- 2 体力測定(握力等)の補助の体験
- 3 デイサービスでの見守りや声掛けの体験
- 4 筋トレや唾液腺マッサージなど介護予防技術の体験
- 5 その他( )

23) 上級研修で改善してほしい点がありましたら記入をお願いします。

( )

全員がお答え下さい。

介護予防サポーター(中級または上級)としての活動についてお尋ねします。

24) 介護予防サポーター制度は、介護予防の推進にどの程度役立つとお考えですか。該当する数字に○を付けてください。

8      7      6      5      4      3      2      1      0

とても  
役立つ

どちらとも  
言えない

全く役立  
たない

そう考えた理由は

( )

25) 介護予防サポーター(中級または上級)として活動をしていますか

- 1 はい
- 2 いいえ (設問29へ)

介護予防サポーターとして活動している方へお尋ねします。

26) 直近3ヶ月の活動頻度はどれぐらいですか

- 1 活動なし
- 2 1回
- 3 2回~3回
- 4 4回~5回
- 5 6回
- 6 7回~11回
- 7 12回以上

27) これまで市町村の行う事業のなかで、介護予防サポーターはどんな活動をしていますか（研修以外で）

( )

28) あなたの介護予防サポーター活動に対する気持ちはどれですか

- 1 活動する場を自ら広げ活動していきたい
- 2 現状通り活動していきたい
- 3 その他

( )

(設問30へ)

設問25で「2いいえ」（活動していない）と回答された方にお尋ねします。

29) あなたの介護予防サポーターの活動に対する気持ちはどれですか

- 1 活動したい
- 2 活動したくない

「1活動したい」と答えた方（活動したいが活動していない方）は、その理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

- 1 参加できる市町村の事業がない
- 2 仕事があり暇がない
- 3 他の用事や趣味で暇がない
- 4 気力や体力がもたない
- 5 活動に必要な交通手段がない
- 6 事故が起こった時が怖い
- 7 その他 ( )

「2活動したくない」と答えた方（活動したくなくて活動していない方）は、その理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

- 1 やりがいがない
- 2 仕事があり暇がない
- 3 他の用事や趣味で暇がない
- 4 気力や体力がもたない
- 5 活動に必要な交通手段がない
- 6 事故が起こった時が怖い
- 7 その他 ( )



- 38) 食費は有償・無償のどちらが良いですか      1 有償      2 無償
- 39) ボランティア保険は個人あるいは自治体負担のどちらがよろしいですか  
1 個人      2 自治体
- 40) 介護予防サポーターの活動頻度は1ヶ月に何回程度を希望していますか  
月(      )回程度
- 41) 市町村のなかで介護予防サポーターを生かすにはどのようにすれば良いと考えていますか



ご協力ありがとうございました

アンケートの返信先

371-8514 前橋市昭和町 3-39-15  
群馬大学医学部保健学科 地域リハPJ 室内  
群馬リハネット事務局

アンケートの問い合わせ先：群馬リハネット事務局 浅川、角田

Tel & Fax: 027-220-8966 E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp

## 市町村介護予防サポーター育成担当者アンケート

このアンケートは、平成18年度の介護予防サポーター育成で市町村がどのような課題を抱えたかを調べ、今後の改善に役立てるものです。お忙しいところを誠に恐れ入りますが、設問をお読みいただき、回答をお願いします。選択は該当するものに○を付け、記述は( )内にできるだけ簡潔に箇条書きで記入をお願いします。担当者の意見を反映させていただければ幸いです。返信は12月17日(月)までに同封の返信用封筒にて群馬リハネット事務局宛をお願いします。

なお、設問は平成18年度に育成した介護予防サポーターについてのものです。

市町村名 ( )

- 介護予防サポーター制度は、介護予防の推進にどの程度役立つとお考えですか  
該当する数字に○を付けてください。

8      7      6      5      4      3      2      1      0

とても  
役立つ

どちらとも  
言えない

全く役立  
たない

そう考えた理由は

( )

### 1. 平成18年度介護予防サポーター 初・中級研修の実施について

2) 平成18年度は市町村の意向に沿った初・中級研修ができましたか

5      4      3      2      1

できた ややできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった

2または1を選んだ方はどのような点が意向に沿わなかったですか

( )

2) 平成18年度の初・中級研修で広域支援センターとの連携はどうでしたか

1 良い    2 ふつう    3 悪い

3) 平成18年度の初・中級研修で広域支援センターとの役割分担はどうでしたか

1 良い    2 ふつう    3 悪い





上級研修をこれまでに実施した市町村は以下にお答え下さい。

- 15) 上級サポーター育成カリキュラムについてお尋ねします。どこでどんな事業（内容）に何時間程度関わっているのか具体的に記入して下さい。そして上級サポーターを育成するうえで、どの事業に力を入れているか記入をお願いします。

	事業の種別	時間	場所
1			
2			
3			

力を入れている事業

( )

- 16) 上級研修の修了証を発行していますか？ 1 はい 2 いいえ

はいの場合、発行者は ( )

いいえの場合、理由は ( )

- 17) 平成18年度の中級研修は何人で、そのうち何人がこれまでに上級研修を修了しましたか

中級修了 ( ) 人中→平成18年度中に上級修了 ( ) 人

平成19年度になってから上級修了 ( ) 人

- 18) 上級研修の運営は順調ですか

1 はい 2 いいえ (理由を記入)

「2 いいえ」と答えた方はどうしてですか

( )

全市町村がお答え下さい

3. 介護予防サポーター活用の現状について

19) 1年前に介護予防サポーターをどのように育てれば良いかイメージをもっていましたか  
1 はい 2 いいえ

20) 平成18年度に育てた介護予防サポーター登録者のうち介護予防サポーターとして活動しているのは何人ですか。空欄に人数を記入して下さい。

	活動している人	活動していない人	計
中級サポーター			
上級サポーター			

21) 貴市町村では介護予防サポーターを何人育成すれば良いと考えていますか  
中級 ( ) 人 上級 ( ) 人 わからない

22) 平成18年度に登録された介護予防サポーターを活用していますか  
1 はい(続く) 2 いいえ(次ページの理由記載欄へ)

「はい」の場合、介護予防サポーターをどのような事業に活用していますか

[ ]

「はい」の場合、介護予防サポーターはどのように役だっていますか(具体的に)

[ ]

(設問23へ)

「いいえ」の場合、介護予防サポーターを活用できない理由は何ですか

[ ]

23) サポーターからこんな活動をしたいという申し出や希望がありますか

- 1 はい 2 いいえ

はいの場合、どんな活動をしたいと希望していますか

( )

24) 自主グループに育てたいと考えていますか

- 1 はい 2 いいえ

はいの場合、育てるならどのような支援が必要と考えますか

( )

25) 貴市町村では、介護予防サポーター活動を広く周知し、地域での受け皿を広げるため

どのような広報活動を行っていますか

( )

26) 現在、ボランティアへの報酬は 1 有償 2 無償

有償の場合はその額をお書き下さい。時給 日給 月給 ( ) 円

27) 食費の支給 1 支給 2 なし

支給している場合、 ① 1食 ( ) 円支給 ② 食事を現物支給

28) 交通費の支給 1 あり 2 なし

給付している場合は 定額なら1回 ( ) 円

その他 ( )

29) ボランティア保険の加入状況について記入をお願いします。

- 1 加入していない 2 加入 (A個人 B自治体) 3 労災保険

加入の場合は具体的に民間の損害保険 補償額1日 ( ) 円

30) 介護予防サポーターを中心としたサロン活動を実施していますか

- 1 はい 2 いいえ

活動の具体的内容 ( )

31) 今後、介護予防サポーターを育てていく考えはありますか。どちらか一つを選びその理由をお書き下さい。

- 1 今後も育てたい 2 今後は育てたくない

理由

( )

「1 育てたい」と答えた方は、今後の予算や運営をどのように考えていますか。

- 1 現行通り県に予算を組んでもらい広域支援センターと協力しながら実施していきたい。  
2 市町村独自の予算を組んでも実施していきたい。  
3 その他 ( )

32) 介護予防サポーター活動に関わるうえで、市町村担当職員のかかえる課題がありましたらお願いします。

( )

ご協力ありがとうございました

群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会名簿

<委員>

区分	所属	役職等	氏名
学識経験者	群馬大学医学部保健学科	教授	山口 晴保
学識経験者	群馬大学医学部保健学科	准教授	浅川 康吉
学識経験者	東京福祉大学社会福祉学部	教授	田中 聡一
地域リハ 広域支援 センター	榛名荘病院 (高崎安中地域リハ広域支援センター)	理学療法士	新谷 和文
地域リハ 広域支援 センター	沢渡温泉病院 (吾妻地域リハ広域支援センター)	医療ソーシャルワーカー	村上 千穂
市町村	桐生市高齢福祉課長寿支援係	課長補佐	兵藤 明
市町村	吉岡町健康福祉課福祉室	主任	永井 勇一郎

<事務局>

事務局	群馬県健康福祉部介護高齢課	課長	江口 哲郎
事務局	群馬県健康福祉部介護高齢課	次長	羽鳥 光博
事務局	群馬県健康福祉部介護高齢課 包括支援G	G L	茂原 千明
事務局	群馬県健康福祉部介護高齢課 包括支援G	係長	尾池 久美子
事務局	群馬県健康福祉部介護高齢課 包括支援G	係長	斉藤 太郎

この事業は厚生労働省の平成19年度老人保健事業推進費等補助金  
(老人保健健康増進等事業分)により実施したものです。

### 謝辞

アンケートにご協力頂きました、地域リハ広域支援センター担当者、市町村の担当者および介護予防サポーターの方々に深謝します。また、アンケート調査の取り纏めと報告書作成に多大な貢献を頂きました群馬リハネット事務局の深澤昌子様（群馬大学大学院博士後期課程在学）と、アンケートの発送や事務手続きでお世話になった角田祐子様に深謝します。

「群馬県における介護予防サポーター育成による  
介護予防意識の普及とその効果の研究」  
群馬県介護予防サポーター育成調査報告書

平成20年3月

群馬県介護予防サポーター育成調査検討委員会  
(事務局：群馬県健康福祉部介護高齢課内)  
協力：群馬リハビリテーションネットワーク